

326

278



始



326

278

靜岡縣農業經營事例

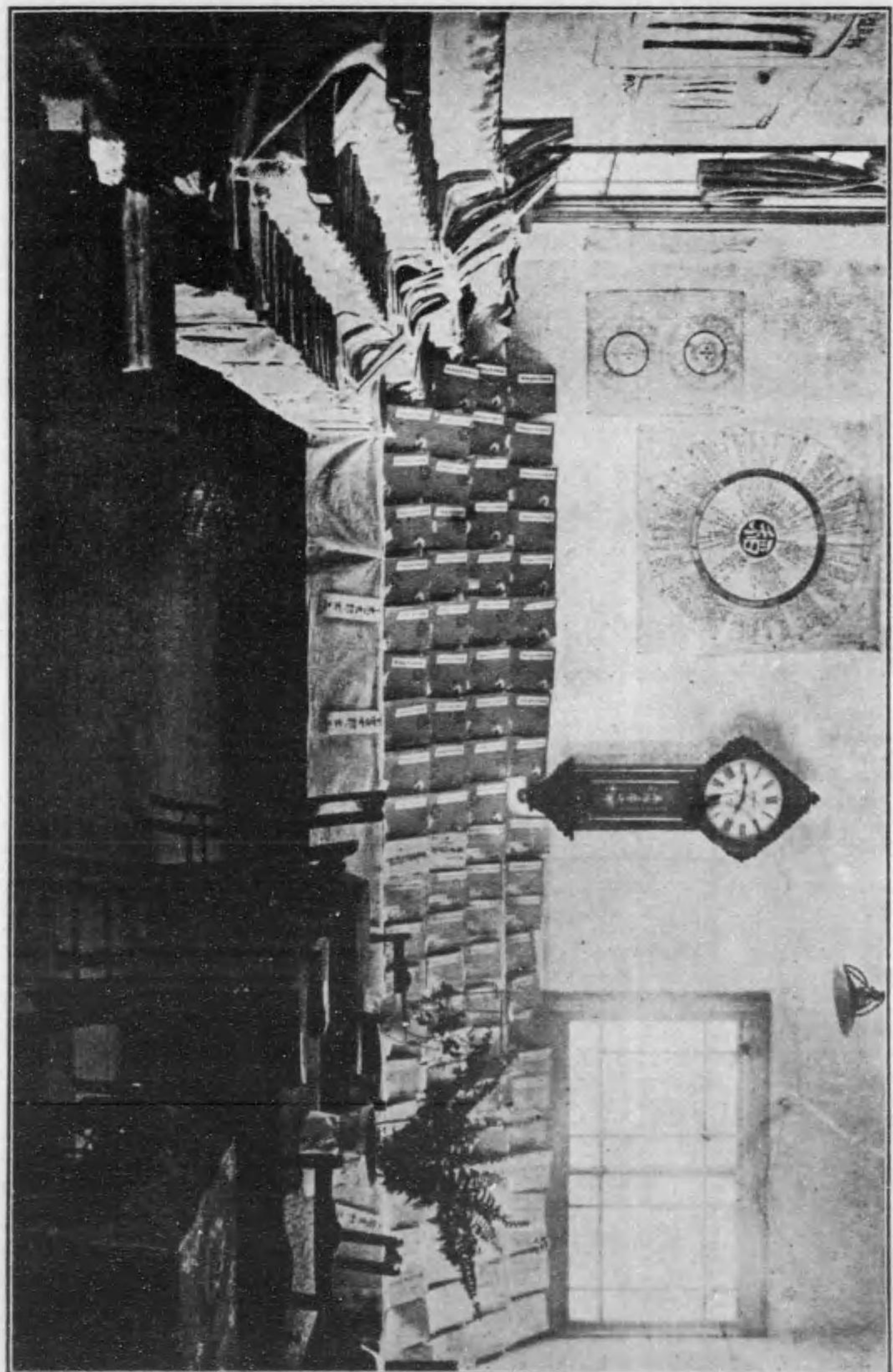
326-278



静岡縣農業經營事例

大正
6. 9. 27
内交

靜岡縣農業會評品會場之景



靜岡縣農業會評品會場之景
(大正六年三月靜岡縣農會)

凡例

- 一、本書は大正六年三月十五日より三月廿三日に至る本會主催静岡縣農業經營品評會の出品物を編纂せるものあり
- 二、第一編は豫め本縣農業の狀態の一般を掲げ特に本書に記載せる出品物と其趣を異にするを明かにす亦經營品評會の性質審査方法出品人竝に出品物の概評を掲ぐ
- 三、第二編及第三編に於ては出品物中讀者の參考に富むものを撰拔し第四編の計數的調査と相待つて出品物の大要を知るに便す
- 四、第四編に於ては全出品物を盡く網羅する能はざるが故に單に計數的部分のみに就て統一記載せり
- 五、第四編に於ける各章の平均數は各項及各項の總計と一致せず

蓋し出品者中には往々項目中缺如せるものあり然れども便宜上
其具はれる數のみを以て其總計を除して假りに平均數とし掲げ
たる爲めなり素より正確の數にあらざるも無きに勝ると信ずれ
ばかり

大正六年九月

静岡縣農會

静岡縣農業經營事例

目次

第一編 本縣に於ける農業と農業經營品評會出品物	
第一章 本縣に於ける農業組織の概要	一
第二章 農業經營品評會規定同審査例規	六
第三章 經營品評會審査概評	一一
第四章 農業經營品評會出品者名	一七
第二編 農業經營の一斑	
第一章 駿東郡長泉村の養蠶兼營普通農業	三一
第二章 富士郡岩松村の茶業を主とする農業	四七
第三章 富士郡加嶋村の梨業兼營普通農業	七六
第四章 庵原郡西奈村の茶業兼營普通農業	九七
第五章 志太郡朝比奈村の製紙椎茸兼營普通農業	一二八
第六章 志太郡豊田村の普通農業	一五二

第七章 榛原郡萩間村の茶業兼營普通農業……………一九七

第八章 小笠郡六合村の茶業兼營普通農業……………二二五

第九章 小笠郡大池村の茶業兼營普通農業……………二四二

第十章 周智郡熊切村の茶業山林兼營農業……………二六三

第十一章 周智郡久努西村の養蠶兼營普通農業……………二七六

第十二章 磐田郡長野村の養蠶兼營普通農業……………二八八

第十三章 引佐郡中川村の蠶表兼營普通農業……………三一〇

第十四章 引佐郡氣賀町の養蠶園藝兼營農業……………三三三

第二編 特殊的農業事例

第一章 田方郡函南村の副業的家畜飼育……………三五九

第二章 駿東郡印野村の養蠶の經營……………三七〇

第三章 安倍郡三保村の促成栽培の經營……………三七七

第四章 安倍郡久能村の胡瓜栽培の經營……………三八二

第五章 安倍郡千代田村の養鶏經營……………三八七

第六章 安倍郡久能村の草苜石垣栽培……………四〇五

第七章 小笠郡垂木村の稻作經營……………四〇九

第八章 周智郡飯田村の副業的製筵業……………四二四

第九章 周智郡城西村の副業的養蠶業……………四二七

第十章 濱名郡伊佐見村の蕃椒の經營……………四三三

第十一章 濱名郡飯田村の蔬菜の輪栽法……………四四三

第十二章 引佐郡氣賀町の蠶表經營法……………四五一

第十三章 引佐郡西濱名村の柑橘園經營法……………四六五

第四編 農業經營の計數的調査

第一章 經營反別固定及流通資本表……………二

第二章 家族、一町步當り資本、營業收入表……………二二

第三章 營業支出費明細表……………四〇

第四章 家計收入及支出表……………五八

第五章 郡市別平均表……………七四

静岡縣農業經營事例

第一編 静岡縣の農業と農業經營品評會出品物

第一章 本縣に於ける農業組織の概要

本縣農家の農業上に利用する耕地面積は頗る狭少なり蓋し本縣の面積は四百九十二方里にして本邦諸府縣中第十一位を占む其内御料地二十一万二千八百六十五町步(分三厘)官有地五千三百三十町步(七厘)民有地五

十萬八千五百二十三町步(七割)合計七十二萬六千七百十八町步なり
民有地を分類すれば有租地四十九萬九千三百四十七町步免租地九千七百七十六町步有租地を分類すれば田六

萬三千二百〇二町步(一割三厘)畑六萬七千二百六十八町步(一割三厘)宅地六千九百二十四町步(一分四厘)山林二十七萬
〇五百四十五町步(五割五厘)原野其他雜種地七萬八千六百六十三町步(分七厘)とす即ち本縣の耕地は總面積の一
割六分餘に相當し一戸當り田四反四畝〇三步畑四反六畝十三步合計九反〇十六步なり民有有租地の地價は
合計四千六百五十九萬七千九百八十九圓にして内田二千五百六十一萬三千六百四十七圓畑六百八十八萬二
千七百十六圓宅地一千三百二十六萬二千三百三十九圓山林七十四萬三千六百〇一圓原野七萬二千六百十九
圓其他二萬三千〇六十七圓にして田一反歩平均地價四十圓六十三錢畑同十圓二十三錢なり耕地を自小作の
關係より觀察するに田に於ては其四割四分二厘は自作地にして五割五分八厘は小作地なり而して小作反別
は多少減少の傾向あり畑に於ては五割五分強は自作地にして四割四分強は小作地なり而して小作地は多少

増加の傾向あり

猶田の四割五分は二毛作以上に利用さるゝも五割五分は未だ一毛作を行ふに過ぎず此等の耕地中牛馬耕を爲す反別は田に於ては三割九分五厘にして畑に於ては四分二厘に過ぎず而して牛馬耕は田にありては漸次盛んに行はるれども畑にありては却て減少するの傾向あり

猶土地所有の状態竝に耕作面積等より觀察するに五反歩以下の田畑所有者五割以上を占め一町歩以上の所有者は僅かに二割餘に過ぎず其耕作面積より見るも一町歩以内のもの大部分にして總農家の七割四分を占む而して全く耕地を所有せざるもの一万戸以上に及ぶ總農家中、自作者は二割七分にして自作兼小作農家四割八分全く小作するもの二割四分に及ぶ其詳細を示す時は左の如し

田畑所有別農家戸數 (大正四年末)

農 戸 數	五反未満	五反以上	一町以上	三町以上	五町以上	十町以上	五十町以上	合
同上割合	七七、七五四 五二、〇%	三七、八六五 二五、三%	二五、四四三 一七、〇%	五、三四二 三、五%	二、一八四 一、四%	七五三 〇、五%	五九一四九、四〇〇	計

田畑耕作面積別農家戸數 (大正四年末)

農 戸 數	五反未満	五反以上	一町以上	二町以上	三町以上	五町以上	合
同上割合	六〇、四三五 三七、八%	五八、〇八三 三六、三%	三二、四五四 二〇、三%	七、〇二九 四、三%	一、五二二 〇、九%	二八一 一五九、八〇四	計

自作小作別農家戸數 (大正四年末)

戸 數	自作	小作	自作兼小作	農家合	計
合	四三、七三四	二七、三%	三九、二四七	七六、八二三	一五九、八〇四
割			二四、五四%	四八、一%	一〇〇

農業の資金は比較的其運轉流用能く行はるゝと雖亦往々固定澁滯するを免れず流通資本は其經營複雑にして集約なるの結果一般に之を利用すること大なり
栽培する作物の種類は七十種以上に及び其一ヶ年の産額は五千八百餘万円に達す而して其内約四割は海外輸出を爲すものとす左に此等の作物を類別して其土地利用竝に生産價額の歩合を示す

穀 菽 類	六五、二八%	價 額 割 合	五四、五八%
蔬 菜 類	七、二九		一三、〇九
果 實 類	二、四八		四、三八
特用作物類	一五、〇五		二六、四〇
綠肥作物類	八、八四		一、二三
休閒地其他	〇、九八		〇、二九
合 計	一〇〇		一〇〇

農家の収入を組成するものは作物並に養蠶を主とすと雖此他家畜、水産、林産又は特種の副業ありて單純なる經營組織のものは極めて乏し而して其狀態大要地方によりて特色あり即ち之を郡市別に其組織の特色と見るべきものを示す時は

賀茂郡 農家の多くは林産、水産の收入あり經營集約ならず金肥等を使用すること尠なし

田方郡 農家の多くは養蠶を兼營す林産、水産あり園藝を行ふもの尠なからず而して一般に畜産特に乳牛を飼養す

駿東郡 農家の多くは養蠶を行ふ甘藷、小麦等を賣却する額大なり亦開墾地に富むを以て此地方には粗放的經營を試む海岸附近には園藝盛んなり

富士郡 北部地方は養蠶を行ふもの多し亦煙草栽培を爲す南部は園藝特に梨樹栽培盛んなり茶業も亦見るべし

庵原郡 茶、養蠶等行はる而して一般に園藝特に柑橘栽培を盛んに行ふ

安倍郡 一般に園藝を行ふ即ち柑橘、梨等を主とす而して中部以北にては茶、養蠶等亦見るべし林産亦尠なからず

志太郡 柑橘、茶の栽培盛んに行はる米穀も亦他に移出するに足る海岸地方にては漁業の利大なり山深く林産に富む

榛原郡 一般に茶業盛んなり南部にては甘藷切干を製して移出す漁業の利あり

小笠郡 一般に茶業盛んなり米穀も他に移出す南部地方にては養蠶普通に行はる

周智郡 茶業一般に普及し良品を出す林産に富む北部にては養蠶を行ふ

磐田郡 養蠶、茶業等錯雑分布す甘藷切干の産額大なり園藝特に蔬菜、煙草栽培等行はる

濱名郡 養蠶、煙草、蔬菜、園藝等盛んに行はる特に薑、絲瓜、落花生等は最も本郡に多く産し經營一般に集約なり

引佐郡 養蠶、琉球蘭蓆等盛んに行はる又柑橘、薑其他の特種の産物あり經營一般に複雑なり

静岡市 水田特に一毛作地多きを以て經營單純なり

濱松市 蔬菜園藝一般に行はる能く土地を利用す

之を要するに本縣の農業組織は氣候の良好、交通の便利、學術の應用、教育の普及、資金充實等によりて著しく面目を革めたり

現今農家の經濟を助長するに與つて力ある多くの作物の如きは近く十數年若しくは數十年前より始めて一般に普及せるものなり即ち現時の茶若しくは桑樹を植栽せる地方は數十年前に於ては生産價値の乏しき壽苳の如き作物を栽培せられ遠州地方に於ける煙草、桑、薑、落花生等の栽培地は曩には主として木綿を栽培せるものなり又等しく米麥其他の作物と雖其一定面積よりの産額著しく増進せるは栽培技術の大きな進歩を示すものなり其最も著しき例を示せば從來は施肥法の如き菜種粕を用うるものは菜種粕のみを用ひ練粕を使用するものは即ち練粕のみを用うるが如く其成分の何たるを解せずして専ら肥料を單用する

を普通とせるが斯の如きもの全く後を絶つに至れり
資金の充實は器械器具の設備漸次改良せられ従つて労働能率を高め勞力の需給關係上に大なる變化を生じ
工業的農業の勃興若しくは副業の普及等を見るに至れり然れども之を大局より見る時は本縣の農業組織は
恰も過渡期に在りて古きもの將に去らんとして新しきもの未だ來らず細心の注意を要するもの大なり

第二章 農業經營品評會規定

本會を開くに當りては豫め左の規定並に出品に關する注意を印刷配布せり而して郡農會にては之に基きて
猶は詳細なる注意と指導とを行へり

第一回静岡縣農業經營品評會規定

第一條 農業經營ノ改善並ニ智識普及ヲ目的トシテ静岡縣農業經營品評會ヲ開設ス

第二條 本會ハ静岡縣農會ノ主催トシ縣下一般ノ當業者並ニ團體其他ノ出品ヲ募集陳列シ衆庶ノ縦覽ニ
供ス

第三條 本會ノ會場ハ静岡市追手町物産陳列館樓上トス

第四條 本會ノ開期ハ大正六年三月十五日ヨリ十七日迄トス

第五條 本會ノ出品ハ左ノ種類トス

甲 個人又ハ團體ニシテ自己ノ農業經營ノ全般的調査

乙 同

部分的調査

丙 農業經營ニ關スル設計及調査

丁 自己ノ經營ニアラザル農事ノ調査及經營ノ研究

第六條 本會ニハ左ノ参考品ノ出品ヲ募集陳列ス

甲 農業經營ノ成績良好ナルモノノ傳記

乙 農業經營上参考トナルヘキ文書

丙 農業經營上有利ナル農具、器械、考案其他

丁 農業上功勞アル人士ノ傳記遺物等

第七條 本會ノ出品物ハ参考品ヲ除ク外ハ盡ク審査ニ附シ其優良ノモノニ對シ授賞スルモノトス

第八條 審査ハ審査規定ニ依リ之ヲ行ヒ其必要ニ應ジテハ特ニ其實際ニ就テ調査ノ上決定スルモノトス

第九條 出品ノ數ハ之ヲ制限セズ

第十條 出品ハ大正六年二月十日限リ静岡縣農會ニ到着スル様送付スルモノトス

第十一條 出品物ハ本會終了後之ヲ出品者ニ返送ス

農業經營品評會出品ノ注意

一、農業經營品評會ノ出品物ノ種類ハ頗ル範圍廣キヲ以テ殆ド何物デモ苟モ農業ノ經營上ニ關係アル事
物並ニ其調査ハ盡ク歓迎スル所ナリ

- 二、審査ニハ時日ヲ要スル事大ナル故出品者ハ必ず大正六年二月十日限り静岡縣農會ニ送付ス可シ
- 三、審査ハ主トシテ出品物タル調査ニ依ルヲ以テ成ルベク詳細明瞭ニ記載スルヲ要ス記載事項及方法等ハ縣農會發行ノ農業帳簿甲ヲ參酌スレバ秩序明カナル可シ
- 四、農業經營ノ全般的調査ニ關スル出品物中ニハ大要左ノ事項ヲ缺クベカラズ
 - イ、農業經營上ニ利用スル土地(種類、面積、狀態、地價、時價、自作、小作等)資本(建物、農具、家畜等)數量價格等肥料種苗、飼料公課費賃銀、消耗品其他(勞力(家族及雇傭等)別需給其他)
 - ロ、耕種製造飼畜等ノ豫定、方法、等ノ事項
 - ハ、全體ノ收支決算並ニ主要事務ノ收支計算
 - ニ、將來ノ計畫、繼續事業等ノ成行
 - ホ、經營者又ハ農場ノ略歴
 - ヘ、其他參考トナルベキ記録又ハ標本
 - ト、財産及家計ニ關スル事項モナルベク記載スルヲ可トス
- 五、部分的調査ニ關スルモノハ前項ニ掲ケタルモノノ任意事項ノ調査或ハ特殊ノ事業又ハ事實ニ就テ格段ニ調査記載セルモノタルヲ要ス
- 六、農業經營ニ關スル設計ハ假設農場ノ經營法ナリ調査ニ關スルモノハ現實ノ農場ノ經營法タルヲ要ス

七、獨リ審査ノ參考ニ止メ公開ヲ憚ル部分ハ別ニ其旨ヲ附記シ通常ノ出品ト分離シ密封シテ提出スヘシ

八、出品物ハ其農業ノ經營ノ種類ニヨリテ審査上ノ價值ヲ異ニスルコトナシ經營ノ種類ハ限リアル可カラス今左ニ其分類ノ例ヲ示ス

一、土地所有ニヨリ	二、家畜有無ニヨリ	三、生産物ニヨリ	四、副業種類ニヨリ	五、耕地ノ大小ニヨリ	六、社會ノ經濟ニヨリ	七、資本ヨリ	八、經營者ヨリ
地主的經營	畜産業	普通農業	林業兼營農業	大農	自作農業	集約農業	共同經營
自作農業	混同農業	園藝業	漁業兼營農業	中農	交易農業	粗放農業	管理農業
小作農業	無畜農業	特殊農業	商業兼營農業	小農	(營利農業)	分益農業	個人經營農業
自作兼營農業			工業兼營農業	過小農			

審査

審査は本會評議員農學士仁田大八郎氏を審査委員長に擧げ本會役職員専ら此が衝に當り助手をして計算に當らしめ慎重審議せり審査例規は左の如く決定して豫め之を公表せり

農業經營品評會審査例規

- 第一條 出品ノ審査ハ主トシテ提出セル書類ニヨリ之ヲ行ヒ必要ニ應ジ特ニ實地ニ就キ其現況ヲ調査ス
- 第二條 提出書類ノ審査ハ左ノ各項ニ就テ之ヲ行フ
 - 第一、記帳法ノ適否
 - 第二、經營法ノ巧拙

第三、事業方針ノ良否 (經營ノ性質)

第四、其他参考事項

第三條 記帳法ニ於テハ其ノ經營ノ性質的及計數的事項ヲ明細適切ニ記載シ且其資材ノ確實タルモノヲ可トス

第四條 經營法ノ巧拙ハ其經營ノ内容ニ就テ批判ヲ加フルモノニシテ 一、土地ノ利用 二、資本ノ利用 三、勞力ノ調和及能率 四、生産方法 五、生産物ノ處理法 六、企業益ノ處分 七、家政法等ニ付其最モ適當ニシテ且充分ト認ムルモノヲ可トス

第五條 事業方針ノ良否ニ就テハ主トシテ其事業ノ歴史的性質ニ就キ批判ヲ爲スモノニシテ 一、改良事項ノ有無多少 二、經營ノ組織ノ適否 三、將來ノ方針ニ就テ最善ト認ムルモノヲ可トス

第六條 参考事項ハ國家經濟上ヨリ觀察シ其經營ノ公益的影響ノ大小經營者ノ境遇等ヨリ見テ斟酌シ敢テ配點ヲ行ハズ

第七條 審査ハ左ノ配點法ニヨリ比較附點シ審査長之ガ等級ヲ決定ス

事項	滿點
記帳法	二〇
一、確實	二〇
二、明細	二〇
一、土資ノ利用	一〇
二、産本ノ利用	一〇
計	一五〇

經營法

- 三、勞力ノ調和及能率
- 四、生産方法
- 五、生産資處理
- 六、企業益ノ處分
- 七、家政法

事業方針

- 一、改良事項
- 二、經營組織
- 三、將來ノ計畫

計 一五〇

第八條 經營ノ一斑ヲ記セル出品書類ノ審査モ凡テ前條ニ準ス

第三章 經營品評會審査概評

静岡縣農會主催農業經營品評會に出品せられたるもの合計三百十八點内十五點は参考品にして三百〇三點は實際農業の經營を爲す當業者の出品せるものなり而して自己の經營する一切の農業状態を一箇の經濟組織として計算し其巨細の關係並に收支等を掲げて出品せるもの二百四十七經營の一部分の事業に就て其收支其他の關係等を調査出品せるもの五十六點あり其經營要素並に組織の狀態參差複雑素より概論する能はず況んや其利害得失を彼是批判するが如き容易の事にあらず故に主として出品物中に現はれたる事實に就て別に定むる審査例規に基き茲に概評を掲ぐ

一、記載法は豫め本會の注意に基きたると更に郡市農會等の指導に従へるもの多きを以て比較的整備せる

を認む資本勘定、利益計算等適當に行はれたるもの多く亦出品の凡てが事業費と家計とを區別計算せるが如きは喜ぶべしと爲す但往々資本其他の計算に於て脱漏違算等を認むるもの又は内容の曖昧不明のもの無きにあらざ斯の如きは恐らく出品者自身と雖勞して其效を收むる能はざるべし要するに記載法に就ては確實と明細とを希望し第三者と雖一讀瞭然直に首肯し得べきを可とす

二、經營法は審査上最も注意を拂ひたるものにして出品中には誠に敬服に價するものあり先づ之を土地の利用上より觀察する時は今回の出品者中全般的經營のみに就て見る時は一戸當り經營面積田畑（宅地を含む）合計一町八反五畝歩にして之を本縣の平均反別に比する時は即ち二倍の大きなり故に自給勞力を本位とせる農業經營としてはやゝ大なるの感あるも農業収入より見る時は遺憾なきに庶幾し而して經營反別中約四割八厘は田、一割二分四厘は桑園に一割四分二厘は果樹園に一割一分二厘は茶園に一割六分五厘は畑として亦四分一厘は宅地として利用せらる素より此等は抽象的平均數なりと雖亦以て土地を如何に集約に利用せらるゝかを推測するに足るべし、之を郡市別に就て見る時は經營面積の最も小なるものは賀茂郡、引佐郡、濱名郡等の出品者にして之に次で小笠郡、志太郡、榛原郡等なり經營面積の大なるものは田方郡、駿東郡、富士郡等なりとす經營面積の小なるものは勢ひ資本勞力等に集約なる經營を講ずと雖報酬漸減の法則上自ら不利の點あり

三、資本の利用は土地、建物、農具、動物、植物等に固定せるもの一戸平均六千八百〇七圓にして建物、農具、動物のみにて一千〇六十六圓に達す、之に對する流通資本額は平均二百三十一圓なるを以て二割

一分七厘に相當す即ち一町歩當り建物費四百十六圓七十六錢農具百十六圓二十三錢動物四十一圓十三錢なり故に資本の利用額より云へば大體に於て遺憾なしと雖此等の資本特に流通資本の如きが準備資本なりや借入資本なりや如何に其融通を計るものなるやに就ては不明なるは已むを得ざるなり資本中土地其他に對して比較的多大の割合に固定せるもの往々あり亦資本の評價當を得ざるものあり或は一般に動物資本の割合乏しき如きは研究を要す亦流通資本中には商品と非商品を適宜評價せるものを計上せるものなるが著しく商品即ち購入に要する經費の大なるものあるは農業經營上注意を要するの點なりとす總資本に對する經營收支殘金の利廻りを見る時は平均七朱に相當せり

四、勞力は一般によく利用せられ其農業組織と伴うて調和され居れり即ち平均家族數七人一分家族勞働延日數九百八十九人に相當す蓋し今回出品せる農家は地方に於て中等以上に位するを以て戸主若しくは業主は殆んど公共の爲めに其過半の日數を奪はるゝもの多きを以て平均約一千人に近き勞働日數は家族の活動比較的より行はれたるものと見るべし而して其營業利益を勞働日數を以て除する時は一人平均一日五十三錢に相當し家族勞働賃銀一ヶ年平均四百九十圓五十六錢なり家族の勞働能率比較的的良好なるを以て概して常雇人を有するもの少なく出品者中七十八戸男女合計百〇七人の常雇人を有するに過ぎず然れども製茶時期養蠶時期等に臨時雇人を爲すことは殆んど凡ての農家に於ても行はるゝを見る従つて一戸平均百〇二圓十二錢の雇人賃銀を支出せり勞力の利用は資本の利用等と直接關係あり即ち運搬用の舟車、經營に適當すべき器械若しくは畜力の利用の猶足らざるもの多きは勞力の能率をして充分發揮せし

むる能はざるなり

五、生産の方法は主として技術的事項に屬する以て記載に困難なりと雖一般に簡畧に過ぎ苦心の跡を認むるに難し栽培は勿論養蠶、製茶其他の方法に就ても多年同一農場に於て經驗し來りたる最良の方法は即ち經營に最も重要な金科玉條と云はざるべからず或は之を後繼者に傳へ或は之を四隣に施し愈々練磨完成を期せざるべからず本項に期待する事多きに係らず其結果の乏しきを悲む

六、生産物の處理に就ても一般に記事簡畧にして見るべきもの乏し自家用、販賣用等に區別せるものあるも餘りに簡なりとす貯藏、加工の有無取引の方法時期取引先等如何に販賣すべきかを豫め考慮して然る後生産に従事するは安全の道と云ふべし

七、企業益の處分に就ても多くは直に之を家政收入として生計費に支辨せらるゝと雖事業の利益は少くとも之を事業の改良と擴張若しくは利益増進等の爲めに一部を利用することを望まざるを得ず若し夫れ家人其他の勞働者に對して利益分配等の制を定め實行するが如きは監督の經費を省き勞力の能率を高め研究心を加へ不知不識の裡利益を増進するの良法たるべしと信ず

八、家政法は一般に健全なり即ち農業利益、家族の勞働報酬勤勞收入、雜收入等を合せ平均一戸約八百圓を有す而して支出費の合計一戸平均約六百圓なるを以て平均二百圓の餘剩ありて將來の爲めに蓄積するに足る支出中最も大なるものは食料費にして約四割六分を占め次に被服費八分四厘を占む而して住居費は三分二厘家具費二分八厘消耗品費五分三厘教育費四分圖書費一分一厘交際費四分衛生費二分五厘諸掛

り七分二厘賃銀二分四厘雜費五分一厘臨時費八分一厘等の割合なりとす家族一人當り一ヶ年八十三圓十一錢なるを以て普通農家に比する時は遙かに上位に在り

家政に就ては一定の標準を定め之に準據するに努め又は家憲、家訓を定め或は祖先の崇拜、子孫の尊重等の意義を家庭に徹底せしむることを要す

九、改良事項に就ては多々あるべしと雖比較的記載乏しきを惜しむ經營者が多年苦心して散亂せる農場を成るべく住居の附近に集中整理するに努め土地の交換賣買等によりて成效せるもの多きが如きは喜ぶべしと爲す或は耕地整理、暗渠排水等によりて土地の改良に盡せるもの多きは甚だ可なりと雖資本の利用、勞力の利用等に就て改良せるもの比較的乏しく亦生産の方法に就ても改良を試みたるもの記載に乏しきを惜しむ

十、經營組織に就ては土地の利用、勞力の利用と共に良好の状態に在り而して其多くが自作者なるを以て永久的施設を斷行するに便なり出品農家(全般的のもの)二百四十八戸に對して馬四七十六頭、牛畜六十六頭合計百四十二頭ありて家畜飼育戸數百七十七戸即ち出品者の四割七分に相當すれども肥料使用の割合其他の關係上猶一層畜農家の増加せんことを希望す要するに組織は複雑なること亦交通の便利なる地に於けるものは交換的農業たることを欲し而して特種の技能又は利益の存在せざる限りは資本及勞力は自給的たることを寧ろ主眼とすべし

十一、將來の計畫に就ては注意を拂ふもの比較的少きを認む思ふに時勢の進歩は駭々として止まず經營其

他の事も豫め之が變化に伴ふの覺悟あるを要す就中家族の内容の變化に伴ふ經營組織、經費支辨等の變化に對する用意如何更に積極的に十年若しくは二十年後に於ける經營と現在經營との交渉推移如何等は充分考究を要すべきの點とす

之を要するに今回の出品物は孰れも相當餘裕ある農家なるを以て其内容比較的整理され甚だしき缺陷なしと雖未だ門牆に入りて其堂奥に行かざるの感あるもの多し冀くは今回の出品を記念とし向後數年の研究を経て其幾千の進境を見るかを期待比較せられんことを出品を大別して特に優良のもの十八點、優良なるもの九十點佳良なるもの七十九點其他百十六點を撰拔擬賞す

出品點數及經營種類別一覽表

周智	小笠	榛原	志太	安倍	庵原	富士	駿東	田方	賀茂
一五	二二	三三	一三	一六	一五	二二	三三	四一	一一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三〇	五一	二二	四〇	二〇	二〇	二〇	三四	七一	一一
四	二	六	二	〇	一	一	一	一	一
八	三	八	一	三	六	四	九	六	六
五	四	一	二	一	一	一	二	一	三
一	七	一	一	一	一	一	一	一	一
一	七	一	一	一	一	一	一	一	一
四	七	一	三	九	五	〇	五	三	一
四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	五	一	二	四	二	二	二	三	一
二	二	三	〇	〇	〇	〇	一	七	一
二	二	三	〇	〇	〇	〇	一	七	一

第四章 農業經營品評會出品者名

計	靜岡	引佐	濱名	磐田
二四七	一	二八	一三	一三八
五六	一	四	四	一
一五	一	四	一	一
三一	一	八	一	一
七三	一	二	一	一
九二	一	二	一	一
六四	一	一	一	一
一	一	一	一	一
四七	一	一	一	一
一六	一	一	一	一
三〇	一	一	一	一

農産組織	農産品	郡市名	町村名	氏名
養蠶、柑橋兼營	養蠶、柑橋兼營	賀茂郡	稻取村	山田富吉
養蠶、柑橋兼營	養蠶、柑橋兼營	同	稻取村	八代秋輔
養蠶、山林兼營	養蠶、山林兼營	同	南崎村	平山吉兵衛
柑橋、吉産兼營	柑橋、吉産兼營	同	下河津村	鈴木又造
普通農業	普通農業	同	朝日村	山田米吉
養蠶、吉産、園藝、山林	養蠶、吉産、園藝、山林	同	宇久須村	山本清一
養蠶、畜産、山林兼營	養蠶、畜産、山林兼營	同	上河津村	土屋常一
養蠶、柑橋兼營	養蠶、柑橋兼營	同	白濱村	立花慶次郎
山葵栽培	山葵栽培	同	上河津村	藤井平重
普通農業	普通農業	同	南中村	大邊房吉
畜産兼營	畜産兼營	同	三島町	鈴木儀三郎
養蠶兼營	養蠶兼營	同	函南村	高橋伊三郎
養蠶兼營	養蠶兼營	同	中野村	下山惣兵衛
畜産兼營	畜産兼營	同	函南村	近藤廉

第一編

静岡縣の農業と農業經營品評會出品物

梨 茶 養 養 普 普 養 普 普 養 茶 養 養 養 梨 茶 養 養 茶 茶 茶 茶 茶 養

業 業

同 同

士 郡

田 原 同 北 大 元 上 岩 傳 袖 吉 袖 大 鷹 加 岩 玉 原 同 浮 金 原 同 金 大

子 田 山 宮 吉 井 松 法 野 永 野 宮 岡 島 松 穗 里 同 島 岡 村 同 岡 村

浦 田 山 宮 原 井 出 松 法 野 永 野 宮 岡 島 松 穗 里 同 島 岡 村 同 岡 村

今 三 高 渡 市 鹽 福 町 渡 篠 梅 遠 古 川 石 影 大 芹 竹 平 諏 芹 平 森 石

井 好 野 邊 川 崎 原 田 邊 原 原 藤 畑 村 川 山 胡 澤 野 猪 井

萬 傳 米 安 又 太 十 次 宗 金 友 一 勝 次 松 次 廣 三 代 次 澤 庄 常 太 喜

作 郎 吉 吉 藏 郎 吉 衛 郎 太 郎 藏 三 次 郎 郎 郎 隆 會 郎 郎 吉 郎 作

第一編

静岡縣の農業と農業經營品評會出品物

養 養 普 養 養 養 養 養 養 養 養 養 普 普 養 高 蕨 養 養 養 養 養 養

業 業

同 同

東 郡

印 小 同 深 小 須 同 玉 御 同 清 同 同 同 原 同 同 楊 片 清 須 御 同 長 江 下 北

野 山 同 瓦 山 山 山 同 穗 殿 水 同 里 同 原 濱 水 山 殿 泉 間 狩 狩

村 町 村 町 村

勝 池 高 小 岩 土 勝 芹 內 太 岩 勝 芹 芹 松 市 渡 山 波 瀧 加 遠 土 大 山

間 谷 田 澤 田 屋 又 澤 海 田 澤 間 澤 澤 本 川 邊 山 本 浦 邊 口 藤 幸 屋 川 口

芳 織 織 要 友 淺 直 真 利 清 治 信 與 柳 周 德 與 太 瀨 一 郎 幸 次 郎 策 吉

庵 平 郎 作 貞 吉 作 平 作 八 作 美 逸 柴 作 次 作 郎 瀨 一 郎 幸 次 郎 策 吉

養	椎	木	茶	養	藝	菓	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	養	藟	茶	茶	茶	茶	藟	茶
								細	山	山	山	山	山	山	山	藟	藟	藟	藟	藟	藟	藟	藟
								工	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
								(兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼
								業	營	營	營	營	營	營	營	營	營	營	營	營	營	營	營

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	周	同	同	同	同	同	同	小	
																智							笠	
																郡							郡	
久	三	氣	城	熊	大	一	飯	森	三	岡	山	一	天	奧	飯	熊	久	同	同	大	兩	西	原	佐
勢	倉	多	西	切	居	宮	田	町	倉	田	梨	宮	方	山	田	切	勢	同	同	淵	櫻	方	谷	東
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村

米	鈴	井	金	森	高	佐	鈴	鈴	鈴	高	岩	松	山	小	一	四	增	大	岡	平	川	月	平	藤
澤	木	口	田	下	木	藤	木	木	木	柳	本	尾	本	鹽	木	內	田	石	山	松	川	尾	尾	田
麻	莊	源	鐵	傳	伊	孫	木	木	木	甚	幸	幸	幸	佐	佐	三	三	三	仁	仁	仁	政	政	政
吉	平	吉	十	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太

養	養	養	養	普	普	養	輪	普	養	養	普	普	茶	普	茶	茶	養	普	養	紙	共	養
				通	通		栽	通					業	業	業	業						
				業	業		法	業					業	業	業	業						
				營	營		營	營					營	營	營	營						

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
天	曳	積	同	市	白	浦	富	飯	伊	吉	北	芳	於	久	東	上	向	今	同	長	岡	天	森	奧
神	馬	志	同	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
町	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村

山	本	棚	務	大	齊	伊	高	水	鈴	土	倉	中	土	鳥	石	前	馬	內	星	本	鈴	森	共	龜
下	間	木	田	採	藤	藤	山	谷	木	屋	田	津	居	居	川	嶋	淵	野	野	間	木	下	井	井
喜	勝	作	保	清	太	八	誠	愛	三	房	設	川	佐	彦	平	太	甚	伊	孫	太	太	太	太	太
好	雄	平	耶	耶	治	重	之	三	耶	耶	耶	耶	耶	耶	耶	耶	耶	耶	耶	耶	耶	耶	耶	耶

製	疊	薯	養	疊	製	養	疊	養	茶	機	養	養	養	疊	疊	茶	疊	養	養	稻	普	薯
紙	表	通	葦	表	紙	葦	表	葦	表	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
營	營	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

糺	氣	伊	奧	中	伊	中	井	同	都	同	同	龜	同	氣	奧	氣	井	都	中	氣	蒲	豐	笠	伊
玉	賀	平	山	川	平	川	伊	谷	田	村	村	村	村	賀	山	賀	谷	田	川	賀	賀	西	井	佐
村	町	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	町	村	町	村	村	村	町	村	村	町	見
																								村

松	名	岩	加	加	野	早	安	鈴	野	鈴	磯	廣	加	白	杉	藤	武	影	藤	中	内	田	田	鈴
本	倉	音	藤	藤	澤	戸	間	木	末	木	部	部	柳	柳	山	山	智	山	村	村	山	地	木	
基	松	重	太	太	淵	余	正	愛	伊	次	榮	源	茂	宜	宜	田	四	久	藤	林	川	邊	愛	
五	松	重	太	太	淵	余	正	愛	伊	次	榮	源	茂	宜	宜	田	四	久	藤	林	川	邊	愛	
耶	永	松	豐	耶	作	一	惠	吉	六	耶	藏	次	耶	三	一	吉	耶	藏	耶	三	太	耶	耶	

普	養	柑	副	柑	普	疊	茶	疊	養	養	疊
通	葦	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業

靜	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
岡											
市											

奧	西	井	西	同	金	伊	氣	中	同	氣
山	濱	伊	濱	濱	指	平	賀	川	賀	賀
村	名	谷	名	名	町	村	町	村	町	町

鈴	野	外	齋	加	伊	增	前	藤	影	加	鶴
木	澤	山	藤	藤	藤	井	島	田	山	山	見
伊	金	小	六	仁	五	茂	菊	清	伊	伊	清
佐	七	作	耶	平	耶	佐	五	吉	久	久	太
次									太	太	耶
耶									耶	耶	耶

第二編 農業經營の一斑

第一章 養蠶兼營普通農業

駿東郡長泉村元長窪

遠藤 幸作

目次

第一、農場ノ概況	一、農場平面圖(省略)	二、經營土地	三、土地利用の狀況
第二、農業資本	一、土地	二、建物	三、農具
第三、勞力	四、動物	五、植物	六、現物
第四、生産の方法(省略)	七、貨幣		
第五、農業收支一覽	一、收入	二、支出	
	一、農業收入細別	二、農業支出細別	
第六、家計收支	一、家計收入	二、家計支出	三、家計收支
第七、將來の方針			

第八、略歴及經營引繼

養蠶兼營普通農業

長泉村元長窪

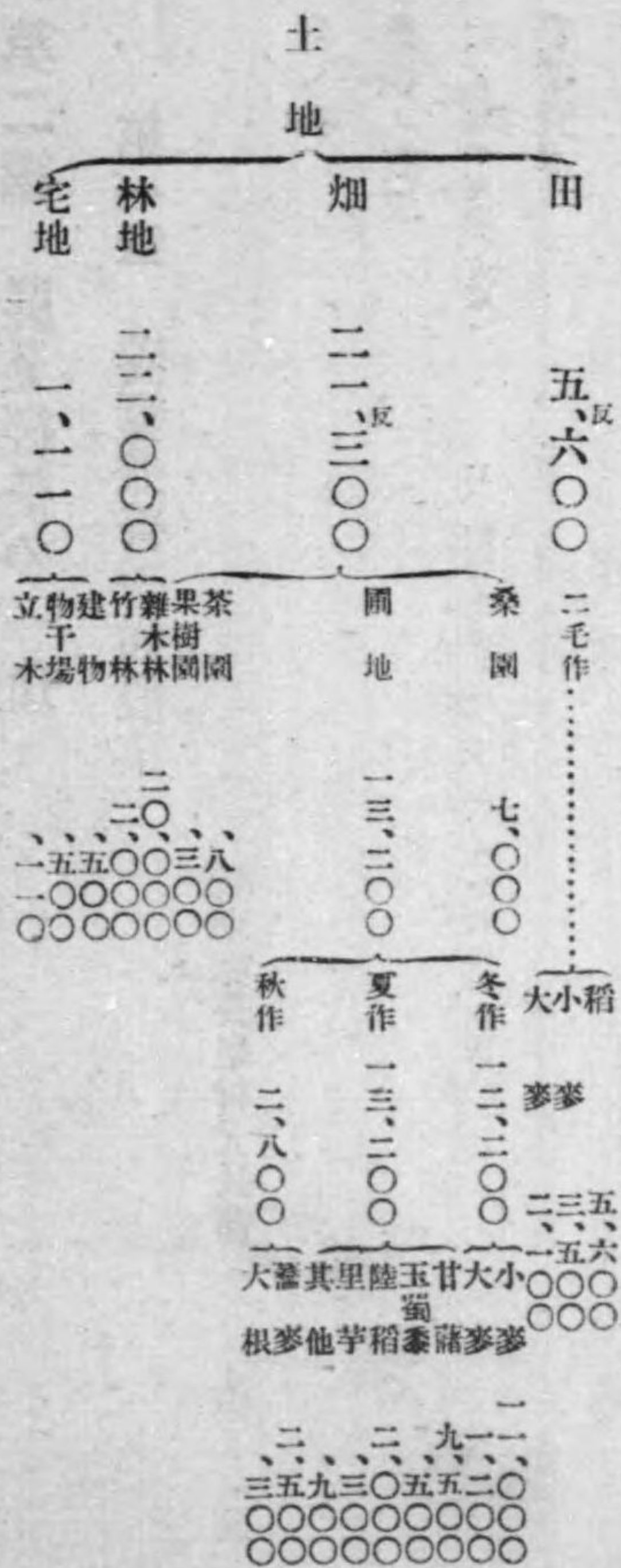
遠藤幸作

第一 農場之概況

一、農場平面圖(省略)

二、經營土地は腐植質にして田は階段を爲し灌排共に便利にして旱魃水害の虞なし、畑地は概して平坦なれども部落の東西丘陵の間に位し坂道なるが故に運搬は概ね馬を使用す、傾斜地は薪炭用の林地に利用せり

三、土地利用の状況



第二 農業資本

一、土地

計	自作地		小作地		別計	自作地		小作地	
	反	坪	反	坪		反	坪	反	坪
田	四、二〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	一、四〇〇	五、六〇〇	二、二〇〇	八、四〇〇	二、二〇〇	八、四〇〇
園	一、二〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、二〇〇	四、五〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	五、八〇〇
桑園	七、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
果園	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
茶園	八、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
山林	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
竹林	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
宅地	四七、六一〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	五〇、〇一〇	四三、二七〇	五、一五〇	三、四〇〇	五、八〇〇

二、建物資本

種類	棟数	坪数	構造	見積価格	年已	限存	價却金	用途	備考
住居	一	四〇	草葺平屋	四〇〇	一〇	一〇	二八〇〇	家事	是の三つは長屋として通門を付け一棟とす
堆肥倉	一	一〇	草葺平屋	六〇	一〇	一〇	四、二〇〇	産業	
穀倉	四	四〇	草葺平屋	四〇〇	一〇	一〇	三、五〇〇	産業	
物置	四	四〇	草葺平屋	四〇〇	一〇	一〇	二、八〇〇	産業	
廐舎	四	四〇	草葺平屋	四〇〇	一〇	一〇	二、八〇〇	産業	
隠居	一	一〇	草葺平屋	六〇	一〇	一〇	四、二〇〇	家事	

計	新小屋	鶏舎	豚舎	器具置場
六	一	一	一	一
八七	六六	二	三	同
	同	根	草	同
	平皮	葦	葦	葦
七二〇	四〇	五〇	五〇	五〇
五〇、四〇〇	二〇	二〇	二〇	二〇
	一、四〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	四、二〇〇
	事	事	事	事
	業	業	業	業
	堆肥舎に庇として出す	廢舎に庇として出す		

三、農具

計	農耕	運搬	收穫	飼養	養蠶	茶製	農産製造
	用	用	用	用	用	用	用
	犁二、鐵六、唐車二、シヤベル一、閉塞車一、耕馬式一	荷車一、荷鞍一、鐵五、稻扱器五、粗摺器一、萬石一、風機器旋風機一	草切器一、食槽二、毛櫛一、鐵櫛一、磨二、養鶏舎十、豚舎一	蠶籠三〇〇、蠶籠四五〇、庖丁一、組一、給桑臺三、蠶架六組、乾温計二	焙爐一、茶蒸器一、貯器四	大釜一個其他	
	一、一七〇〇	一三、〇〇〇	二七、〇〇〇	五三、〇〇〇	六、五〇〇	六九、六〇〇	五、七〇〇
	一、八九〇	三、七一〇	四、五〇〇	五、五七〇	四、〇〇〇	三、五〇〇	一、四、〇〇〇

四、動物

計	馬	豚	雞	蜂
	牝	牝	牝	牝
	一	一	一	一
	一頭	一頭	一頭	一頭
	一〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二七、八〇〇	五〇、〇〇〇
	南部馬	ヨクシヤ種	名古屋コイチン、ミノルカ、褐色レ	グホーン
			カーニオラン種	

五、植物

計	桑樹	茶樹	果樹	林木	竹林	竹上	開計
	七、〇〇〇	八、〇〇〇	栗八本	二〇、〇〇〇	二、〇〇〇	一六、〇〇〇	
	蜜柑二〇本柿一〇本						
	七〇〇〇	二四、〇〇〇	一九、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	七〇三、〇〇〇
	老衰し居るを以て向二箇年間に改植の見込み、一反歩拾圓と積る	七年生	一畝參圓と積る	一本五拾錢と積算	一反歩拾五圓と積る	七八寸より一尺一二寸太さ	一反五圓と積る

六、現物資本

種	數	量	價	格	備	考
子	大麥一斗三升	陸稻一斗	小麥五斗	其他	穀類其他	甘藷
	一六、二〇〇					

計	種				
	春蠶	秋蠶	晚秋	木桑苗	肥料
十二枚	四枚	八枚	〇枚	二、〇〇〇本	
春小石丸	秋大草	晚秋大和錦	興平桑	桑へ與へたるもの	堆肥舎に在るもの
一、一〇、〇〇〇	二、八〇〇	四〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇
炭は手製のもの					

七、貨幣

計	公課		總額	備考
	銀	課		
二一八、七六五	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	七八、七六五	常雇人 日雇(農五五錢、秋五〇錢、茶摘三五錢、其他三〇—四〇錢)

第三、勞力

家	經營者	年	齡	勞働能力	年内勞働日數	備考
一〇	一〇	二	二	一〇	三三七	外全部家計に従事す

常雇	族		
	祖母	祖母	母
人	母	父	人
十	六	七	四
九	十	十	十
歳	五	四	四
	歳	歳	歳
一〇	八	八	〇
三〇〇	三二〇	三一六	三四〇

附養蠶上蠶前より麥取込に繁忙にて不足する爲め臨時日雇及月雇を入れて補充し居れり

第四、生産の方法(省略)

第五、農業收支一覽

台	一、收入					二、支出					
	勤勞	資本	製造	林産	畜産	合	資本	借入	諸費	諸費	諸費
計	入額	額	額	額	額	計	額	額	額	額	額
一、九〇六、四六〇	一〇三、八〇〇	二二、〇〇〇	四二、五〇〇	一六六、〇〇〇	一五七二、一六〇	一、一七六、四二五	三六、七四〇	二二、七九五	一七六、四五〇	五五、四四〇	八八、一四五
							三二、五〇〇	八三、七六五	三八、〇五〇	三六四、九〇〇	一、一七六、四二五

第二編 農業經營の一斑
二、農業收入細別

品名	数量	單價	價額	反當收量	備考
玄米	一五、六〇〇	一五、〇〇〇	二、三四、〇〇〇	二、八三六	神力二反
陸稻	五、六〇〇	一五、〇〇〇	八四、〇〇〇	二、二四〇	小千穗二、〇〇〇
大陸	四、〇〇〇	七、五〇〇	三〇、〇〇〇	二、四二四	雄町一、四〇〇
小麥	一六、九〇〇	八、七五〇	一四七、〇〇〇	一、五三二	梗旋籾二、五〇〇
玉蜀黍	二、八〇〇	八、五〇〇	二三、八〇〇	一、六九七	黒麥
蕎麥	二、〇〇〇	七、五〇〇	一五、〇〇〇	一、六〇〇	サコボシ
計			二、二五〇	八、〇〇〇	トソソ
甘藷	四二〇〇	一、二五〇	五、二五〇	八、〇〇〇	八徳稗
里芋	一〇〇	〇、五六	五、四七、三〇〇	四、二一	新開地四反五〇〇使用の爲め反當
大根	二〇〇	〇、七〇	二、三、〇〇〇		收量少し普通六〇〇買なり
胡瓜	一〇〇	〇、二〇	七、〇〇〇		
南瓜	二五〇	〇、四〇	一〇、〇〇〇		
牛蒡	二五〇	〇、四〇	一〇、〇〇〇		
人参	二八〇	〇、七〇	一、九六〇		
其他			八、〇〇〇		
柑	八〇〇	〇、〇五	四、〇〇〇		平年より結果少なし

品名	数量	單價	價額	反當收量	備考
粟	五〇	二、〇〇	一、〇〇〇		
生茶	一三四	二、七〇	三六、一八〇	生葉反當收量 二〇七、五〇〇	
茶葉	八〇〇	二、五〇	二〇、〇〇〇		
桑蠶	一、五〇〇	〇、八〇	一二〇、〇〇〇		不足分七圓購入せり
春蠶	五、〇九〇	五、四〇〇	二七、七八一〇		春蠶養量十二匁 飼育法條桑育
秋蠶	二、〇〇〇	五、九〇〇	一三八、〇六〇		
晚秋	一三、〇〇〇	四、五九〇	五九、六一〇		
計			五九五、四八〇		
稻	一、二〇〇	〇、一四	一六、八〇〇		
麥	一四四〇	〇、一〇	一四、四〇〇		
稗			二、五〇〇		
計			三三、七〇〇		
肥料	二五〇	〇、四〇	一〇、〇〇〇		春秋二期のもの 糞のみ乾燥せるもの 山草使用のもの
堆肥	三、五〇〇	〇、一五	五二、五〇〇		
糞	一四〇	〇、五〇	七、〇〇〇		
計			六九、五〇〇		
產物			一、五七二、一六〇		
計			四、〇〇〇		
畜産			一〇、〇〇〇		
計			三三〇		
合計			一、〇〇〇		

名古屋コーチン若堆賣却
三十九

格 價 減 增 本 資	加工 製造 物 產 林 物 産	物 産 林 物 産					年度始價額	年度末價額	差引増價額	理 由			
		製 造	甘 藷	竹 炭		薪 材					麻 肥	蜂 群	蜂 蜜
				製 造	竹 炭								
地 上 植 株	業 計	計	計	計	計	計	計	計	計				
七、一四六、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇			一五、〇〇〇				八一、〇〇〇	八枚入充満群			
三〇一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇					一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一五、〇〇〇				
一八七、二〇〇	一、〇〇〇						一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇				
一八七、二〇〇	一、〇〇〇							一〇、〇〇〇	一六六、〇〇〇				
一九二、八〇〇					五、〇〇〇			四二、五〇〇	七、五〇〇				
三〇五、〇〇〇								一〇、〇〇〇	五、〇〇〇				
六九〇、〇〇〇								二、〇〇〇	二〇、〇〇〇				
七、二四九、八〇〇									二、二〇〇				
一、九〇六、四六〇										農具購入の爲め			

三、農業支出細別

費 苗 種 具 農 物 建	堆 其 初 茶 桑 蠶 甘 穀	具 農 物 建		金額	說	明	
		修 新 債	修 債				種 類
其他 籾 實 苗 種 諸 類	計	計	計	三〇、二四〇	事業部分擔額		
五二、四四〇				六、五〇〇			
一、五〇〇				三六、七四〇			
一二、三五〇				一四、〇〇〇			
二、八〇〇				四、八〇〇			
六、三九〇				三、九九五			
二、八〇〇				二、七九五			
一、五〇〇				一〇、〇〇〇	穀三斗小麥五斗大麥一斗三升そば一斗其他玉蜀黍種諸五十貫代		
				一四、四〇〇	春秋二期に十四枚分(櫃製)		
				六、三九〇	興平二、〇〇〇本其他一〇〇本		
				二、八〇〇	四斗入一俵		
				一二、三五〇	名古屋コーチン二〇〇羽買入代		
				一、五〇〇	野菜種子及其他		
				五二、五〇〇	甘藷陸稻及春夏の植もの使用の分冬季麥作用の分		

自給	肥料	金	肥	飼	畜	費
人糞	草	大	魚	米	猪	家畜
糞	木	豆	計	菜	油	畜費
尿	灰	肥	計	稈	其	畜費
沙	灰	料	計	他	他	畜費
糞	糞	粕	計	稈	他	畜費
糞	糞	灰	計	稈	他	畜費
糞	糞	灰	計	稈	他	畜費
糞	糞	灰	計	稈	他	畜費
糞	糞	灰	計	稈	他	畜費
糞	糞	灰	計	稈	他	畜費

二〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	七、〇〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇	一二五、五〇〇	三三、三五〇	五、四五〇	三、三〇〇	五、五〇〇	三、三五〇	五〇、九五〇	一七六、四五〇	六、〇〇〇	四、〇六五	四六、〇八〇	二、〇〇〇	一八、〇〇〇	四、〇〇〇	八、〇〇〇
桑及稻に使用の分			自給のもの儘か使用	二〇俵、二五〇の計算	二三叭代	甘藷用	馬用	豚用	大麥五俵其他											

原	助	成	品	人	費	諸	費	租	稅	諸	掛	小	作	料
桑	切	茶	其	常	臨	細	薪	地	縣	協	農	所	其	田
葉	干	葉	計	雇	時	炭	油	租	稅	費	會	計	計	計
葉	用	葉	計	人	雇	油	類	租	稅	費	組	計	計	計
葉	甘	葉	計	費	費	類	類	租	稅	費	合	計	計	計
葉	葉	葉	計	費	費	類	類	租	稅	費	他	計	計	計

八八、一四五	一二七、〇〇〇	一〇、〇〇〇	八、六四〇	五、〇〇〇	一五〇、六四〇	七五、〇〇〇	五五、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二二、五〇〇	三二、五〇〇	一七、九五〇	四四、〇七五	四、八五〇	二八〇	一〇、八五〇	五、七六〇	八三、七六五	三八、〇五〇	三八、〇五〇
					給料三二、〇〇〇 肥料三三、〇〇〇 給與費一〇、〇〇〇	支拂貸銀四〇、〇〇〇 隨費一五、〇〇〇				田租一〇、五〇〇 宅地租一、七五〇 畑五、五〇〇 山林、三〇〇	茶業組合費	玄米四俵三斗九升(一俵六、八〇〇)								

居 住 費	飲 食 費	被 服 費	家 具 費	消 費 品 費	教 育 費	衛 生 費	交 際 費	諸 掛 費	圖 書 費	給 與 費	寄 附 費	旅 行 費	雜 費	家 計 合 計
二五、一六〇	四〇三、九一五	六四、七二〇	二五、四三〇	二五、六四〇	三八、〇八〇	四七、八八〇	二一、五七〇	二〇、〇〇〇	三、〇〇〇	二八、九八〇	三、五四〇	八、五〇〇	一二、五四〇	七二八、九五五
	建物償却金二〇、一六〇 茅無盡掛 五、〇〇〇		主 食 品 一、四五四 薯二、五四 三〇六、八〇〇 薯二、五 玉蜀黍五、四 副 食 品 一、九二〇 八五、三六五 購入品四八、四一五 嗜 好 品 一、七五〇 茶八、七五〇 一、七五〇 酒果物菓子三、〇〇〇		石油蠟燭燃料其他 農林一人 尋常科二人 高等科一人									

二、家計支出

第六 家計收支
一、家計收入

財 產 所 得	農 業 利 益	農 業 資 本 利 子	主 人 給 料	報 酬	其 他	合 計
省 略	七三〇、〇三五	三六四、九〇〇	一六八、〇〇〇	五、〇〇〇	四一、九三五	一、三〇九、八七〇
	收入役年給料					

資 本 積 蓄	土 地 費	建 築 費	家 畜 費	農 具 費	植 物 費	流 通 費	子 計	營 業 支 出 合 計
二五七、五〇〇	三六、〇〇〇	九、三九〇	九、三六〇	三五、一五〇	一七、五〇〇	三六四、九〇〇	一、一七六、四二五	一、一七六、四二五
						年利八合計算		

三、家計收支決算

収 入	金
一、三〇九、八七〇	
計	七二八、九五五
差 引	残 金
	五八〇、九一五

第七 將來の方針

現在の經營法は田五、六〇〇畑二、三〇〇林地二、〇〇〇にして田は總々二毛作するため麥收穫季即ち五月下旬より春蠶上簇と合致するが故之が一部は綠肥を栽培して勞力の分配を計り春蠶飼育を五枚迄増すこと尙子女及老人の手間を以て養鶏養蜂の管理をなさしめあり自分は唯監督するのみ

茶は約、八〇〇なるを二反迄増加して五月中の收入に充つる考へなり林地は雜木林半にして之を向五ヶ年間に伐採して櫟を植込む見込なり竹藪は經營中最も利益多し由て益増殖の見込なり

冬期間散にして遊ぶ日時多き故に昨年より甘藷切干の製造を爲せり之は一二月の候なるを以て勞力分配に宜しきに適す依て切干用甘藷を二反〇〇〇栽培して白藷を減少せんとす然らば收穫販賣に勞力を減じ得べし豚は廢物利用の目的を以て大小各一頭を繰返し飼育するは肥料供給と廢物との關係適度なるを示せり桑園は永く其繁茂を維持し難く十ヶ年を限りとす然るに現在の桑樹は二十年生前後なるを以て肥料を施すも效少し故に向二ヶ年間に改植し之れと同時に早生桑を増加せんとす

第八 略歴及經營引繼

明治四十二年駿東農林學校卒業

明治四十五年第三拾九回高等農事講習會修了

大正二年三月第三回夏蠶講習會修了

大正二年及三年の七月より十二月迄六ヶ月間縣蠶種検査吏員に命せらる

大正四年農事統計講習會修了

大正五年富士郡主催茶業高等講習會修了

其の間農事を従事し來り大正四年父より事業全部を引受大正五年一月より事業及家計を引繼きて經營をなせり

第二章 茶業を主とせる經營

富士郡岩松村岩本 影山廣三郎

目次

第一 農場並に其の地方の狀況

一、概況 二、農業經營上の由來 三、事業の方針 四、經營地の利用 五、農場圖面 六、家族及其勞力 七、勞力

第二 農業資本

一、土地資本 二、建物資本 三、農具資本 四、家畜資本 五、植物資本 六、其他の資本 七、資本總額

第三 事業の收入支出

第二編 農業經營の一斑

甲、收入

一、茶 二、其他の農産物 三、畜産 四、林産 五、勤勞收入 六、資本の増價額 七、收入總額

乙、支出

一、建物費 二、茶業用器具費 三、其他の農具費 四、種苗費 五、茶園の肥料費 六、間作茶園及同作物肥料費 七、臨時製茶工費 八、雇人費 九、消耗品費 一〇、家畜費 一一、諸雜費 一二、租稅諸掛り 一三、資本利子及償還費 一四、資本減價

支出總額

丙、收支計算

第四、大正五年製茶調

富士郡岩松村岩本 影山廣三郎

第一 農場並に其所在地方の狀況

一、概況

(一) 天氣

曇	晴	雨		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
天	天	天		二 七	二〇 七	一七 四	一三 一	一八 七	一一 四	二〇 七	二三 六	二〇 七	一〇 三	一三 八	一八 七	二〇 四
七	三															九四
																六八

(二) 位置地勢土地交通

岩松村北部岩本山の中央に在り北方二町にして大宮町の一端に接す東西及南共數町内は自村内茶園にして交通便なりと云ひがたく土質は火山岩質の埴土多し

(三) 當地方の農家經濟狀態

① 當地普通農家經濟狀態は茶園五反歩普通畑七反歩山林五反内外を經營し其一反歩當り大麥二石五斗、陸稻一石六斗、甘藷六百貫匁、茶貳百貫(生葉)内外を生産し家畜は馬或は牛一頭を飼養す、販賣品の主なるものは茶、麥、甘藷、陸稻にして農用購入品は肥料(鯀ノ粕、大豆粕、過燐酸)なり

② 勞働時間 一月より三月迄は七時間、四月より八月迄十一時間、九月より十二月迄八時間

③ 休日々數 三十五日

④ 雇人賃銀は作業により又時季によりて異なるも大略左の如し

製茶時季及秋收納季は男入り(食事給與)五十錢、女入り二十五錢、男掛切(食事不給)六十錢

女掛切三十五錢なり

平時の雇人は男入り三十錢、女入り二十錢、男掛切四十錢、女掛切二十五錢なり

常雇人は男六十圓(一ヶ年間)女四十圓(一ヶ年間)内外なり

⑤ 貸借の利率 普通信用貸借にして利子頗る高く年貳割なり

(一)土地の價格 位置により又肥瘠により著しく異れども普通畑百圓、間作茶園百四十圓、茶園百八十圓内外なり

二、農業經營上の由來及住所の變遷

祖先より當村岩本に住居し茶業を營み番茶を製造して甲信地方に販賣したりしかど横濱開港以來製茶貿易も亦開始せられし故横濱取引を手合たる處相應、有利なるを認めたり、こゝに於て率先して高原山開墾を行ひ以て茶樹の栽培に全力を注ぎ三町六反歩の成墾をなす時は明治一、二年の頃なり降て同四、五年頃は宇治製法好評なりしたため専心此の採切製法を覺え輸出向内地向き共に一層高評を博せり

茶業發展と共に住所と開墾茶園と遠隔にて栽培製造共に不便不利甚だしく故に明治七年開墾茶園の中央に住所を移轉し益々斯業に奮勵し數多の資本等を投じたり然れ共好況は永く持續せずして明治十四、五年頃より不況に又不況を重ねしため遂に破産を爲し祖先傳來の茶園四反歩と幾多の負債とを残して兄(此の當時の戸主)は甲府に移る事となれり自分は次男なりしが此の明治十七年兄の後を受け繼ぎ父母に仕へつゝ再起を決し土地を借用し經營上茶を副業となし勤儉力行の結果少しの餘財を生じたり其頃より製茶價格も亦漸次上騰の好況となり明治二十八年には參町歩の間作茶園を買入るゝ事を得其後年々生産額増したるも一面手揉製にては職工賃銀の上騰生産用諸物價騰貴により製造費愈々増加し經營上困難を感ずる状態となりたり此の時武州熊ヶ谷なる高林鎌三氏粗揉器を發明せしと聞き明治三十一年衆に先んじて購入使用の結果再び相當の収益を收むる事を得る状態となりたり其後逐年茶園買入れと共に器械増設をなし明治四十四年石油發動

機を購入し茲に略製茶機械を整へ遂に手揉に劣らざる製茶を産する事を得るに至れり

爾後一層優良品の生産を目的とし山城地方及び縣内各地の有名なる茶業家を訪ひ兼て本縣茶業組合其他名士の指導を請ふ等絶えず改良に心掛けたり、而して内地向は年々増加するを以て一、二、三等園は優良品製造を目的にて摘採も極めて軟葉摘となし二回摘採に止め品質に重きを置き肥料を増し製造法も香氣滋味に細心研究せる採切製法にて製造せる結果年と共に需要増加し取引店二箇所を設置せる事となれり

三、事業方針附培養方針

概況及土地利用等に於て示せる如く此の地に於て現在最も有利なるは茶樹栽培及同製造なり且つは祖先よりの方針もあり今後も此有利なる茶樹栽培製造を主業とし是に用ふる勞力と培養上の關係等により他の各種作物其他の事業方針を算出す即ち最有利ならしめんがため全所有反別(但し田、山林、宅地を除く)を全部茶とす然れ共是を全部自家經營となす時は勞力供給關係上甚だ不利なる經營に陥る可し、さりとて小作貸與をなす時は僅少なる収入にて又不利なり故に此に半自作間作茶園なる方法を案出し施行以て多利を得つゝあり

半自作間作茶園とは茶樹の畦間(二間)を僅少なる小作料にて貸し小作人は畦間に普通作或は蔬菜を作り同時に茶樹の除草耕耘をなすものとなし地主は茶葉及小作料を收得するものとす

此の茶樹は摘採に於て最も軟葉摘みとなし三茶も八月十五日を限度とし生育状態により二回摘採の場所もあり故に發育に少しの影響もなく相當なる收葉を得つゝあり

半自作間作茶園以外の茶園に於て是を全部普通茶園となす時は肥料供給干係及自家必要農産物供給不足等の關係上是を別表の通り甲茶園乙茶園間作茶園等の異なりたる栽培方法を取り栽培上及家計上等の需要供給の均一を計る即ち甲茶園は普通茶園にして主として塵芥及落葉等を自家供給手間肥となし乙茶園は畦間を少しく廣げ大豆を作り綠肥となし是を手間肥となす青刈大豆の有利なる事は爰に記述するを要せず尙ほ農繁時期雜草繁茂と土地の乾燥を防ぎ且つ收穫時後作の關係上茶樹に最も適當なる時季に深耕をなす爲め培養上及勞力分配上最も有利なり後作體菜は近傍に栽培少きと適地なるとにより品種改良容易にて需要地又近傍に多く現時供給不足を告ぐる状態なり栽培に於て茶樹との關係は體菜の畑存在回数少きと吸收率以上の施肥とに依り之を作らざる地よりも茶の發育は寧ろ良好なり

間作茶園は塵芥及生産諸莖稈を以て手間肥となし自家に必要な作物の栽培をなす作物の吸收殘肥と生産肥料に依り發育普通にて僅少なる他よりの供給肥料にて收穫又他園に異ならず生葉販賣は不安定なるを以て自園生産の業を製造するは將來も同様の方針なり

勞力は比較的十二月及一月二月中旬迄に餘剩あり故に是を利用する爲少しの柑橘を栽培し補はんとし目下三、四年間栽培を初む又一方法として製茶貯藏品を一、二月頃火入を行ひ小賣を爲さんとし目下又準備中なり

山林は薪炭用の雜木多く之か改良の目的にて目下柵苗を仕立中なり
田は所有すれ共所在地遠方にて自作不利なる故貸與せり今後亦斯の如き方針なり

四、經營地の利用



五、農場圖面(省略)

六、家族及雇人

戸主との續柄一年

壯丁勞五力に對する比例

年内勞働日數

摘

要

戸主	廣三郎	五三	社交を勤むる故労働日数少し 平時は家計を取扱ひ農繁時に於て手傳ふ 常時家事を取扱 富士郡立農林學校在學中 平時は家事其他勉學農繁時季のみ手傳ふ 富士實科女學校在學中 家族
妻	ケイ	五〇	
長男	米作	二六	
長男妻	マツ	二五	
二男	清	一九	
三男	仁作	二四	
四女	シゲ	二一	
五女	シマ子	一六	
計		八八	
常雇人	同男	二二	
臨時雇人男		一五	
臨時雇人女		一五	
延人員	三二九	一九五四	延人員

七 勞 力
(い) 作業別勞力

作業種別	人		備	考
	男	女		
耕	一七五	九七	年六回淺耕、中耕、深耕元出元寄をなす 雜草塵芥糞金肥液肥を施す 三回 經營全茶樹剪枝人夫 被害反別一町歩計り	
肥料	一四五	九七		
除草	八五	九七		
剪枝	三五	三五		
病蟲害驅除豫防	四四〇	九七		
計	四四〇	五三七		

茶園	乙 町五反歩		間作茶園		製	山	草	肥
	夏作大豆	秋作蔬菜類	陸稻關係	蔬菜關係				
綠肥栽培	四〇	三六	九三	一七三	一七四	一七五	一七六	一七七
計	四〇	三六	九三	一七三	一七四	一七五	一七六	一七七
陸稻關係	三五・八分	一二	二六	一四	一四	一四	一四	一四
蔬菜關係	二〇	六	二六	一四	一四	一四	一四	一四
柑橘關係	一〇	四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
甘藷及里芋關係	三〇	九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
蕎麥關係	六〇・二分	七	六七・二分	六七・二分	六七・二分	六七・二分	六七・二分	六七・二分
計	一八七	三八	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
茶採職工	九三	九三	九三	九三	九三	九三	九三	九三
器械付人夫	一七七	一七七	一七七	一七七	一七七	一七七	一七七	一七七
仕上販賣人	七四	七四	七四	七四	七四	七四	七四	七四
蒸人夫	一一六	一一六	一一六	一一六	一一六	一一六	一一六	一一六
設備其他	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
摘婦監督	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二
計	四二一	四二一	四二一	四二一	四二一	四二一	四二一	四二一
林	一一四	一一四	一一四	一一四	一一四	一一四	一一四	一一四
刈	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五
料	一五七	一五七	一五七	一五七	一五七	一五七	一五七	一五七

播種より中耕迄
 播種より收穫後深耕迄
 整地より
 播種中耕二回施肥二回收穫調製迄
 瓜類茄落花生根菜類
 耕種施
 苗床より收穫貯
 一番茶に於て
 一、二、三番茶人夫
 製造前の設備
 一、二、三番茶共
 一番茶千三十九人 中程迄常備中途より目摘とす
 二番茶五百六十六人 目摘……三番茶二百十三人……同上
 伐採、三反歩、落葉拾下刈等
 家畜用
 鷹芥百三十人 大宮町より運搬馬子
 購入肥二人 運搬
 厩肥二人 同
 厩肥、堆肥の積換及金肥粉碎人夫

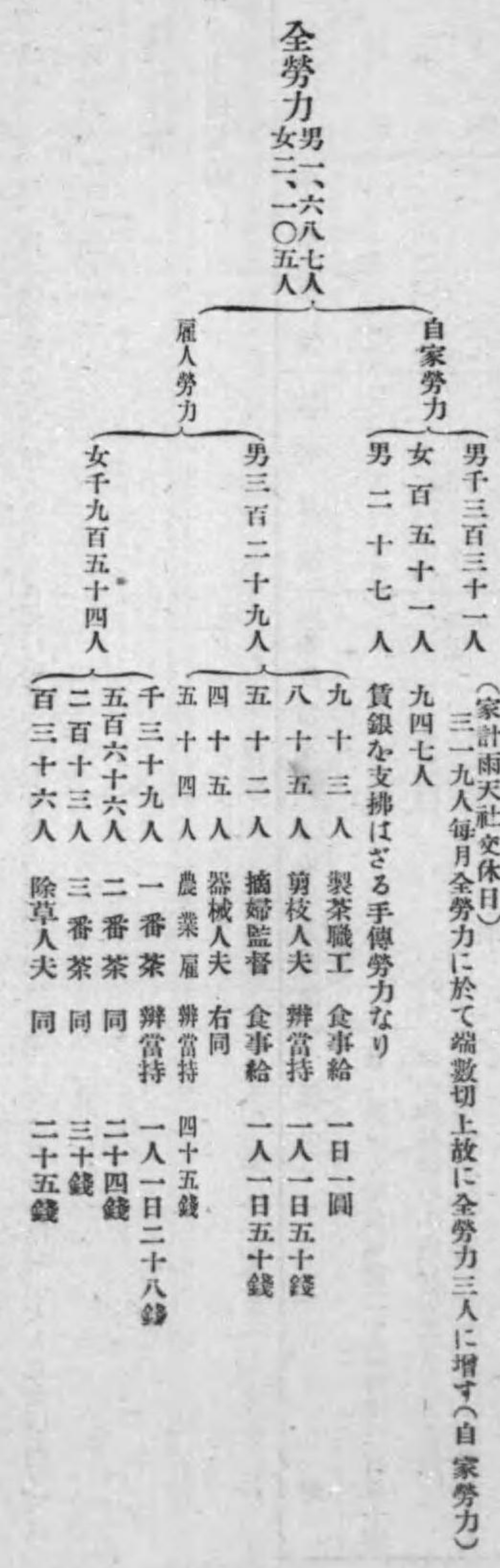
臨時建物	自家供給人夫	手傳	石工	大工	左官	細工	木職	疊職	桶職
一五	二七	一〇	九八	一三	一三	一三	二二	二二	二二
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七

(ろ) 毎月別勞力表

月別	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	計
一月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十一月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十二月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

月別	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	計
一月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十一月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十二月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

附言 間作茶園作物の手入をなす毎に茶樹の管理をもなす故割合に勞力を要せず
 は) 毎月旬別勞力需要表(表省略)
 に) 勞力集計表



附記 右一、二、三、四各勞力表に於て何人となるは男にありては壯丁勞力を以て終日作業に付きたるを以て一人とし女にありては二十一歳の婦人一日の勞力を一人とす

第二、農業資本

一、土地資本

所有反別	經營反別	平均反當地價	平均反當時價	備考
田 五〇一三 反	六二、〇〇〇	十二圓	一〇〇	他に貸付く反當地價二十圓時價三百五十圓 半小作茶園の小作分引去りたる金額 宅地は六分を事業に計上し四分を家計に入 る
畑 八二、〇〇〇	九〇、六	二十錢	坪 一	
宅 一五一	二〇、六二四	一圓	坪 二五	
山林及竹林 二〇、六二四	八、三〇〇			
合計 一〇八、二〇八				

經營地時價合計六千八百七圓二十五錢

二、建物資本

構造	坪	見積金額	今後保存年限	償却金	修繕費	同上合計	備考
住宅 平屋作り瓦 三六	坪	三〇〇、〇〇〇	三年	一〇、〇〇〇	二、五〇	一二、五〇	今後改築の目的あり
倉庫 二階建瓦屋 七、五	坪	一五〇、〇〇〇	五年	三、〇〇〇	五〇	三五〇	改築の目的あり
納屋 平屋草屋根 五	坪	三〇、〇〇〇	一年	四、〇〇〇	一、五〇	四五〇	改築の目的あり
厩舎及液肥 平根瓦屋根 八	坪	六〇、〇〇〇	一年	七、〇〇〇	一、五〇	七、五〇	改築の豫定
茶部 同 二四	坪	一五七、五九	五年	七、〇〇〇	三、五〇	一〇、五〇	

三、農具資本

(5) 製茶器具

個數	單價	購入價額	使用年限	償却金	修繕費	備考
石油發動器 一	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一年	三〇、〇〇〇	一、五〇	三馬力 石棉及検査料
茶葉打器 二	五〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一年	一〇、〇〇〇	二〇	
熱風火爐 二	二六、〇〇〇	五二、〇〇〇	三年	一七、三七	一、〇〇	二年にて煙突修繕をなす
揉捻器 二	八〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	一年	一六、〇〇	五〇	
精揉器 一	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	五年	三〇、〇〇〇	一、〇〇	
精揉器 一	一三〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	五年	二六、〇〇〇	一、〇〇	
ベルト 七	四〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇	四年	一〇、〇〇〇	一、五〇	
動力附屬品 他ト一本其 同	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	三年	一、七〇		
仕上中火乾燥室 一	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一年	五、〇〇〇	二、〇〇	鐵板渡神附屬す
焙爐助炭 一	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一年	三、〇〇〇	二、五〇	粘土及左官賃金なり
蒸釜 一	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一年	二、〇〇〇	二、〇〇	附屬品をも代價に加入修繕左官代
蒸器 一	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	五年	三、〇〇〇		石灰粘土代

品名	計	箱	個	單	價額(新調價)	價却金	修繕費	備
茶箱	一〇	一〇	三、〇〇〇	六、〇〇〇	一五〇	四〇		
同製用切籠	八	一、二五〇	一〇、〇〇〇	三〇〇	一〇〇	六〇		
再製用切籠	一	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇		
同手釜	一	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇		
消火器	一	四、五〇〇	四、五〇〇	三〇	三〇	三〇		
貯藏瓶	三	六〇	二、八〇〇	五〇	一〇	〇五		
鐵葉罐	三	一〇	三、〇〇〇	一〇	一〇	〇五		
水色茶碗	四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五	三	二〇		
茶風袋	三	九、〇〇〇	一、〇〇〇	三〇〇	一五九、三五〇	一、〇〇〇		
合計			一、一六五、八〇〇			一四、二〇〇		

(ろ) 其他の農具

品名	計	個	價額(新調價)	價却金	修繕費	備
品	四七	一六	一八三、九八	二〇、三〇一	八八	本欄は合計額を表す

四、家畜資本

種別	頭数及羽数	單	價	前年度末價格	現價	備
馬	一	一	六〇、〇〇	六〇、〇〇	七〇、〇〇	牝
豚	一	一	八、〇〇	八、〇〇	四〇、〇〇	牝
雞	七	一	七、一強	五、〇〇	八、四〇	雄一 雌六
計			七三、〇〇			畜産收入へ計上

五、植物資本

種別	反別又は本數	見積價格	備
茶樹	全茶園三町二反歩 間作茶園五町歩	二、一八四 一、五〇〇	普通畑價格と茶園價格の差額を以て茶樹の價格とせり
柑橘	百五十本	四、五〇	
計		三、七二九	

六、其他の資本

種別	數	量	價	額	備
圃場貯蔵子	五斗五升		二五、〇〇		
飼料	三十八貫匁		九、五〇		
雜種			一五、〇〇		
計				四九、五〇	

七、資本總額

金一万三千九百六圓十二錢
第三 事業收支

甲、收入

第二編 農業經營の一斑

雞ノ勞力	一、九三	一頭	
馬ノ勞力	一、二〇、六三		
計	一、四四、五六		

卵及雛代など但しは賣却分のみ計上自家用に用ゐたる分不明

四、林産

薪炭	建築用松材	建築用杉材	ソダ及下刈ソダ	落葉	計	數	量	單	價	價	格	備	考
	三、六〇四貫	一七本	五本	三六六把	九三荷			一回に付	四五貫	八〇、〇八		自家用	
		同	同	一把	一荷					五〇、〇〇		製茶場新築に用ふ	
										一二、〇〇		製茶場新築に用ふ	
										二五、六二		地方にては一名もやとも稱す薪炭材の枝及	
										九、三〇		枝先なり下刈を含む故一把一錢と見積る	
										一七、〇〇		伐採四年目より掻き始め一町四反歩生産	

五、勤勞收入

擔當手當	計	金	額	備	考
富士郡茶業組合試験茶園擔當手當	一〇、〇〇〇				
富士郡重要物産競進會茶園審査日當也一日金一回	一〇、〇〇〇				
計	二〇、〇〇〇				

六、資本増價額

建	馬	豚	雞	計	年	度	始	年	度	末	増	價	額
							一、〇八七、五九			一、三三〇、〇〇			二四二、四一
							六〇、〇〇			七〇、〇〇			一〇、〇〇
							八、〇〇			四〇、〇〇			三二、〇〇
							五、〇〇			八、四〇			三、四〇
													三八七、四五

七、收入總額

金四千五百三十一圓六十八錢

乙、支出

一、建物費

臨時建物改築費	臨時修繕費	臨時災害準備金	計	金	額	備	考
三四二、〇五〇	一五、〇〇〇	二五、〇四〇	三八二、〇九〇			茶部屋改築諸費材木其他全支出	

二、茶業用器具費

金	額	備	考

三、其の他の農具費

計	新購入費	修繕費
一九、三〇〇	一四、二〇〇	三三、五〇〇

消却積立具以外に新購入せしもの

四、種苗費

大豆	豆	子	麥	麥	麥	甘藷	馬鈴薯	小芋	馬鈴薯	小芋	及小
二、四〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	八、五〇〇	二、八〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	五、〇〇〇
價	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
二、四八〇	一、一〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	八、五〇〇	二、八〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	六、五〇〇

五、茶園の肥料費

餅	種	米	過	茶	硫	應	落	雜	杏	人
一、一、五〇	四、二、〇〇	二、二、五〇	六、二、五〇	九、〇〇	六、八〇	一〇、〇〇	六、五〇	二、三〇	一、五〇〇	二、四、五五
一、一、五〇	四、二、〇〇	二、二、五〇	六、二、五〇	九、〇〇	六、八〇	一〇、〇〇	六、五〇	二、三〇	一、五〇〇	二、四、五五
一、一、五〇	四、二、〇〇	二、二、五〇	六、二、五〇	九、〇〇	六、八〇	一〇、〇〇	六、五〇	二、三〇	一、五〇〇	二、四、五五

六、間作茶園及同作物肥料費

餅	種	米	過	茶	硫	應	落	雜	杏	人
一、一、五〇	四、二、〇〇	二、二、五〇	六、二、五〇	九、〇〇	六、八〇	一〇、〇〇	六、五〇	二、三〇	一、五〇〇	二、四、五五
一、一、五〇	四、二、〇〇	二、二、五〇	六、二、五〇	九、〇〇	六、八〇	一〇、〇〇	六、五〇	二、三〇	一、五〇〇	二、四、五五

一圓に付一貫九百匁
 十六貫匁にて四圓二十錢
 十貫匁にて九十錢
 十貫匁に付一圓二十五錢
 百貫匁二圓
 一貫匁八十五錢
 他より取るも代價なし見續りは運賃なり

大 蠟	二七、三七	五	二七、三七	菜種子油粕を種子粕と通稱
種 豆	一一、二〇	一	一一、二〇	一枚一圓二十錢
米 籾	一一、二〇	一	一一、二〇	一畝四圓二十錢
過 酸	二、七〇	一	二、七〇	一俵九十錢
木 灰	一一、五〇	一	一一、五〇	一畝一圓二十錢
木 灰	一〇、〇〇	一	一〇、〇〇	一本は約一斗五升なり
木 灰	三、四〇	一	三、四〇	
木 灰	二、八〇	一	二、八〇	
木 灰	九三、〇〇	一	九三、〇〇	
木 灰	四、五〇	一	四、五〇	
木 灰	四、〇〇	一	四、〇〇	
木 灰	二二〇、〇七	一	二二〇、〇七	

附 記

自分の農業開始當時は附近に山林原野多く雜草豊富にて自給肥料の供給充分なりしが年と共に開墾せられ現今にては是等の残存極めて少く自給肥料又大に不足を次ぐ状態となり此に於て明治四十四年大宮町陸傍の廢芥を無代譲與を町役場より權利を得て持久肥料不足を補ふ支出に付ては無代なる爲計上せず是に要する人夫賃は勞力の内に計上し馬は資本の内に加入する故なり廢芥運搬に農繁時期勞力不足を生ずる場合ある故遠茶園を自作し是に一時貯へ勞力の均一を計る

七、臨時製茶工費

金 額	六〇、〇〇	生 葉	一五〇貫	天氣の關係にて一茶一時に成長せし故動力に不足を生じ賃採を依頼す
備 考				一貫四十四錢

八、雇人費

常 雇 人	四五〇〇	一	一箇年の給金	考
右 同 人 雜 費	一〇、三〇	一	衣服費及獎勵金	
常 雇 人	一〇、〇〇	一	一箇年の給金	
右 同 人 雜 費	八、五〇	一	衣服費及獎勵金	
臨 時 雇 男	九三、〇〇	九三	製茶職工	
同 雇 女	四八、五〇	九七	摘採監督及器械使用人夫	
同 雇 女	四二、五〇	八五	摘採人夫	
同 雇 女	二四、三〇	五四	耕耘人夫	
同 雇 女	二九一、〇七	一〇三九	一番茶摘採 中途迄賃雇	
同 雇 女	一三五、八四	五六六	二番茶摘採 以後目摘み	
同 雇 女	六三、七八	二一三	三番茶摘採	
同 雇 女	三四、〇〇	一三六	除草人夫	
同 雇 女	一五、〇〇		製茶職工及摘採等の獎勵の爲物品給與代金	
計	八二一、七九			

九、消耗品費

燃 料	一六九、七六	自家生産品供給額	一〇五、七〇	備 考
炭 代	六四、七一	備	製茶用石炭一萬斤七十圓	
石 油	一一一、〇二			

第二編 農業經營の一斑

雜計	品	三、八、五、一	三、五、五、一	一、〇、〇、〇	
		三、八、五、〇	二、七、八、三、〇	一、〇、六、七、〇	
		五、五、〇、〇			

七十

一〇、家畜費

菓	米	麥	款	甘	蹄	蹄	交	計
糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖
一〇、三、三	六、五、〇	六、八、〇	八、二、五	二、四、〇	六、〇、〇	八、四、〇	二、〇、〇	五、五、六、七
八六〇	七、五、〇	一、七、五、〇	六、〇、〇	二、一、〇、〇	二、〇、〇	二、〇、〇	二、〇、〇	
六、一、二	一、八、〇	四、八、〇	六、六、〇	六、〇、〇	八、四、〇	二、〇、〇	二、五、七、二	
百買勿二圓	一把一錢二厘	十買勿九十錢	一袋中糖四十錢	一袋一圓六十五錢	一買勿四錢	一買三十錢	六買六百勿入	

一一、諸雜費

藥	計	雜	費	品	金	額	備	考
茶樹病蟲害驅除豫防藥品	一二、八、〇	茶樹病蟲害驅除豫防藥品	一二、八、〇	茶樹病蟲害驅除豫防藥品	一二、八、〇	茶樹病蟲害驅除豫防藥品	茶樹病蟲害驅除豫防藥品	茶樹病蟲害驅除豫防藥品
農業上の通信費及同支出諸雜費	二二、四、二	農業上の通信費及同支出諸雜費	二二、四、二	農業上の通信費及同支出諸雜費	二二、四、二	農業上の通信費及同支出諸雜費	農業上の通信費及同支出諸雜費	農業上の通信費及同支出諸雜費
	三五、二、二		三五、二、二		三五、二、二			

一二、租稅諸掛り

畑	組	計	金	額	備	考
（宅地六分）	合	費	一九九、八一	七、一〇	畑租縣村稅雜種稅及戶數割所得稅の一部等及農會費	
			二〇六、九一		茶業組合器械稅及分頭割	

一三、資本利子及償還費

農	借	右	其	計	金	額	備	考
業	入	同	他		六、五、四、八一	三、〇〇、〇〇	一、二、七、九二	一、二、二、六、九八
資	金	利	返		六、五、四、八一	三、〇〇、〇〇	一、二、七、九二	一、二、二、六、九八
本	返	子	濟		六、五、四、八一	三、〇〇、〇〇	一、二、七、九二	一、二、二、六、九八
利	用	金	金		六、五、四、八一	三、〇〇、〇〇	一、二、七、九二	一、二、二、六、九八
子	償	子	子		六、五、四、八一	三、〇〇、〇〇	一、二、七、九二	一、二、二、六、九八
	還				六、五、四、八一	三、〇〇、〇〇	一、二、七、九二	一、二、二、六、九八
	金				六、五、四、八一	三、〇〇、〇〇	一、二、七、九二	一、二、二、六、九八
					六、五、四、八一	三、〇〇、〇〇	一、二、七、九二	一、二、二、六、九八

一四、資本減價

建	茶	其	計	金	額	備	考
物	物	他		四、一、五、〇	一、五、九、三、五、〇	二〇、三、八、〇	二二、一、二、三、〇

以上支出合計金三千七百七十八圓七十九錢

丙、收支計算

差支	收入	金額	備考
出	入		
引	額	四、五三、六八	總額
		三、七七、七九	同
		七五二、八九	經營純益

第四 大正五年製茶調

生葉全產額 七千四百八十四貫二百匁
 製茶量 千八百七十一貫〇七十匁
 純賣上代金 三千二百六十五圓三十三錢
 製造費金 千四百九十八圓七十六錢
 差引利益金 千七百六十六圓五十七錢
 農業より生葉を産する生産費の見積り金 千四百九十六圓八十四錢
 差引製造純益二百七十九圓七十三錢
 一、收入内譯 生葉一貫匁二十錢と見積る

番	生葉生産數量	製茶量	格	製茶單價	備考
一 番茶	四一五八、二〇〇	一〇三九、五五〇	一九四三、九五	一、八七	單價は一貫匁當り
二 番茶	二二六四、〇〇〇	五六六、〇〇〇	八八八、六二	一、五八	
三 番茶	一〇六二、〇〇〇	二六五、五〇〇	四三二、七六	一、六三	
計	七四八四、二〇〇	一八七一、〇七〇	三、二六五、三三		

二、一番茶收支明細

名	稱	金額	說明	期	間	生葉一貫匁當り經費
摘探	摘探賃	二九一、〇七	摘探其他			〇、〇七
器機使用	器機使用人夫賃	五八、八〇	八四人代	五月十四日より		〇、〇五
茶採	茶採職工賃	九三、〇〇	食費共七十錢	六月四日迄		
蒸人夫	蒸人夫賃	二七、〇〇	九三人代	五月九日より		〇、〇〇
生葉製茶運搬及仕上	生葉製茶運搬及仕上茶販賣人	四一、五八	同一圓	六月四日迄		〇、〇一
薪木及石炭	薪木及石炭代	八五、〇〇	女五十四人代	右同		〇、〇四
石油	石油代	五二、一四				
器機建物償却	器機建物償却金	一二四、七四				〇、〇三
炭	炭代	三七、〇〇				〇、〇九
雜	雜費	二〇、七九				〇、〇三
賃	賃	六〇、〇〇				〇、〇三
計	計	八九一、一二				二、一四

收入金千九百四十三圓九十五錢

支出金八百九十一圓十二錢

製茶一貫毎に付八十五錢五厘

差引利益金千五十二圓八十三錢

三、二番茶收支明細

名	勞		稱金	額	明	生業一貫毎當り經費
	力	資				
摘採	摘採	摘採	費	一三五、八四	貫毎摘採	〇六六
同監督	同監督	同監督	費	一四、〇〇	一日食費共七十錢	〇六六
器械使用人夫賃	器械使用人夫賃	器械使用人夫賃	費	四二、〇〇	右同(六十人)七十錢	〇二七強
運搬	運搬	運搬	費	二二、六四	石炭、生葉、製茶運搬販賣運搬	〇二〇
蒸人夫賃	蒸人夫賃	蒸人夫賃	費	二〇、〇〇	女四十人食費共一圓五十錢	〇二七強
石油	石油	石油	代	四四、七〇	石油十六本	〇二〇弱
燃料	燃料	燃料	代	四〇、〇〇	マシ油一本	〇一八
炭	炭	炭	代	一九、一九	白炭四十一俵	〇〇八五
器械建物償却金	器械建物償却金	器械建物償却金	費	六七、九二	規程により	〇三〇
雜費	雜費	雜費	計	一一、三二		五〇〇
計	計	計	計	四一七、六一		平均一貫毎當り(生葉)、一八四五

收入金八百八十八圓六十二錢

支出金四百七十七圓六十一錢

平均一圓五十八錢賣上

製茶一貫毎に付七十三錢一厘

差引利益金四百七十一圓〇一錢
四、三番茶收支明細

名	勞		稱金	額	明	生業一貫毎當り經費
	力	資				
摘採	摘採	摘採	費	六三、七八	一貫毎六錢の摘採	〇六
器械使用人夫賃	器械使用人夫賃	器械使用人夫賃	費	二三、一〇	三十三人一人一日食費共七十錢	〇三
蒸人夫賃	蒸人夫賃	蒸人夫賃	費	一一、〇〇	女二十二人右同五十錢	〇〇二
運搬	運搬	運搬	費	一一、〇〇	諸運搬及販賣運搬	〇二〇一
石炭及炭代	石炭及炭代	石炭及炭代	代	二七、六八	八、五二炭	〇二六
石油	石油	石油	代	一五、一八	一九、一四石炭	〇一五
雜費	雜費	雜費	費	六、四〇	六本三分	〇〇六
器械建物償却金	器械建物償却金	器械建物償却金	計	三一、八九	規程通り	〇〇三
計	計	計	計	一九〇、〇三		一七九弱

收入金四百三十二圓七十六錢

支出金百九十圓〇三錢

一貫毎平均賣上一圓六十錢

差引利益金二百四十二圓七十三錢

一二三番茶計金三千二百六十五圓三十三錢

同 支出計金千四百九十八圓七十六錢

差引利益金千七百六十六圓五十七錢

第二編 農業經營の一斑

第三章 梨業兼營普通農業

富士郡加島村 石川 松次郎

目次

第一 概況

一、農場並其所在地方の狀況 二、經營土地反別並其利用 三、業主、家族及雇人 四、財産事業及家計の概要

二、勞力

一、年内勞働成績 二、重要作物に對する勞力

第三、農業資本

一、土地 二、建物 三、農具 四、家畜 五、植物 六、其他の資本 六、資本總額

第四、事業收支

甲、收入

一、米 二、麥 三、雜穀 四、蔬菜 五、果實 六、生産肥料、七稈稿枝條 八、畜産 九、副業收入 一〇、雜收入

一一、資本増價格 一二、收入總額

乙、支出

一、建物費 二、器具費 三、種苗費 四、肥料 五、飼畜費 六、雇人費 七、租稅諸掛り 八、病蟲害豫防驅除費

九、荷造費 一〇、梨棚修繕費 一一、諸雜費 一二、資本利子 一三、勞働賃 一四、支出總額

丙、收支總額

第五、家計

一、收入 二、家計費 三、家計收支

第六、農場の略歴

第七、將來の計畫

一、今後梨園の減少 二、堆肥舎建設

第一 概況

一、農場並其所在地方の狀況

(一) 天氣 (大正五年)

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
晴天日數	二四	一八	二〇	九	一六	一〇	二〇	二五	二二	九	一五	一五	二〇三
曇天日數	六	六	一〇	一五	九	一三	七	三	四	一三	六	一〇	一〇二
降雨日數	一	四	一	六	六	七	四	三	四	九	九	六	六〇

氣候は溫暖にして平均気温十五度二分雨量は稍多く平均二千五百四十六「ミリメートル」なり。初霜は十一月十日乃至十二月二日にして普通十一月二十日前後にあり終霜は三月十五日乃至四月四日普通二月二十四日頃なり。気温は最高は八月にありて攝氏三十二度、最低は二月にして零下八度三分に下降せる事あり。降雪は殆んど見ず。風向は初春は北風多く晩春より夏季に亘りては南風多し殊に梅雨期に際し南方の暖風は多量の水蒸氣を誘ひ連日晴れざる事あり初秋の候に至れば颶風の襲來する處あり冬季は西北の風強く快

晴の日は此の季に於て最も多し

(二) 位置、地勢、土質、交通等

加島村は富士郡の西南に位し北方富嶽に近く南は田子浦村を隔て、駿河灣に面し西は富士川の急流を劃して庵原郡に界し東北は潤井川を界して吉原、島田、傳法、鷹岡の諸町村に連り地勢平坦にして地味肥沃なり。東海道往還並に鐵道線路は東西に貫通し停車場(富士驛)は其の中央に在り、耕地七百餘町歩を有し從來主として米麥を栽培せしも近年梨園百餘町歩に及び其産額年々増加せり。經營者の居住は村の中央なる水戸島にあり農場は宅地を中心として遠きも四、五町に過ぎず、道路平坦耕作地は運搬交通自由にして停車場(富士驛)を去る約七町なり

土質は富士川の沖積土にして概ね壤土又は砂質壤土よりなり表土の深さ五六寸心土も畧均しく三四寸乃至二三尺の下層は砂礫より成り排水頗る可良なり

(三) 農場平面圖

省略

(四) 當地方一般農家經濟狀態

(い) 普通農家經濟狀態

本村は村内に大地主あり従て小作農多し普通農家として家族七人内労働者男一人五分女一人を有する者の經濟狀態左の如し

經營反別は田九反五畝步畑三反一畝步(梨園二反五畝步畑六畝步を有す)にして山林原野を有せず

家畜は概ね牛を飼養し耕耘用を使用す

主なる販賣品は右の程度なる經營者にして米拾九俵、麥八俵、梨果二六〇箱其他にて拾五圓此合計代金四百卅五圓八拾錢なり然るに明治四十年頃迄は米廿二俵麥九俵梨果八〇箱此合計代金二百參拾圓に止まれり生産費中購入の主なるものは肥料にして梨及稻作用の大豆粕、魚肥等大部分を占め猶化學肥料をも使用す之れを明治四十年頃に比すれば價額に於て凡そ三倍に達したるは主として梨栽培反別の著しく増加したるに依れり

生計用品の購入額は凡そ百七八十圓なり

(ろ) 労働時間

自一月至四月、十一時間此内食事時間二時間

自五月至九月、十四時間内食事時間二時間

八、九月中は特に夜一時間梨箱荷造を爲すを例とす

自十月至十二月、十一時間内食事時間二時間

(は) 休日

一月は、一、二、三、十五、十六日。二月は、大祭日休み。三、四月雨天の外は休業日なし五月二日休業日。六月二十六、二十七、二十八日は農休み。七月一、五、十、十五、二十、二十五、八月一、十五、十

六。九月休業日無し。十月十八日(祭日)。十一月天長節の外休業なし。十二月十五日。以上の外年内十二日内外の臨時休業日あり。

(に)雇人賃銀

年内各季を通じて辨當持男五十錢女二十五錢食事を雇主にて給する時は男三十五錢なり、但し當地は挿秧期、梨樹害蟲驅除期等には臨時雇人を使用し特に男五十二錢女二十八錢を給す

(ほ)貸借の利率

百圓以下 年一割四分 百圓以上 年一割二分

(へ)土地の價格中等の土地一反歩當り時價

林 畑 田 地	大正五年	明治四十年	明治三十年
百三十四百五十圓(梨)	三百五十圓(梨)	二百五十圓	二百五十圓
百五十圓(普)	二百五十圓(普)	二百五十圓	二百五十圓
百八十圓	二百五十圓	二百五十圓	二百五十圓

二、經營土地反別並其利用 (大正五年)

田六、四一五
 二毛作地 四、一五 稻 紫雲英 四、一五
 三毛作地 二、三〇〇 稻 紫雲英 二、三〇〇
 三毛作地 二、三〇〇 劉豆 二、三〇〇

三、業主、家族

戸主との続柄	年	齡	壯丁労働力に對する比例	年内労働日數	摘	要
業主(戸主)		五〇	一〇	三一七	農業の外社交其他公共事業に従事す	
同妻		五〇	一〇	三〇〇	概し家事に従事すれ共農業の際に業務に服することあり	
同長男		三二	一〇	二九三	農業に従事し傍ら公共事業の事務を執る	
同妻		三一	一〇	二九三	梨園縫織及家事に従事す	
同女		一六	一〇	三二五	同	
同女		一三	一〇	三二五	同	
六女		一三	一〇	三二五	同	
孫		三五	一〇	三二五	同	

宅地一、二二
 梨園一、二、二〇〇内一反は梨樹若きを以て果芋の間作あり
 冬作一、五 麥、五
 夏作一、五 陸稻、七 小豆、三
 秋作 大根、三
 梨園一、二、二〇〇内一反は梨樹若きを以て果芋の間作あり
 冬作一、五 麥、五
 夏作一、五 陸稻、七 小豆、三
 秋作 大根、三

雇人は梨害蟲驅除及び收穫の時季臨時に雇入る、を例とす

四、財産事業及家計の概要

經營者は自作兼小作農にして、經營土地二町一反三畝五步(田六反四畝十五步畑一町三反七畝宅地一反一畝二十步)此時價七千九百十六圓五十五錢、家屋總建坪五十七坪五合此の現價千三十二圓、農具現價百二

十七圓二十七錢、之に家畜植物等約七百七十六圓餘を有し以上の所得と財産の收入とを以つて家計を立つるものなり

家業は梨栽培を主とし米麥作を副とし主に自家の勞力を以て之を營み農繁の時期は臨時雇人を雇用せり

第二 勞力

一、毎旬別勞働成績

月別表を省略し年計のみを掲ぐ

年計	男		女		計
	男	女	男	女	
計	五六、九	四三、八	一六、三	三〇、〇	六七、九
	稻	粟	作	陸	稻
	小	麥	甘	烟	菜
	其	他	梨	園	其
	他	計	計	計	計
	六、〇〇	四、〇八	二、八、八	一、七、三	六、五、二
	二、〇、八	二、八、八	七、三	六、五、二	二、五、七、一
	二、〇、八	二、八、八	七、三	六、五、二	二、五、七、四
	二、〇、八	二、八、八	七、三	六、五、二	二、六、六、八
	二、〇、八	二、八、八	七、三	六、五、二	二、六、三、三
	二、〇、八	二、八、八	七、三	六、五、二	二、六、三、六

二、重要作物に對する勞力

(イ) 稻作

作付反別	耕種苗代	除	草	挿	刈	取	調	製	追	肥	計
六、四一五	三八、四	一九、七	九、六	一二、八	五、一、二	一九、二	一〇〇、七				

(ロ) 梨園

作付反別	施	肥	中耕及除草	棚替及修繕	間	引	剪	定	病蟲害驅除	采收及選別	荷造及運搬	計
一二、三	六一、一	八三、二	九一、一	四八、八	七一、二	二三九、八	七三、二	一一六、二	七八四、五			

第三 農業資本

一、土地

所有反別	借用反別	反別	經營反別	地所	價時	地價
一二、七二二	二、七二八	一、二二〇	一、二二〇	六四八、五〇〇	五、四九〇、〇〇	
二、七二八	一、二二〇	一、二二〇	一、五〇〇	八九、三五〇	八一八、四〇〇	
一、二二〇	二、八二七	三、五一一	一、二二〇	二七九、九〇〇	五六〇、〇〇	
一、八、六〇七	三、九二六	二、三〇五	六、四一五	一、一五九、三六〇	八一、二七二、一五	
計					八、一四〇、五五	

宅地を使用の状態に由りて事業と家計とに區別す

事業計	家用計	反別	地價	時價	價
一、七〇〇	四二〇	一、二二〇	一六八、〇〇〇	三三六	
一、二二〇	一、二二〇	二八〇、〇〇〇	一一二、〇〇〇	二二四	
計	計	計	計	計	計
一、二二〇	一、二二〇	二八〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇	五六〇	

二、建物資本

住宅	建坪	構造	新築費	見積價格	今後保存年限	償却金	修繕費	同上計	事業用途	備考
三五、七五	平瓦	葺	一、二〇〇	八〇〇	五年	一六	五	二一	事業三分	四十五年新築
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
三五、七五	平瓦	葺	一、二〇〇	八〇〇	五年	一六	五	二一	事業三分	四十五年新築

第四 事業收支

甲

一、農産物收入

品名	数量	単價	價格	備考
米	一七、八〇	一三、〇〇	二三、四〇	品種 中神力
陸稻	一、六五	一三、二〇	二一、七八	陸稻(極)
層米	一、四〇	六、五〇	九、一〇	
小	二〇、八五	八、五〇	二六二、二八	白稈種
大	一、四〇	一〇、〇〇	一四、五〇	
豆	五、三五	一、二五	四七、六五	田の畦畔にて收穫す
豆	一、二〇	一七、五〇	一九、二五	
甘藷	一、五〇	〇、四〇	一六、八〇	梨園の間作
芋	四、二〇	〇、二五	一、七六	梨園の間作
根	一、八〇	〇、六五	一、八〇	同
胡蘿蔔	二、四〇	〇、一五	一、六〇	同
牛糞	一、二〇	〇、二〇	一、六〇	同

品名	数量	単價	價格	備考
漬菜	二〇	〇、六〇	一、二〇	同
瓜	六、七〇	〇、九〇	五、四三	同
梨	一、六一	〇、六〇	二、三五〇、〇〇	宅内に栽培せるものにして立木のま ま見積にて賣却す
柿	七、七〇	〇、六〇	五、六〇	
梅	四、四〇	〇、〇六	四、四〇	
柑	四、四〇	〇、〇六	四、四〇	
紫雲英	二、四〇	〇、一五	三、六〇、三〇	
刈草	六、五〇	〇、一五	九、七五	
鶏糞	九、五〇	〇、一〇	九、五〇	
鹿肥	二、七五	〇、一〇	二、七五	刈草野草等
其他肥料	二、七五	〇、一〇	二、七五	
稻	六、八九	〇、二五	八、九二五	
麥	一、〇四	〇、二〇	二〇、八〇	
梨	二、二五	〇、一〇	二、二五	梨樹の落葉及宅地内立木の枝條等
其他枝條	三、八〇	〇、八五	三、二五〇	
雞糞	三、五〇	〇、八〇	二、八〇	
其他	三、五〇	〇、八〇	二、八〇	
畜産	三、五〇	〇、八〇	二、八〇	
其他	二、四〇	〇、二〇	四、八〇	草履其他
副業收入	二、四〇	〇、二〇	四、八〇	
其他	二、四〇	〇、二〇	四、八〇	

第二編 農業經營の一斑

雑収入	一五〇	、三六〇	五、四〇	九、五〇	農會審査其他の手當
荷計			一四、七〇		
報酬					
手當					

一、資本増價額

年度	始年	年度	末	差引	増額	備考
果樹	六四六、〇〇〇	七三七、五〇〇	九一、五〇〇	梨樹成長の爲價格増加す		考
雑木	一九、〇〇〇	二二、四〇〇	三、四〇〇	同		
農具	一二七、二七〇	一八九、八四〇	一二、五六〇			
土地						
計			一〇七、四六〇			

一二、收入總額

一金參千參拾四圓六拾九錢

乙 支出

一、建物費

修償	金	額	備考
繕却		三七、七八	
費金		二〇、〇〇	
計		五七、七八	

二、器具費

新修償	金	額	備考
調繕却		二七、七三三	
費費金		五、二五〇	
計		一五、六〇〇	
		四八、五八三	

三、種苗費

種苗	品名	金額	説明	自家にて供給し得る數量	單價	同上價格	全支出より自家生産供給價格の差引高
豆類	豆類	二、三八		一、九五	〇、八五	一、六六	
薯類	薯類	一、三五	大根種一合五	一升五合	〇、九〇	七、二二	
其他	其他	、一二	與其他	二升	〇、六〇	、七二	
里芋	里芋	、七二		一升	〇、四〇	、五六	
甘藷	甘藷	、五六		四升	〇、四〇	、五六	
梨苗	梨苗	五、二二		八升	〇、三〇	三、三六	
紫雲英	紫雲英	三、三六			四、二〇	七、一五五	
計		七、一六					五、三四

四、肥料

肥料	品名	金額	説明	自家にて供給し得る數量	單價	同上價格	全支出より自家生産供給價格の差引高
堆肥		二七、五〇		二七、五〇	一、〇一	二七、五〇	

第二編 農業經營の一斑

肥料名	稲		麥		菜		梨		木	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
紫雲英	三六〇〇	四〇	二四〇〇	〇・一五	三六〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇			
人糞	三八、二五	九、五〇	四、五〇	〇・一〇	三八、二五	一八、〇〇				
雞糞	九、五〇	二、一六〇	九、五〇	〇・九〇	九、五〇	一八、〇〇				
米糠	二、一六〇	九、七五	二、一六〇	〇・一五	二、一六〇	九、七五				
刈豆	二、四〇〇	八、二〇	二、四〇〇	〇・一五	二、四〇〇	八、二〇				
木灰	二、四〇〇	八、二〇	二、四〇〇	〇・一五	二、四〇〇	八、二〇				
大豆	一、二三〇	八、三〇	一、二三〇	〇・一〇	一、二三〇	八、三〇				
大粕	八三、〇〇	二、四〇	八三、〇〇	〇・一〇	八三、〇〇	二、四〇				
過燐酸石灰	二四、二〇	二、二〇	二四、二〇	〇・一〇	二四、二〇	二、二〇				
計	三九六、八〇	二二〇	三九六、八〇	二二〇	三九六、八〇	二二〇				

附 各作物施肥數量

肥料名	稲		麥		菜		梨		木	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
堆肥	五〇〇	四、〇〇	四、五〇	四、五〇	一八〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇			
紫雲英	六五〇	九、七五	六〇	二七	一五〇	二、二五	一五六〇	二、三四〇		
人糞	九、七五	二七	二、一六〇	三、五〇	二、二五	三、五〇	二四〇	二一、六〇		
雞糞	六、六〇	二七	二、一六〇	三、五〇	二、二五	三、五〇	二四〇	二一、六〇		
米糠	二、一六〇	九、七五	二、一六〇	三、五〇	二、二五	三、五〇	二四〇	二一、六〇		
野草	二、一六〇	九、七五	二、一六〇	三、五〇	二、二五	三、五〇	二四〇	二一、六〇		
草灰	二、一六〇	九、七五	二、一六〇	三、五〇	二、二五	三、五〇	二四〇	二一、六〇		
草木灰	二、一六〇	九、七五	二、一六〇	三、五〇	二、二五	三、五〇	二四〇	二一、六〇		
過燐酸石灰	二、一六〇	九、七五	二、一六〇	三、五〇	二、二五	三、五〇	二四〇	二一、六〇		
大豆粕	一、二三〇	八、三〇	一、二三〇	八、三〇	一、二三〇	八、三〇	一、二三〇	八、三〇		
大粕	八三、〇〇	二、四〇	八三、〇〇	二、四〇	八三、〇〇	二、四〇	八三、〇〇	二、四〇		
計	三一、八五	四二、八〇	三一、八五	四二、八〇	三一、八五	四二、八〇	三一、八五	四二、八〇		

五、飼畜費

飼畜費	品名	金額	說明	單價	同上價格	全支出より自家生産價格の差引高
計	麥	六、〇〇	一五俵買入	四〇	六、〇〇	六、〇〇
	糠	六、〇〇			六、〇〇	六、〇〇
		六、〇〇			六、〇〇	六、〇〇

六、雇人費

計	女	男	金額	備考
計			四二、八四	臨時雇八四人分賃銀賄共
			二四、三一	臨時雇九三人五分賃銀賄共
			六七、一五	

七、租稅諸掛り

計	國	縣	村	會	費	稅	稅	稅	金額	備考
計									四三、五二	
									一九、二八	
									二九、〇八	
									一、四九	
									九三、三三	

八、病蟲害豫防驅除費

石灰硫黄合剤	四、六〇	備	考
硫酸銅	一五、四六		
生石灰	四、四〇		
除蟲菊	四、〇〇		
石鹼	一、五〇		
計	二五、九六		

九、荷造費

新紙	紙	量	金	額
箱	代	一六、一〇		二、五〇
釘	代	一六、一〇		一、四、三〇
計	計	一六、一〇		二、五〇

一〇、梨棚修繕費

大竹	量	價	額
中竹	二〇	八五	一七、〇〇
小竹	四二	七〇	二九、四〇
木	二四	〇三	七、二〇
計	計	計	計

諸雜費	額	考
計	五五	一、二、三
計	計	六六、二五

資本利子	額	備	考
計	八六、一二	小作米六石二斗四升	
計	計	計	計

支出總額	額	備	考
計	四七二、四三	事業資本九千四百四十八圓六十四錢に對する年五朱	

一金壹千五百九拾貳圓七拾錢

丙 收支差引

收入 參千參拾四圓六拾九錢

支出 千五百九拾貳圓七拾錢

差引 千四百四拾壹圓九拾九錢

殘額

内 三百六拾圓拾三錢 業主並長男勞働報酬
六拾貳圓五拾參錢 妻及五女勞働報酬

千八拾壹圓八拾六錢 企業益

第五家計

一、收入

計	金額	備考
財產收入	省略	
資本利息	四七二、四三	事業資本に對する年五朱の利率
農業收入	一、四四一、九九	企業益及業主及家族勞働報酬
雜收入	六三、七〇	下肥米糠其他家計殘等
	一、九七八、一二	

二、家計費

家族九人に對する一ヶ年間の生計費

飲食衣服費	金額	備考
	三五二、〇〇	
	八五、〇〇	

家庭用品	二五、〇〇	居室及家計用、建物償却金修繕分擔額及宅地に對する負擔金額の四割計上
教育費	一三、五〇	室内用具炊事用具等
衛生費	六一、五〇	薪、炭、油、紙等
義務費	五、五〇	教科書文具授業料等
交通費	二八、五〇	寄附金義捐金等
旅行費	七、二〇	本年度は祝事ありて多額の經費を要せり其他祝儀香奠見舞等
旅費	五七、六七	梨業視察の爲め神奈川縣下を旅行せり
通信費	一八、五〇	
雇人費	三、八〇	
雜費	二、九〇	
計	三、六五	雇人を家計の作業に使用したる賃銀
	六六四、七二	

三、收支差引

一金壹千參百拾參圓四拾錢

殘

第六 農場の略歴

從來農産物は米麥を主としたるも利益少なく且勞力過剰となり他に副業を求むる必要を生じ比較的利益多く又勞力を要する梨樹栽培を志し明治三十四年に一反五畝歩を植へたるも移植に不適當なる老樹を他より購入栽植したるが故に容易に樹勢回復せず殊に經驗に乏しく栽培販賣共に幼稚にして爲めに利益尠少なりしも四、五年を経過せしに樹勢も回復し相當の利益を收め將來に光明を認むるに至りたれば三十九年に長

十郎、水熊、獨乙等を肥沃なる水田約一反歩に栽植したるに成績非常に良好にして收益多く米麥の如き比す可きに非ず故に又四十三年一反二畝歩栽植せり長十郎は品質良好にして高價に販賣する事を得加ふるに樹勢強健なるに由り競ふて之を栽植し明治四十三年の頃には梨園の半ばを占むるに至れり然るに此の頃より俄に不結東に陥り豫想の利益を見る能はず、茲に於て種々研究の結果其主因は自花受精を爲さざる事を覺り爾後は長十郎六分早生赤二分と其他一分との割合に混植し梨園を擴張し以て今日に至れり現在の情況は最初に植へたる一反五畝歩は樹勢既に衰へたれども其他は收量年々増加しつゝあり

以前黒星病の發生著しく特に水熊種を侵害せり當時本種は最も優良なるものなりと認められしを以て苦心一方ならず本病の豫防には全力を注ぎしも好結果を奏せず茲に於て農會にてボルドー液の普及獎勵を爲したるを以て現今殆ど絶無の狀況となれり

第七 將來の計畫

繼續事業の成行

一、今後梨園の減少

現在にては勞力に不足を生ずれば自由に雇人をなす事を得れ共將來工業の發達に伴ひ勞者の不足を生ずべきを以て梨栽培にのみ偏せず大正十四、五年に梨園を四反歩減少し内二反五畝歩は小作に預け一反五畝歩は最初植へたる老樹を廢園となし之に稻作を爲さんとす斯る時は自家の供給勞力にて過不足僅少にして害蟲驅除及採收荷造の時に少數の雇人をなせば足り且稔稈等を得て從來重きを置きし金費を節減し堆肥を

製造して之れを主肥となす計畫なり

現在梨の種類は長十郎大部分を占むれ共將來生産増加に伴ひ一種類のみにては販賣に困難を來すのみならず豊凶の影響を受くる事大なれば之等を防がんが爲め接木にて改良し早生梨(市原早生を試植しあれば)三分と中生梨(成績良好なれば此種類)三分と中

二、堆肥舎建設

農場は大部分梨にして堆肥の生産額極めて少く而して金費の購入額は一ヶ年貳百七拾五圓五拾六錢にして尙年々増加せざるべからず然るに土質は砂土及砂質壤土なれば今後金費を以て足れりとせず地力増進の爲堆肥舎を建設し堆肥の製造を増加せんとす

第四章 茶業兼營普通農業

庵原郡西奈村 中川和十郎

目次

第一、概況

一、自家經營の概況 二、農場所在、地方の概況 三、經營土地反別並に其利用狀況

第二、農業資本

一、土地 二、建物 三、農具 四、植物 五、流通資本 六、貨幣

第三、勞力

第二編 農業經營の一斑

第四、生産方法

一、稻作 二、茶

第五、收支決算

甲、經營全般の收支

一、収入之部 二、支出之部 三、營業收支一覽

乙、一家收支決算

一、収入 二、家計費 三、家計收支一覽

丙、部分的收支

第六、將來の方針

茶業兼普通農業經營法

庵原郡西奈村瀨名 中川和十郎

第一 概況

一、自家經營の概況

明治四十年二月年三十歳にして農業の經營及家計の管理を擔任す幼少より祖先傳來の農を營むと雖も其當時業務に日淺く従つて經驗もなく如何にして改善すべきか只茫然として有耶無耶に三ヶ年の星霜を経過せり、當時の經營地は田地六反二畝歩、畑地三反八畝歩、園地六反一畝歩、山林一町六畝歩、宅地九畝七歩、合計二町七反六畝歩、其内所有地僅々畑地一反五畝二十二歩、園地一反九畝歩、宅地九畝七歩、山林一町

六畝歩のみにして哀むべき小作農に過ぎざりき、明治四十三年一月收支精算(四十二年度分)を行ひ毎年支出の増加するに拘はらず収入は格別に増殖せず是に於て支出に伴ふ收穫の増加を企圖すべき觀念を懷き切齒扼腕斯業に勉勵努力し日常の徒費を省き蔬菜は其收益少なき爲め畑地一反歩を廢止すると同時に山林を開拓し茶及び果樹の開園を爲し資金を借入れて園地に施肥し害蟲防除に意を用ひ栽培改善を圖りし結果幸にして進歩の緒に就き現在經營地三町六反三畝十八歩(借地田七反三畝歩、畑一反二畝十歩、園地七反四畝二十八歩、所有地田一反一畝歩、畑一反五畝二十二歩、園地四反八畝一歩、山林竹林一町一反九畝十歩、宅地二百七十七坪)を計上す田地は米麥綠肥を栽培し畑は麥蔬菜等にして自家食料の需要を満たし販賣するは僅々なり園地は茶及柑橘類を栽培し多大の勞力と資本とを要すると共に收穫も亦大なり、山林は杉檜雜木等を植え更に副業として蠶を飼育し而して辛くも一家の經濟は事業の収益を以て糊口を需す事を得るに至れり

目下家族九人なれども小兒多く農業に従事するものは男二人女二人なれば雇人を以て勞力を補給せり目下經營反別に比し自給勞力少なきが故利益多からず加之勞力不足の結果稍粗放なるも亦止むべからざるなり

二、農場所存、地方の概況

(1) 位置、地勢等

本村は郡の最西端に位し東は一帶の山脈を以て高部庵原南村に接し西は長尾川に沿ひて安倍郡千代田村、賤機村南は巴川を隔て、安倍郡有度村と相對し北は龍爪山を以て兩河内村に境界す其廣袤南北三里に亘り

東西八町にして其面積三百四十一万四千九百二十三坪即ち〇、七三方里戸數五百〇三、人口三千六百二十五なり

本村の地勢は龍爪山(海拔三千六百尺)北境に兀立し其支脈蜿蜒々南走し隣郡との境界をなす長尾川其間を南流し幾多の溪流を合せ瀨名川に至り巴川に入る其流域は古來瀨名千石畑所田所と稱し我が經營地は此の中に散在せり、村内の山嶽は龍爪山あり其前面の一峰は東境をなし南に走れば長尾山、瀨名山、梶原山是れなり本村縦貫の里道は瀨名川を起點とし平山に至る延長二里是實に本村主要の交通路たり南部は北街道の横貫するありて静岡江尻間の連絡と共に極めて便利を有す

本村の地質は第三紀層第四紀層より成り、第三紀層を構成せる岩石は凝灰質岩及砂岩にして孰れも風化を受け易き状態なり土層は僅かに作土を有するに過ぎざる所あるも數丈にして母岩に達する所多く作土は五六寸を利用し母岩と同質の礫を雜へたる埴土なり底土も略作土と同様の埴土なり土壤は概して腐植性の含量少くして黒褐色を呈すれども大字平山の北部及光鏡院の裏山等は頗る腐植性質に富み中には火山灰を交へたる壘土の如き極めて輕鬆なる部分を有せり、第四紀新層地は第三紀層地と瀨名川との間を劃せる平坦地にして本村田地の大部分を占め灌溉の便亦備はれり而して土性は區々なれども第三紀層の分解質物に砂岩質の砂礫を交ゆるの多きを以て概ね壤土質なり

村内土地反別は田百八十九町六反餘、畑三百五十七町餘、宅地二十七町餘、山林六百二町餘原野雜地二町七反餘なり

(2) 地方一般農家の經濟狀態

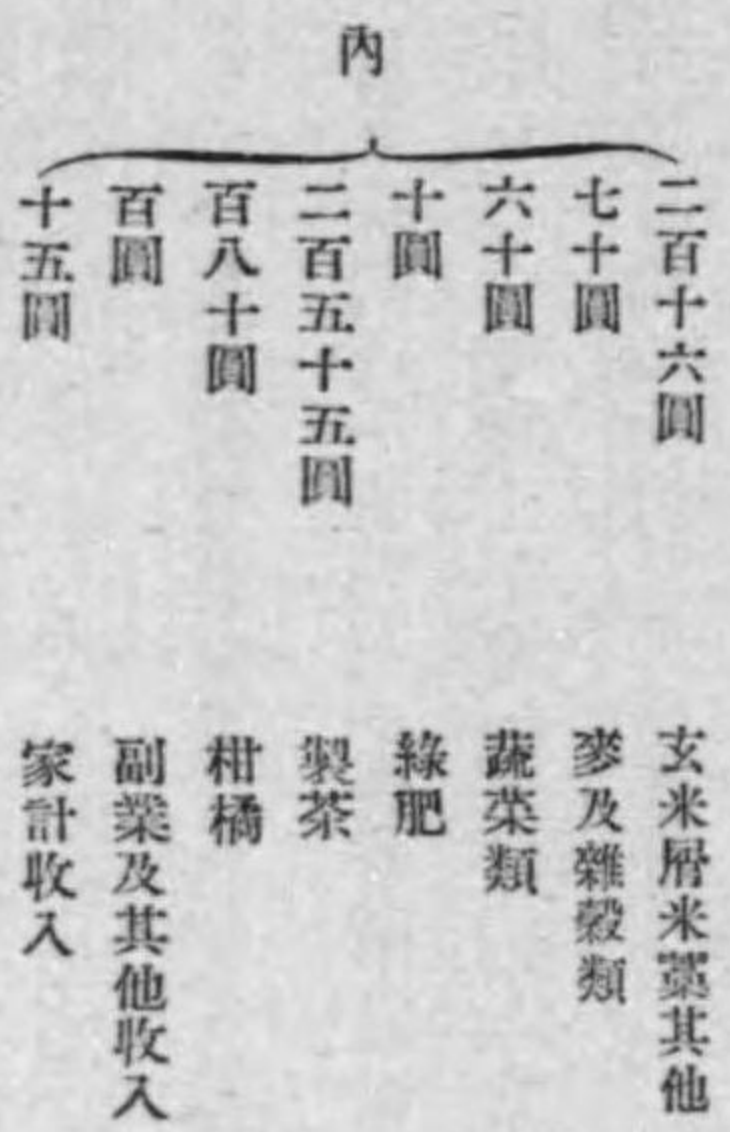
竝中等農家の經濟狀態

平均家族七人内男二人女二人小供三人にして勞働に従事するものは男二人女二人なり

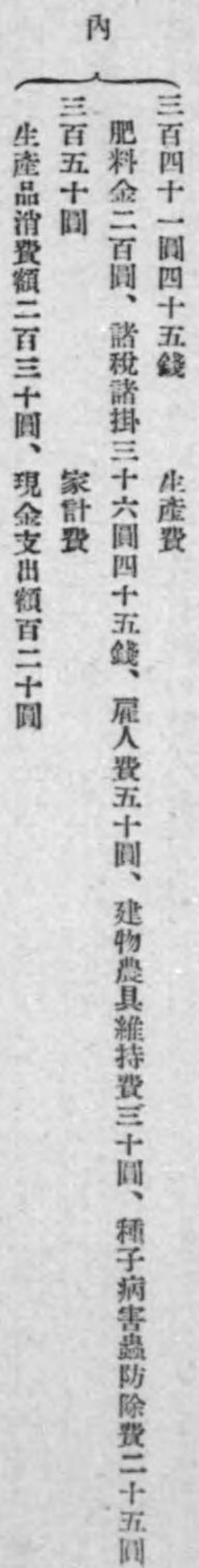
經營反別壹町九反歩、田六反歩畑七反歩、山林原野六反歩

收支 農業及家計

收入總額 九百六圓(農業及副業其他の收入)



支出總額六百九十一圓四十五錢



收支差引殘金二百十四圓四十五錢

當地方農家にありては土地利用集約なるを要し勤勉にして且つ資力あるものは相當の利益あれども經營拙劣なるものは殆んど利益を收むるものなし、家畜を飼養せるもの甚だ少く、家禽は鶏五六羽を飼ふもの多く、養蠶は自家用に供するに過ぎず

主なる販賣品は茶柑橘米麥及蔬菜等にして八百圓の收入を見る

生産用品中購入の主なるものは肥料にして主として茶、柑橘に施し金肥は鯨粕、大豆粕の類凡そ貳百圓を要し其他農具苗木雇人費等七八十圓を支拂ふ

(3) 一般農家労働時間

自一月至四月十時間内一時間三十分食事並に休憩に要す
自五月至九月十二時間内二時間を食事及休憩に要す

但製茶時期は總て十四時間労働せり

七八月中炎暑甚しき時は日中約二時間休憩すれども蔬菜販賣の荷拵を爲し或は加工品を製するもの多し、田の除草は務めて日中之れを行へり

自十月至十二月 一月より四月迄に同じ

然れども米穀調製は舊慣に依り必ず夜業に之れを行ふ

加工品、草履、草鞋、繩、糸、蕨、簀等大概夜業に製造す

(4) 年中休日

一月	一、二、三、七、十一、十五、十六、二十	二月	十一
三月	三、四、十七、二十一	四月	三
五月	なし	六月	三十
七月	十四、十五、十六、三十	八月	十五、三十一
九月	二十四	十月	十六、十七、三十一
十一月	二十三	十二月	なし

以上の外毎日曜日午後半日宛又臨時休業あり

(5) 雇人賃金 時季に依り又仕事の種類に依りて賃金の額を異にす

春期	男	三十錢乃至三十五錢	辦當持	男	十二錢乃至十五錢
	女	十錢乃至十八錢		女	十錢乃至十二錢
夏期	男	四十錢乃至四十五錢	辦當持	男	十二錢乃至十五錢
	女	二十錢乃至二十八錢		女	十錢乃至十二錢
秋期	男	三十五錢乃至四十錢	辦當持	男	十二錢乃至十五錢
	女	十五錢乃至二十三錢		女	十錢乃至十二錢
冬期	男	三十錢乃至三十五錢	辦當持	男	十二錢乃至十五錢
	女	十錢乃至十八錢		女	十錢乃至十二錢

(6) 耕地の時價

田 一反歩に付 二百圓乃至三百圓
畑 同 九十圓乃至百八十圓

(7) 貸借の利率 年壹割貳分内外

三、經營土地反別並に其利用狀況

田 八 ^反 内借地七、三〇〇〇	一毛作地(水田) 五、三〇〇—稻 二、〇〇〇—稻 一、〇〇〇—稻
烟 一五、一〇一 ^反	夏作物 秋作物 冬作物 茶柑橋の混植園 五、九〇〇
山林一、九一〇 ^反	茶園六、三二九内四、三二九は茶樹二年にして里芋、生姜、小麥等を間作す
宅地二二七	

土地三六、三二八^反

此内畑及物干場にも利用す

第一 農業資本

一、土地

所有反別	借用反別	計	所有地		時價		備考
			平均地價	合計地價	平均時價	合計時價	
田一毛作地 一、一〇〇	四、二〇〇	五、三〇〇	六五、五二	七二、〇七	三〇〇、〇〇	三三〇、〇〇	水田にして四ヶ年毎に二毛作となし、又は露豆を作す
田二毛作地 一、五二二	三、一〇〇	三、一〇〇	一六、六二	二六、一四	一五〇、〇〇	二三六、〇〇	早敷地にして毎年二毛作地となす
畑地 一、五二二	一、二二〇	二、八〇二	一六、六二	二六、一四	一五〇、〇〇	二三六、〇〇	夏秋冬作を作る

所有反別	借用反別	計	所有地		時價		備考
			平均地價	合計地價	平均時價	合計時價	
宅地 二、二七		九〇七	百坪當 三三、〇〇	九一、四一	三〇〇、〇〇	二七七、〇〇	茶園にして蜜柑植内四三二九歩、大正三年開墾地
山地 一、一六〇〇		一一、六〇〇	町價 三、一〇強	三、六〇	三〇、〇〇	三四八、〇〇	宅地内に貳畝歩畑あり、秋穀干場となす
竹林 三、三二〇		三、三二〇	同	二、九〇	四五、〇〇	一五、〇〇	杉林五反歩、雑木林六反六畝歩
竹計 二〇、三二〇		三六、三一八		二、九〇	四五、〇〇	一、四九四、二〇	長尾川堤防に接す

附記 田地壹反壹畝歩小作料參俵參斗地畑地壹反五畝貳拾貳歩小作料九斗六升

園地四反八畝壹歩は小作料壹石九斗貳升にして田地反當小作料壹石三斗七升

畑地は反當六斗園地は凡て山園なる故に反當四斗

所有地小作料合計四石參斗八升借用田地七反參畝に對する小作料九石七斗〇七分にして反當小作料壹石參斗壹升貳合畑地壹反貳畝拾歩に對する小作料九斗にして反當小作料七斗貳升なり

園地七反四畝貳拾八歩に對する小作料貳石四斗にして反當小作料參斗貳升なり

二、建物

住宅	倉庫	棟數	建坪	構造	年限	見積價格	今年後年限保	價却金	修繕費	備考
住宅	倉庫	一	五〇	木造瓦葺	一〇年	四五〇、〇〇	九〇年	五、〇〇	二、五〇	建坪底共十分の五家計用となす
		一	一七	木造茅葺	五〇	七二、〇〇	五〇	一、四四	一、二〇	十分の四家計用となす

品名	数量	見積	價格	新調費修繕費現狀維持の程度に於ける實費	備考
堆肥舎	一	一〇	八〇、〇〇	九一	八〇、〇〇
茶部屋	一	一四、五	八〇、〇〇	八〇	一、〇〇〇
計	四	九一、五	六八二、〇〇	八〇	八、四四〇
					五、五〇〇

附記 住宅拾分の五倉庫納屋物置拾分の三は家計用となす故に見積價額償却金修繕費其歩合比例に依り農業資本となるべきものを右に現はしたるなり

三、農具

品名	数量	見積	價格	新調費修繕費現狀維持の程度に於ける實費	備考
田耕用	平	七	九、〇〇	一、五〇	大平鉄三個一個四十錢宛
	万	五	六、六〇	一、三〇	小平鉄四個一個二十錢宛
	除	五	二、四〇	一、三〇	小万能三個一個二十錢宛
	角	七	七、〇〇	一、五〇	中に稻株拔壹個あり價格五十錢にして苗代整地に先ち稻株を抜き取る器具
	小	四	三、〇〇	二、四〇	如打用なれども茶園柑橘園深耕の際又開墾用す壹個七十五錢
	嘴	六	六、八〇	一、〇〇	圃地除草又は施肥の際黄葉除草施肥の際使用す壹個七十五錢
	開	八	五、八〇	二、五〇	家鴨嘴二個壹個一圓二十錢宛
	開	七	五、七〇	一、八〇	鶴嘴及兩鶴各二個宛兩鶴一個一圓三十錢
	開	七	五、〇〇	一、八〇	如連四個壹個三十五錢宛アロ一圓二個壹個金
	開	七	五、〇〇	一、六〇	一圓二十錢鐵テコ二本壹本一圓宛
	開	七	五、〇〇	一、六〇	稻夢野草刈毎年四枚宛新調壹枚十五錢
	開	七	五、〇〇	一、六〇	杉丸太にして毎年五本位宛新調購入す壹本

品名	数量	見積	價格	新調費修繕費現狀維持の程度に於ける實費	備考
稻架	一	一〇〇	三、六〇	一、三〇	竹にて作りたるもの毎年五十本位新調す壹本六圓宛
稻束	一	一〇〇	四、〇〇	一、〇〇	毎年五百筋新調す一筋二毛宛保存年限四ヶ年
荷車	一	八	一、六〇	一、〇〇	已存年限三ヶ年今後保存年限七ヶ年の見積荷繩は毎年二回新調金拾錢
荷棒	一	八	九、〇〇	一、〇〇	内天秤棒四本尖棒四本毎年各壹本宛新調壹本二十五錢宛
春負	一	三	七、〇〇	一、〇〇	拾年保存毎年荷繩新調す
唐板	一	七	二、三〇	一、〇〇	使用年限拾年下白は五年毎に新調す容易に出来得る
唐箕	一	三	五、〇〇	二、五〇	稻の分四個壹個金五圓宛麥の分三個壹個金一圓宛五年位にて新調す
大目	一	三	一、二〇	二、五〇	使用年限二十年の見積
米麥トオシ	一	四	八、〇〇	五、〇〇	毎年二個宛新調購入壹個金二十五錢
万石	一	四	三、〇〇	〇、七	糶及麥を篩ふ俗に「ソロポイ」と云ふ使用年限五年
茅	一	七	七、〇〇	三、〇〇	アヲトオシ二個附末トオシ二個壹個金三十錢麥調製にも用ゆ
鬼摺	一	二	二、〇〇	五、〇〇	使用年限二十年其年内に時々修繕す
茶摘	一	二	二、〇〇	六、〇〇	毎年貳本宛調製壹本三十錢初麥其他穀類日乾の際庭の下に敷く
荷	一	二	二、〇〇	二、〇〇	毎年二十枚宛調製壹枚十錢宛購入する年もあり
茶摘	一	二	二、〇〇	二、〇〇	使用年限二十年時々柄を取代ゆ
荷	一	二	二、〇〇	二、〇〇	八人の共同持使用年限十ヶ年とす
脊	一	二	二、〇〇	七、〇〇	毎年七回宛購入す壹個金拾錢宛
	一	二	二、〇〇	六、〇〇	生葉運搬用にして使用年限五年組の損料及修繕費も計上す
	一	二	二、〇〇	一、六〇	毎年四個宛購入壹個四十錢

茶				具				雑					
焙煉一式	製茶雜具	噴霧器	肥料桶	肥料桶	肥料桶	肥料桶	肥料桶	肥料桶	肥料桶	肥料桶	肥料桶	肥料桶	肥料桶
六	四												
三、〇〇	一、二、二〇	五、五〇	八、〇〇	八、〇〇	六、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す	二ヶ年毎に壹個宛購入す

農場及農舍用											
押切	上切	番折	緩折	鋸折	桑切	手植	白枴	度枴	旋風器	鉄器	合計
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
一、二五	二、〇〇	二、〇〇	一、八〇	一、五〇	五、九〇	一、四〇	一、〇〇	二、〇〇	五、五〇	一、五〇	二、七五
堆肥用使用年限二十ヶ年	堆肥用使用年限二十ヶ年	堆肥用使用年限二十ヶ年	堆肥用使用年限二十ヶ年	堆肥用使用年限二十ヶ年	堆肥用使用年限二十ヶ年	堆肥用使用年限二十ヶ年	堆肥用使用年限二十ヶ年	堆肥用使用年限二十ヶ年	堆肥用使用年限二十ヶ年	堆肥用使用年限二十ヶ年	堆肥用使用年限二十ヶ年

附記 修繕の出来得る道具は可成修繕を行ひ新調すべしは必ず其數量と價格を失はずして現狀維持に注意す新調費修繕費内譯左の如し
 新調費一四、九九にして自家にて供給し得る金額十圓四十五錢修繕費三、八九償却金になるべきもの金
 二十六圓二十一錢修繕費現金支出五圓六十八錢

四、植物 (大正五年度見積額)

本數又は反別	年度始見積價格	年度終見積價格	年内收量	備	考

計	桑樹	茶樹	柿樹	蜜柑	杉林	雜木	竹林
一〇〇本	一二、二二九	一五〇本	四八〇	五、〇〇〇	六、六〇〇	三、一〇〇	
八、〇〇〇	一、四四二、六〇〇	九、〇〇〇	二七六、〇〇〇	四、五〇〇	三、三〇〇	二、〇〇〇	一、八三三、六〇〇
七、〇〇〇	一、五〇一、一四〇	九、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	六、〇〇〇	三、三〇〇	二、〇〇〇	一、八七〇、一四〇
二、三、五〇	九〇二、二二二	二、四〇〇	一七六、一一一	二、一、三〇〇	五、八五〇		一、四〇〇、〇〇〇
茶園の周圍にありて本年夏季旱魃の爲枝條伸長せず	普通樹七反九畝歩價格一千八百八十五年樹四、三一九金二百五十七圓六十錢	六年木にして一本六錢宛	温州三十年樹百八十本一本九十五錢七年樹三百本一本三十五錢ネーブルも計上す	六年樹にして一本金三錢年度始樹數千五百本	六畝歩宛毎年薪木に伐採小生より順次大樹あり平均反當五圓見積	反當時價六拾圓年々伐採す	

五、流通資本

計	消 耗	種 子	苗 木	肥 料	藥 劑
	一、一、三〇	三、八、三四	九、三、三五	四〇九、〇七	二五、九三
	一、一、三〇	三、八、三四	九、三、三五	四〇九、〇七	二五、九三
	一、一、三〇	三、八、三四	九、三、三五	四〇九、〇七	二五、九三
	一、一、三〇	三、八、三四	九、三、三五	四〇九、〇七	二五、九三
	一、一、三〇	三、八、三四	九、三、三五	四〇九、〇七	二五、九三
	一、一、三〇	三、八、三四	九、三、三五	四〇九、〇七	二五、九三
	一、一、三〇	三、八、三四	九、三、三五	四〇九、〇七	二五、九三
	一、一、三〇	三、八、三四	九、三、三五	四〇九、〇七	二五、九三
	一、一、三〇	三、八、三四	九、三、三五	四〇九、〇七	二五、九三
	一、一、三〇	三、八、三四	九、三、三五	四〇九、〇七	二五、九三

六、貨幣

金壹百貳拾圓

準備金

經營上大正五年貳月中旬蜜柑茶樹肥料苗木購入及三四月農業臨時雇人賃銀に支出

第三 勞力

戸主と続柄	年 齡	壯丁勞力に對する比例	勞働日數	摘	要
戸主	五十八歲	八	二〇〇	農業及家事に従事す	
妻	五十四歲	六	五〇	専ら家事に従事す	
姉	四十七歲	七	二九〇	専ら農業に従事す	
子	三十九歲	一〇	二八〇	同	
女	三十五歲	七	三〇〇	同	
長男	十四歲			高等小學校一學年通學す	
長女	十歲			小學校に通學中	
同次男	七歲			同	
同次女	七歲			同	
常雇人	二、十歲	一〇	一五三	専ら農業に従事す 自大正五年二月五日 至同年八月五日六ヶ月間	
臨時雇	男	一〇	一二八	前同斷内譯 製茶人五十三人 普通農業七十五人	
計	女	七	三二六	前同斷内譯 茶摘人貳百九十六人 普通農業三十八人	
			一七二七	此の勞力壯丁力に換算するときは壹千零百九拾貳人分となる	

附記 右勞力にては不足にして害蟲豫防驅除及施肥等往々其時期を失し收穫に多少の干係を及ぼす事ありと雖も稍や粗放的に管理を行ひ幼児の成長迄數年間には經營地を縮小せず現狀維持を以て經營せんとす

第四 生産方法

第二編 農業經營の一斑

一、稻作概況 四月中旬本田を耕起し五月下旬中耕を行ひ六月中旬より下旬に亘り整地をなす其際元肥を施す

苗代は精撰種參升を以て壹反歩の播種量となし七坪五合の苗代に播下す壹坪四合を以て四月下旬に蒔付く

肥料は鯀粕種粕と相半するもの壹坪貳合、人糞尿(水を混合せざるもの)五合を施す、播種後十日間灌溉排水に注意し六月上旬より插秧までは害蟲豫防驅除に勉む

插秧後は能く水加減に注意し七月中旬一番除草を行ふと同時に補肥す、七月下旬二番除草と同時に畦畔の雜草を刈り取る、八月上旬より中旬の間は排水に注意を用ふ其頃三番除草す、螟蟲其の他害蟲豫防驅除は絶えず注意せり、品種は早稻約一割五分、中稻(神力)六割、晚稻二割半、二毛作蠶豆麥作の便宜を計り舊慣に依り收穫の多少を論せず栽培す、收穫期は十月下旬より十二月上旬を以て終了す

二、茶 余の如き小農としては米麥作を本業となすを本旨とすれども經濟上の關係に依り茶業に重きを置き米麥其他の作物は殆んど副業の状態なり、故に茶は勞力の三分の一を要し肥料藥品等の生産費も二分の一強を用ふ、耕耘は二月中旬、三月中旬、四月下旬、五月下旬、七月上旬、八月下旬、九月下旬、十月

上旬の深耕と前後七回に及び施肥は三月中旬芽出肥として山畑に大豆粕、鯀粕、菜種粕の配合せるもの平坦地及丘地には人糞尿及鯀粕の腐熟したるものを施し五月下旬夏肥として大豆粕、鯀粕、菜種粕を九月下旬より十月下旬に涉り深耕と同時に與へ秋肥は夏肥と同種類を施用せり、害蟲は赤ダニ驅除として驅除として二月下旬より三月中旬に酸曹液を其多少に依り一回乃至二回使用し六月上旬より中旬に當り

ウシカの豫防驅除として二回乃至三回(除蟲菊に石鹼を混し)行ふ、收穫期は五月上旬より中旬に壹番茶を收め、六月下旬より七月上旬に貳番茶を摘み取り、參番茶は八月中旬より下旬に摘採す、四番茶は極めて長く伸長せる芽のみを三葉或は二葉位摘む四番茶は毎年生葉の儘販賣し壹貳參茶は綠茶に製造して之を嚙ぐ、明治四十三年同志と謀り中火(中揉)迄出來得る所謂葉乾器粗揉機を備へ蒸汽力を用ふる共同工場を設置し二ヶ年間六期に就て器機の研究と製造に對する損益とを調査し其結果良好なるを認め明治四十五年一月より四月に涉り六千有餘圓を製し人員五十二人を募り第二工場を建築す、中火迄其工場に至り揉み來たり仕上のみ焙爐助炭人工を以て製造するに比せば例令中火迄にても大なる利益あり

驅除として二月下旬より三月中旬に酸曹液を其多少に依り一回乃至二回使用し六月上旬より中旬に當り

ウシカの豫防驅除として二回乃至三回(除蟲菊に石鹼を混し)行ふ、收穫期は五月上旬より中旬に壹番茶を收め、六月下旬より七月上旬に貳番茶を摘み取り、參番茶は八月中旬より下旬に摘採す、四番茶は極めて長く伸長せる芽のみを三葉或は二葉位摘む四番茶は毎年生葉の儘販賣し壹貳參茶は綠茶に製造して之を嚙ぐ、明治四十三年同志と謀り中火(中揉)迄出來得る所謂葉乾器粗揉機を備へ蒸汽力を用ふる共同工場を設置し二ヶ年間六期に就て器機の研究と製造に對する損益とを調査し其結果良好なるを認め明治四十五年一月より四月に涉り六千有餘圓を製し人員五十二人を募り第二工場を建築す、中火迄其工場に至り揉み來たり仕上のみ焙爐助炭人工を以て製造するに比せば例令中火迄にても大なる利益あり

至り揉み來たり仕上のみ焙爐助炭人工を以て製造するに比せば例令中火迄にても大なる利益あり

至り揉み來たり仕上のみ焙爐助炭人工を以て製造するに比せば例令中火迄にても大なる利益あり

至り揉み來たり仕上のみ焙爐助炭人工を以て製造するに比せば例令中火迄にても大なる利益あり

第五 收支決算 (大正五年度實例)

甲 經營全般の收支

一、收入の部

(1) 農産物

種	別	反	別	數	量	單	價	額	備	考
米	粳	米	七、六〇〇	二二、五〇〇	一、六四、二五〇	三六二、三八	山原早生一反五畝神力五反歩豊撰一反一畝歩			
	糯	米	八、〇〇〇	一、九六〇	一七、五〇〇	三四、三〇	常盤糯晚稻八畝歩			
	屑	米	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	一二、六〇	粉米を屑米となし代金八圓十錢の處批一石五斗代金四圓五十錢を計上す一石三圓相場			

農產物合計	繭				絲				糖				茶		桑		穀		
	青刈大豆	大豆	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
一、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	八、四〇〇	一四、四九〇	一四、四九〇	三、四一〇	六、〇〇〇	三、八〇〇	三、二五〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	
四二、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	四二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
〇、二〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	
一、八五九、三五	一二、六五	八、四〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
一〇、五〇	七、三一	一、四四	五九、〇三	一九、五六	三、一〇	九〇	三、八〇	二、四〇	八〇	三〇、五六	四、二五	八、四〇	同	同	同	同	同	同	
自家使用	全部賣却す	自家使用	拾分七家計炊事燃料となし貳拾五分の四加工品原料賣却す	茶園に敷く	納屋の葺料となし貯蔵す	黍粟大豆は乾燥のもの甘藷薯芋は生のもの薯芋程をも計上す	甘藷生薯種貯蔵用風呂の燃料養蠶用とす	茶園の周圍に撒布す	稲作肥料となす	炊事燃料少しくは賣却す	杉葉も計上す依りて一貫目の単價安直自家燃料に充つ	稲架足稲架竿となしたるものは賣却す四年生のものを伐採す枝葉共計上す	同	同	同	同	同	同	同

(2) 林産物

雜木薪	反	別	收	量	單	價	額	備
六、六〇〇	四二、〇〇〇	〇、二五	一〇、五〇	同	同	同	同	同
〇、一八	六五	二七、一五	同	同	同	同	同	同

(3) 製造加工品

薪	竹	計	生産	數量	單	價	額	備
六〇〇、〇〇	九	一	〇、一八	六五	二七、一五	同	同	同
〇、一八	六五	二七、一五	同	同	同	同	同	同

(4) 雜産物

雜産物	生産	數量	單	價	額	備	考
藥草	四〇〇	〇、一三	五、二〇	自家用夜業又は雨天に製造す	自家用同	米麥俵裝用垣根(蜜柑の)用稻束繩金十錢を計上す外加工品製造用小繩も含む	自家用蓋共計上す
草鞋	二二〇	〇、二〇	二、四〇	自家用	運搬用夜業又は雨天に製造す	養蠶用夜業に製造す	イモノ粉も計上す茶摘人間食
蓆	一五〇	〇、一五	一、〇〇	自家用	養蠶用夜業に製造す	イモノ粉も計上す茶摘人間食	養蠶用夜業に製造す
蓆	一〇〇	〇、一〇	一、〇〇	自家用	養蠶用夜業に製造す	イモノ粉も計上す茶摘人間食	養蠶用夜業に製造す
蓆	四〇	〇、〇四	一、六〇	自家用	養蠶用夜業に製造す	イモノ粉も計上す茶摘人間食	養蠶用夜業に製造す
蓆	二〇	〇、〇二	一、〇〇	自家用	養蠶用夜業に製造す	イモノ粉も計上す茶摘人間食	養蠶用夜業に製造す
蓆	一〇	〇、〇一	一、〇〇	自家用	養蠶用夜業に製造す	イモノ粉も計上す茶摘人間食	養蠶用夜業に製造す
蓆	五	〇、〇〇五	一、〇〇	自家用	養蠶用夜業に製造す	イモノ粉も計上す茶摘人間食	養蠶用夜業に製造す
蓆	三	〇、〇〇三	一、〇〇	自家用	養蠶用夜業に製造す	イモノ粉も計上す茶摘人間食	養蠶用夜業に製造す
蓆	二	〇、〇〇二	一、〇〇	自家用	養蠶用夜業に製造す	イモノ粉も計上す茶摘人間食	養蠶用夜業に製造す
蓆	一	〇、〇〇一	一、〇〇	自家用	養蠶用夜業に製造す	イモノ粉も計上す茶摘人間食	養蠶用夜業に製造す
計	七五〇	〇、二〇	一五、〇〇	原料は畦畔の雜草、野草、蘆荻、落葉等米麥蔬菜に施す			

野 草	
計	八二〇
	〇一二
	九、七二
	二四、七二
	茶園蜜柑に敷く雑木林杉林を刈り取る

(5) 資本増価額

植 土	年 度 始 價	年 度 末 價	差 引 増 價	理 由
計	一、四九四、二〇	一、五三二、六〇	三八、四〇	開墾及石垣を施したる賃銀其他
	一、八三三、六〇	一、八七〇、一四	三六、五四	
	三、三二七、八〇	三、四〇二、七四	七四、九四〇	

(6) 勤勞收入

戶 主	報 酬 賃 銀	計	備 考
計	八、〇〇	一三、五〇	村會議員柑橋合資會社役員報酬賃銀は村内公共事業手當
	一五、〇〇	六九、六〇	立稲品評會審査員製茶工場勞働報酬製茶工場人夫六十四人五分賃銀
		八三、一〇	

二、支出之部

建 土	種 別	金 額	説 明
地 費	耕 地 整 理 費	三八、四〇	石材代二十圓二十五坪一坪八十錢石工賃四圓八十錢六人分一人金八十錢運賃及手傳十三圓六十錢三十四人一人金四十錢
物 費	修 繕 費	五、五〇	瓦葺草及杉皮釘竹鋼線繩等
		五、五〇	

農 具 費	種 苗	種 類	金 額	説 明
新 調 費	新 調 費	新 調 費	一四、九九	自家にて製造新調し得るもの金十四圓五十四錢發賣發荷棒其他現金支出購入するもの金四圓四十五錢
修 繕 費	修 繕 費	修 繕 費	五、六八	先掛トオン竹細工物
			二〇、六七	
			三、三六	糞糶共三斗三升六合八反四畝歩播種量澆水機を行ひ二割五分減を見積一升金十錢
			一、六二	細地二反歩一斗二毛作地一反一畝歩八升一升金九錢宛畑地反當播種五升二毛作地反當播種七升とす
			二、二五	五畝歩二升五合代一升金十錢反當播種量五升
			一、一六	大豆細蒔付用二升田畦畔用六升一升金十二錢小豆二畝歩一升其代金二十錢
			二、二五	蕎麥三升金十八錢粟一合九厘黍三合二錢七厘玉蜀黍一合一錢四厘胡麻二錢
			三、五	五貫目一貫目金七錢宛蒔莖となす
			五、〇〇	五拾貫目壹貫目金十錢宛赤芽九子草八ッ頭等茶園に間作す
			一、三四	瓜種二錢南瓜三錢大根三合三十六錢一合十二錢葱三合七十錢一合二十五錢午麥一合十八錢
			九、九一	茄子苗百五十本三十錢壹本二厘黃豆三合二十一錢一合七錢、インゲン三合三十錢一合十錢カンラン十錢
			二、〇〇	三畝歩に六十貫を要す一貫目二十錢南京大生姜
			二、八〇	青熟大茶春蠶分額製三枚、秋蠶額製一枚金七拾錢
			二、七〇	八斗一升金二錢七厘
			九、三五	蜜柑苗二百本金五圓一本二錢五厘柚苗八百七十本金四圓三十五錢一本五厘付苗として成育
			三、六〇	二毛作中に播種す三斗一升金十二錢
			三、〇〇	三斗一升金十錢内三升加周圍播種用二斗七升綠肥用
			四七、六九	朱書は自家にて供給し得るもの 金二十六圓九十九錢墨書は購入したるもの 金二十圓七錢

Table with 4 main columns: 租稅諸掛, 雇人費, 原料及助成品費, 田. Sub-headers include 縣地, 協村, 農議, 食料, 女臨時雇人賃銀, 同食料及諸給典, 男臨時雇人賃銀, 同食料及諸給典, 男常雇人賃銀, 茶生葉採賃, 厚木甘菓, 紙炭諸得, 稻稈.

三、二〇 糶細工原料製茶用衣裳等二百三十七貫一貫目金一錢三厘五毛... 一、〇〇 糶製原料糶分八十錢、糶分金二十錢... 二、〇〇 切干材料一貫目金七錢宛... 二、二〇 製茶用拾圓五拾錢、養蠶用一圓五十錢一貫目八錢五厘... 九、五五 製茶用二百五十枚一枚九厘宛... 二〇、〇〇 同製茶用... 二〇、〇〇 同製茶用... 三、八、一〇 大正五年二月五日より八月五日に至る滿六ヶ月間給金... 六二、二五 勞働報酬金五圓三十錢 食費一日十五錢... 二七、〇四 茶製人五十三人賃銀三十九圓七十五錢... 九五、七六 農任事人夫七十五人分賃銀二十二圓五十錢... 四一、一二 酒共食費金二十三圓四錢一人一日金十八錢... 二八四、二七 報酬金四圓... 七、一一 茶摘人夫二百九十六人賃銀九十圓三十六錢... 一五、六〇 農任事三十人賃銀五圓四十錢... 三、四五 食費三十九圓十二錢一人金十二錢宛 報酬金二圓... 二六、一六 田畑山林地租金五圓七十五錢五厘宅地分五分一圓三十五錢... 一六〇、一七 縣村稅地價割及車稅等... 七反三畝步小作料九石七斗七合一石金十六圓五十錢

Table with 2 main columns: 肥料, 藥劑. Sub-headers include 堆肥, 綠草肥, 野草, 米糠, 草灰, 人糞, 過磷酸石灰, 大豆, 雜豆, 藥種, 菜種, 骨粉, 石灰, 石粉, 硫酸, 硫酸, 鹼液, 蛋粉, 除蟲菊, 洗滌石, 生計.

一五、〇〇 牛糞を稻半分を麥に與ふ... 一二、六五 稻作用大豆四圓二十五錢... 九、七二 茶柑橋に八分を敷き二分稻作に供給す... 三、〇〇 自家にて供給し得たるなり四十貫目一貫目金七錢五厘... 一、五〇 麥豆類稻其他蒔菜類播種用木灰は稻作用木灰八〇(一貫目各) 麥蒔菜類柑橋等に用ゆ 自家分六百目原價六圓一錢五厘... 五〇、四〇 麥蒔菜類柑橋等に用ゆ 購入分三千貫目三圓八毛運搬費共... 一三、〇〇 柑橋五分麥作四分其... 八二、〇八 他一分... 一七六、八二 茶五分麥作三分其他... 四三二、〇〇 茶五分麥作三分其他... 四〇六、五〇 茶五分麥作三分其他... 一〇七、一〇 茶六分柑橋二分其他二... 四〇、〇〇 茶六分柑橋二分其他二... 一〇、四〇 茶六分柑橋二分其他二... 九〇、〇〇 茶六分柑橋二分其他二... 四〇九、〇七 運搬費金肥は計上す 自家供給分四十七圓八十七錢... 一〇、〇〇 金肥分三百六十一圓二十錢... 四、四九 ホルドー液原料柑橋大部分茶の黑斑病に使用す... 二、一九 茶アカダニ驅除用... 七、〇〇 茶ウンカ豫防驅除用蒔菜類油蟲驅除にも用ゆ 前同斷... 一、八〇 茶ウンカ豫防驅除用... 四、五 博ルドー液製造原料

信地料	地料	地	三九、六〇	開圃地共小作料二石四斗一石金十六圓五十錢
地料	計	地	二〇一、三〇	見積價格の五分利子計上す
資本利子	土 建 農 植 貨	計	七四、七一	同斷
資本減價額	雜品	計	三九、一〇	同斷
	米 依 緇	計	一二、五八	同斷
	其 計	計	九一、六八	同斷
	雜品	計	一二、〇〇	同斷
	計	計	三二五、〇七	同斷
	他 袋		三九、六五	建物減價八圓四十四錢 農具減價二十六圓二十一錢 中小繩六把代にして一把金十五錢夜業或は雨天の製造
			九〇	支米入置貯蔵用
			一、二〇	支米入置貯蔵用
			六〇	支米入置貯蔵用
			八、六〇〇	支米入置貯蔵用
			一一、三〇	支米入置貯蔵用

三 營業收支一覽

收入之部	金額	備考	支出之部	金額	備考
農產物	一八五九、三五	一割増	土地費	三八、四〇	
林產物	二七、一五		建物費	五、五〇	
製造加工品	一七、六〇	蠶細工雨天勝なりし故一割増	農具費	二〇、六七	
雜產物	二四、七二		種苗費	四七、六九	苗木茶實購入の爲め
計	二、〇八六、八六	一割増	計	一、四五〇、一一	

差引殘金六百參拾六圓七拾五錢 農業利益

右家族男四百八十人 勞働報酬金
女六百四十人 勞働報酬金

附記 勞力を壯丁の十の力に戸主の二百人同妻の五拾人同妹二百八拾人長女の三百人を換算する時は六百三人となる夫れに養子の二百八拾人を計上し八百八拾三人に分與すれば壹人金七拾貳錢強

食費共男一人賃銀五拾五錢とせば其賃銀額金四百八十五圓六十五錢となる農業利益より差引く時は純益金一百五十一圓十錢なり

乙、一家收支決算 (大正五年度現在)

一、收入金

資本増價額	七四、九四	肥料費	四〇九、〇七	一割増金肥厩費に付
勞働收入	八三、一〇	藥劑費	二五、九三	二割五分増相場厩費に付
計	二、〇八六、八六	原料及助成品費	一一〇、一〇	一割増茶生菜多收穫の爲め
		雇人費	二八四、二七	五分減家族健康なりし故勞働日數多きに付
		諸稅掛	二六、一六	
		資本利子	二二五、〇七	
		資本減價	三四、六五	
		借地料	二〇一、三〇	
		雜品	一一、三〇	
		支合計	一、四五〇、一一	

農業資本利子	二二五、〇七	土地資本利子七十四圓七十一錢建物資本利子三十四圓十錢農具利子金十二圓五十八錢植物資本利子九十一圓六十八錢貨幣利子十二圓
農業利益	六三六、七五	家族男四百八十八人女六百四十人勞働報酬
計	三、一五〇	人糞尿金六圓米糠金三圓糞灰木灰金一圓五十錢洗流水金七圓二十錢其他廢芥殘滓物等五圓女内職八圓八十錢
計	八九三、三二	

二、家計費

家族九人

壹ヶ年間生計費

住居	食料	被服	消遣	教育	圖書	交際	諸費	臨時	計
費	費	費	費	費	費	費	費	費	費
額	額	額	額	額	額	額	額	額	額
一一、六六	三〇六、六〇	六七、六八	五六、五三	一八、六〇	四、八〇	四〇、八〇	二一、四八	二五、二五	五七六、七六
說明	說明	說明	說明	說明	說明	說明	說明	說明	說明
建物償却金修繕費金八圓四十六錢疊建具の償却金修繕費三圓二十錢	米八石八斗百二十三圓二十錢一石一圓、〇〇三石六斗二十八圓八十錢一石八圓	雜穀四十二圓三十錢味噌醬油砂糖蠟燭等四十二圓二十錢蔬菜魚類其他七十圓十錢	衣服夜具布圍其他雜品修繕新調費	炊事燃料電氣料石油筆紙木炭墨燐寸其他	幼兒通學費十一圓新聞農業上必要雜誌購入	陶器漆器類炊事用具其他什器修理費	香信費社交費進物等	家計部分擔に屬する宅地租諸掛り二圓八十八錢及び縣村稅赤十字社年賦金義捐	家族慰勞手當(兒童分も計上す)
									湯治費醫藥價買藥價

三、家計收支一覽

家計	家計	金額
計	計	額
收入	支出	
八九三、三二	五七六、五一	

差引殘金參百拾六圓八拾壹錢

附記 右計算上剩餘金なれとも其實固定資本本年度始年度末に對照し金六十六圓五十錢増價格間接利益を削減せば金二百五十圓三十一錢殘金となる

其用途左の如く豫算す

殘金貳百五拾圓參拾壹錢用途内譯

- 一金參拾圓 凶作の際小作料準備金とす
- 一金八拾圓 天災地變疾病の準備金
- 一金壹百圓 家計收入に資本利子計上せし故土地購入に充つ
- 計金貳百拾圓 村内習慣にて講なるものあり夫れに貯蓄す
- 殘金四拾圓參拾壹錢 開墾及整地費

丙 部分的收支

經營上主要作物に對する收支決算

(1) 稻作收支計算表 (大正五年度)

種別	収入		支出		備考
	数量	単價	金額	備考	
合計			五一、〇七	三五、四一	
米	二、八八八	一六、二五	四六、九三		粗種四升鹽水攪を行はざるもの
米	一、〇七	九、〇〇	九六		金肥八分堆肥五厘綠肥一分五厘
穀	一、七九	三、〇〇	五四		魚油一合
肥料	一七二、五〇	一錢三厘五毛	二、三三		俵七個二十一錢細三錢 米袋二枚六錢
農具	三八、七〇	八厘	三一		鐵類收穫用具調製用具
小作料			三一		一石三斗三升四合 一石金十六圓二十五錢

差引殘金拾五圓六拾六錢

男女貳拾四人に對する勞働報酬金

同上參考事項

苗代整理より播種管理本田耕耘より整地迄要する人夫男六人

插秧に要する人夫男一人五分女一人五分(元肥施行)除草畦畔雜草刈灌排水害蟲驅除施用に對し男三人女三人

收穫調製俵裝に要する分男五人女四人

男女合計貳拾四人 男十五人五分 女八人五分

勞働報酬金拾五圓六拾六錢貳拾四人に分配一人金六拾五錢強

女八人五分の勞力を七と看做し男一〇に換算すれば五人九分五厘に男拾五人五分を加算し貳拾壹人四分五厘となし壹人食費共平均金六拾錢宛支拂ふとすれば其金額拾貳圓八拾七錢勞働報酬金より差引金貳圓七拾

九錢純益金となる

(2) 茶園收支計算(壹反歩に付)樹齡二十五年

種別	収入		支出		備考
	数量	單價	金額	備考	
計			一一四、一五	九二、一三	
一番茶	一一、〇〇	二七、七五	七〇、二一		鐵箱大豆箱茶種箱其他金肥人糞尿其 他運搬共計上
二番茶	五、四〇	一三、一六	二六、〇六		鐵製製造具消耗品
三番茶	三、四〇	七、八五	一四、三七		資本金六拾四圓に對する
四番茶	六、八七	生葉單價、〇三八	二、六一		酸曹液取粉除蟲菊
刈落	九、〇〇	九〇	九〇		六十一人食費共一人金四十五錢一日 摘採量三貫三百目弱
計			一一四、一五	九二、一三	中乾迄賃銀生葉百九十三貫八百目 木炭一貫に金二三錢 製茶一貫に金二錢七厘 茶製人十二人 一人食費共金九十三錢 反當三斗二升なれとも柑橘混植故十 分の二削減す

差引殘金貳拾貳圓貳錢

貳拾貳人に對する勞働報酬

參考事項

耕耘七回に要する人夫拾四人施肥壹人(人糞尿數畝)肥料費の中に計上せしを以て金肥分のみ)害蟲防除人夫

壹人剪枝二人生葉運搬人夫四人(但し茶園より自宅迄自宅より製茶工場往復共)計貳拾貳人壹人勞賃銀食費

共金五拾錢を計算金拾壹圓を削減せは純益金拾壹圓貳錢
 右計算は茶園經營地七反九畝歩(摘採し得るもの)の平均にして蜜柑の混植なき場所は製茶相場に依り一様
 ならざるも大正五年度現在にては參番茶早魁の被害ありと雖も二反歩は總收入金貳百六拾九圓を現はし支
 出金貳百貳拾四圓四拾錢差引殘金四拾四圓六拾錢反當純益金貳拾貳圓參拾錢(最上茶園)最下等にして柑樹
 桑樹混植せるは反當僅かに五六圓の純益金

第六 將來の方針

前記の如き經營にて將來改善を要すべき事項多く第一着としては出來得る限り經營地田畑茶園山林二十四
 個所に散在するものを成るべく自宅附近に纏むる方針を採り田地は米麥綠肥を圃地は麥蔬菜等を栽培し集
 約を旨とし園地は現在多大の勞力と資本を要し隨て産額亦少からずと雖も此の儘に放任すれば混植せる果
 樹の生長に伴ひ果實類の收入嵩むと雖も茶の收量を減少することを免れず依て年度末收支計算に於て凡て
 の準備金を除き剩餘金は専ら開園に投資し年々茶園を拓き兼て果樹をも栽植し茶と果實と相俟て多收穫を
 計り養蠶は今後は自家用のみに止めんとす而して益勤勉努力し日常の徒費を削減し一家の繁榮を企つと共
 に身を起し進めて公益を謀り國家に對し國民たるの義務を果さんことを期す

第五章 製紙椎茸兼營普通農業

志太郡朝比奈村 前 島 米 吉

目次

- 第一、地方の自然及經濟的状況
- 第二、經營の方針
- 第三、家族及勞力
- 第四、農業資本
 - 一、土地
 - 二、建物
 - 三、農具
 - 四、家畜及家禽
 - 五、植物
 - 六、現物
 - 七、現金
 - 八、事業資本一覽
- 第五、主要作物並に副產品生産の概況
 - 一、稻
 - 二、麥
 - 三、刈豆
 - 四、茶
 - 五、柑橘
 - 六、桑
 - 七、三椏
 - 八、製紙
 - 九、椎茸
 - 一〇、木炭
 - 一一、收支概算
- 第六、營業收支
 - 甲、收入
 - 一、農産物
 - 二、畜産
 - 三、林産
 - 四、製造加工品
 - 五、勤勞收入
 - 六、雜收入
 - 七、資本増加額
 - 乙、支出
 - 丙、營業收支一覽
- 第七、將來に對する經營方針
 - 第一、地方の自然及經濟的状況

本村は志太郡の東北方に偏したる山村にして藤枝町を去る三里餘交通不便にして僅かに朝比奈街道に依り
 關部、藤枝、焼津町等に通ず而して朝比奈川村の中央を貫流し此の流域に狭少の平坦地ありと雖も傾斜稍

甚しき爲め耕地僅少にして山林及山畑多く(全反別二、七六二町田^{四九一町}三〇町)住民の大部分は(總戸數四六六戸
 兼業農三〇五戸)農家なりと雖ども普通農業のみの經營困難なるが故に林業又は製紙業を兼ねるもの多く製茶
 業亦盛なり而して村内に於ける金融機關としては僅かに産業組合の設立ありと雖ども小規模にして到底村
 内の需給を充す能はず從て藤枝、焼津町地方の金融機關に依るの外なく且つ農産物の販賣並に肥料種苗等
 は勿論日用品購入の如き亦大部分は同地に於て行ふ而して經營者は村の中央部より稍西に位せる大字宮島
 に住し周圍繞らすに山林を以てし其間僅かに平坦地を有するのみなるも朝比奈街道に接するが故に本村と
 しては比較的交通の便多し

第二、經營の方針

從來家族及一、二の常雇若くは臨時雇を以て普通農業を經營し傍ら林業並に製紙業に従事せしも逐年各種
 副業の發展に伴ひ之が増殖を企劃すると同時に耕地及山林の増加を圖りたるも地勢の關係上自作耕地の擴
 張を期すること比較的困難なるが故に米麥作は主として自家の食糧を充すを程度とし副業の發展に勉めた
 るが故に比較的多大の勞力を要し從て之を補充すべく明治四十二年頃より常雇人を増加するに至れり而し
 て近時生活費の向上と相俟て勞力賃銀の昇騰を來し爲めに常雇人の如き普通農業經營の場合に比較的利益
 尠少なるを例とすれども經營者は之と全く趣を異にし其の經營複雜にして詳細は勞働表の示す處なるも之
 が月別作業の概要をせば左の如し

一月	男 製紙、製紙、推茸、開鑿、薪取り(事業用) 女 製紙
二月	男 製紙、三極、推茸、製紙 女 製紙
三月	男 製紙、推茸、製炭、製紙、柑橘 女 製紙
四月	男 製紙、茶栽培、製炭、推茸、製紙 女 製紙
五月	男 製紙、茶栽培 女 製紙
六月	男 製紙、茶栽培 女 製紙
七月	男 製紙、茶栽培、稻作 女 製紙
八月	男 三極、林場刈 女 稻作
九月	男 林場刈、開鑿 女 稻作、茶栽培、開鑿
十月	男 林場刈、推茸、製紙 女 製紙
十一月	男 製紙、茶栽培、推茸、製紙 女 製紙
十二月	男 稻作、製紙 女 製紙

即ち普通農業の閑散期に於て紙、製炭、推茸等の事業を適宜配當し以て勞力の分配を圖り臨時雇を減じ
 て常雇を増加したり其理由は薪費の大部分は自家の生産物なるが故に茶、推茸、紙等の價格に相當なら
 んか之に要する食費の如きは敢て意とする處に非ず而して經營複雜にして其規模亦稍大なるが故に若し常
 雇を廢し臨時雇を以てせんか勞銀の損失少なからざるのみならず斯く多數の臨時雇の如き其の需要期に應
 じ容易に雇入ること能はず就中製茶業の如き特別の技術を要し加ふるに一定期間各地略同一時に雇入る

種類	棟数	坪	構造	存今	年	限保	見積	修積	却金	用途
住宅	1	四六 ^坪	茅葺平屋	1	15	0	225,000	3,250	3,250	事業用五分
部屋	1	八	瓦葺二階	1	18	0	250,000	1,380	1,380	家計用
益置	1	四、	瓦葺平屋	1	5	0	24,000	0	0	事業用四分
便所	1	三、	瓦葺平屋	1	5	0	24,000	0	0	事業用四分
肥料倉	1	六、二五	瓦葺小二階	1	9	0	105,000	2,167	2,167	事業七分
肥料倉	1	三、七五	瓦葺小二階	1	9	0	105,000	2,167	2,167	事業七分
紙抄場	1	四、	同	1	0	0	250,000	1,580	1,580	事業用
茶部	1	八、七五	同	1	0	0	250,000	1,580	1,580	事業用
肥料倉	1	一、二五	瓦葺平屋	1	18	0	200,000	1,500	1,500	同
肥料倉	1	九	瓦葺二階	1	0	0	150,000	1,350	1,350	同
合計	7	一〇九		1	95	4,000	954,000	8,788	8,788	事業用

備考 建物見積價格、償却金及修積費は事業用のみを計上せり

三、農具

品名及個數	價	格	償	却	金	修	積	費	備
鐵製外	55	53,300	4,596	6,930					考

種別	頭數又は羽數	單價	價	格	用途	備考
運搬用	荷車外 三八	29,100	2,860	0	5	
收穫製用	鐵其他 二七八	49,600	3,420	0	625	
農舍用	肥荷桶外 一四四	64,400	6,050	1,990		
飼畜用	馬肥桶外 五	4,200	1,000			
養蠶用	棚架外 九一九	96,200	2,720	0	555	
製茶用	焙爐外 一三四	103,600	5,130	1,410		
製紙用	乾燥機外 四二	148,300	7,418	2,190		
糞肥用具	籠 一〇〇	40,000	2,500	4,290		
合計		588,750	35,344	18,580		

四、家畜及家禽資本

種別	頭數又は羽數	單價	價	格	用途	備考
馬	一	80,000	80,000		役	
雞	一	5,000	8,300		卵	
合計			88,300			

五、植物固定資本

反別又は本數	見積價格	年内收量又は生産高	備考
桑樹	三、五〇〇	桑葉八〇〇貫	春は桑葉を賣却し秋蠶のみ飼育す(七年生以上)
茶樹	八、三二〇	一番八八、六〇〇 二番七、一五〇〇 三番六一、一四〇〇	二十年生以上

柑	柑	竹	竹	竹	竹	合
橘	木	林	宗	林	計	計
九,〇〇〇	二二九,二〇〇	五,五〇〇	一,〇〇〇	二五七,二〇〇		
一,一〇〇						
八九五,〇〇〇	五,〇五二,六〇〇	七二五,〇〇〇	二一三,〇〇〇	七,六二六,六〇〇		
三二,二〇〇						
四〇〇	二六六,九二〇	五〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇			
四〇〇	雜木大部分にして杉檜等少なし					

六、現物

種	肥	飼	消	間	食	合
子	料	料	品	物	品	計
二五,一八〇	二三四,六五〇	六,八〇〇	二七,八〇〇	一八,〇〇〇	二〇五,九〇〇	五一八,三三〇
根八斗、里芋十五貫、大豆二斗五升、黍粟五合、三粒五升、蕎麥四斗五升、粟一斗、大小豆二升、甘藷八貫、蕎麥五俵	乾草二千貫、人尿三百貫、糞肥二百貫、糠粕六十貫、印度粕二百貫	米糠一斗、藜百貫、乾草五十貫、麥糠五升	薪十五圓、炭五圓、石油七圓八十錢	甘藷一五〇貫(十圓)	米十一石五斗、雜穀二斗、(雇人食糧五月迄分)	

七、現金

通	貨	額
	製紙原料三極購入資金	四五〇,〇〇〇

八、事業資本一覽

土	建	農	家	植	現	現	合
地	物	具	畜	物	物	金	計
二八三,五二九	一,七一五	一,七一五	六頭	略す	同		
一一,七一九	九五四,〇〇〇	五八八,七五〇	八三,〇〇〇	七,六二六,六〇〇	五一八,三三〇	四六,九五二	二七,四〇〇
七,二五八	三五,三四四	四,三五〇					
八,八二〇	一八,五八〇						

第五、主要作物並に副產品生産の概況

一、稻、普通栽培法に依る即ち四月下旬に於て種子を浸水すると五、六日に於て取出し直ちに苗代に下種す苗代は乾田にして短冊形特に畦を設けず單に藁束(直徑三寸位)を連結して之が代用となす播種量は坪六、七合、六月中下旬頃本田に移植す移植後十五六日に於て第一回其後約七八日を隔て、三回の除草を行ふ(第二回迄は蟹爪を使用し以後手取)本田肥料は青刈大豆(麥を播種せる部分のみにして反當百二、三十貫)又は乾草(反當三、四十貫)及胡麻粕十四、五貫を元肥として施與す植方は普通植にして九寸五

分角追肥の如き特別の場合を除く外殆んど之を施與すること極めて稀なり而して早生は北國關取、中生は神力大部分にして八束、竹成、晩生は曙、笹等を栽培す反當收量二石一二斗内外を平年作とす而して毎年早生一分(一株六、七本植)中生四分(一株五、六本)晩生五分(一株四、五本)内外の割合に作付くるを例とす

二、麥、麥も亦普通作にして畑は十二月上旬頃耕起し直ちに下種す(平播にして特に畦を設けず)田は十二月上旬頃耕起し同下旬乃至一月に至り反當四、五升を下種す(畦巾五尺内外)種類は田畑共に全部稈麥のみにして肥料は胡麻粕反當七、八貫堆肥百七十貫内外を施與し發芽後三回の中耕除草を行ひ同時に稀薄なる人尿尿を施與す反當壹石八、九斗の收量を得

三、刈豆、悉く麥の間作にして四月上旬下種し肥料は過磷酸石灰反當七、八貫堆肥百三、四十貫を施與す而して反當收量平均百二、三十貫内外なり

四、茶、二月中旬頃胡麻粕又は鍊粕反當二十三、四貫を施與し發芽後一、二回稀薄人尿尿を施與し夏季反當百二十貫内外の敷草をなす而して生内三回摘採し(二回摘採後直ちに刈込をなす)何れも摘採後直ちに中耕をなし同時に魚肥及人尿尿を施す而して何れも手製天下一製にして其の收量及價格を示せば左の如し

品名	数量	單位	價格
一、香茶	八八、六〇〇	斤	四、一八一
二、香茶	七一、一五〇	斤	三、〇〇〇
三、香茶	六一、一四〇	斤	二、九一〇
計	二二〇、八九〇	斤	三、四三八
二、香茶	三六八、四〇〇	斤	四、一八一
三、香茶	二一三、一四〇	斤	三、〇〇〇
計	七七八、〇九〇	斤	二、九一〇
計	七五九、六三〇	斤	三、四三八

蒟蒻品種として記載すべき名目なく單に早生及晩生の別あるも之亦確然たる區別を判定し難し而して悉く茶園の間作にして種子は毎年夏季土用後晴天續きを撰ひ塊莖の重量五十匁乃至百匁(方言之を中玉と稱し芽の周圍著しく凹み且つ芽の長さ短きを可とす)のものを採掘し數日間雨露の憂なき處に竝列陰乾とし俵に詰め屋根下又は天井裏に貯藏す植付期は春彼岸前後にして茶樹の株間に二、三尺を隔て、U字形の穴を穿ち一ヶ宛植付け種子の見えざるを度とし可成薄く覆土したる後敷草をなす肥料は茶の肥料と濃施し特に之を施與することなく植付後三年乃至四年目にして開花す此後は塊莖の肥大することなきが故に開花前即ち栽植後三年乃至四年目に採收す採收期は九月下旬より十一月上旬迄とす

貯藏、別ちて長期及短期の二種とす長期間の貯藏法は採收後藁又は乾燥せる土間に竝列し日光を以て乾燥すること七、八日にして之を俵詰めとし屋根又は天井裏に貯藏す斯の如くして貯藏せるものを方言ア玉と稱す短期間の貯藏法は乾燥地に穴を穿ち之に塊莖を堆積し周圍及上部に土を覆ひ雨露の浸入を防ぐ爲め藁又は板を以て屋根を作る如斯貯藏せるものをカマ玉と稱す而して收量は反當五俵(一俵十五貫入)内外にして一俵の普通相場は貳圓五六十錢地方商人に販賣す

五、柑橘、明治四十年頃より之を栽培し初むと雖も當時僅かに四、五畝歩を栽培するに過ぎざりしも逐年茶の間作として増殖し且兩三年前より山林を開墾し之に植付け以て今日に至れり種類は大部分温州にして八ッ代(僅に二十本)を混植す而して何れも反當八、九十本を栽植し肥料は主として胡麻粕、鍊粕、骨粉、乾草等にして其施肥量一定せざるも十七八年木に對しては前記粕類、反當二、三十貫乾草百二、三十貫を毎年十二月下旬より三月上旬迄に施與す中耕及除草は其の回数少く春期二月頃之を行ひ同時に施肥すること多し以後七、八月頃に至り一回の除草を行ふのみ剪定法として特に之を行はずと雖も毎年秋芽其他徒長枝、枝梢の密又せるものを剪除する位に止め病蟲害豫防驅除として冬期松脂合劑春季發芽當時ホルド液を各一回撒布するのみなり採收は十一月中下旬より十二月中旬迄に終る要するに柑橘は尙増殖の餘地多々あるが故に今後更に栽植すべきは勿論なりと雖も地味瘠薄、栽培困難にして比較的多大の資本を要するが故に既植樹の成木を待ち順次増殖せんとす

六、桑、普通桑七分魯桑三分にして大部分茶園の間作又は畑の畦畔に栽植し特に肥料を施すことなく魯桑は高刈普通桑は根刈とし春秋二回收葉す而して勞力分配の關係上春蠶は飼育せず桑葉を賣却し秋蠶のみ飼育し四齡迄は普通桑を以後魯桑を以て飼育す

七、三極、苗木を仕立つるには實播を行ふ種子は六月收めたるものを砂と混し乾燥せる土中に貯藏し翌春に至り麥畦の間に堆肥及人尿尿を施し之に下種し(反當四、五升の割)土を被ひ尙切葉を以て覆ふ而して發芽當時は特に鳥害に注意し其後一、二回の水肥を施し成長するに従ひ順次に間引を行ひ七、八月に至り

敷草をなす(反當苗木四万本内外を得)春彼岸頃に至り山地に本植す即ち先づ唐鐵にて方五、六寸の穴を穿ち苗一、二本を植付く反當二、三千本を栽植す肥料は夏間乾草を敷き春季耕耘の際胡麻粕、人尿尿等の少量を施與す而して植付後二年にして刈初め以後隔年に交互肥大せる枝梢を刈取る大抵十二月、一、二月の頃即ち開花中に收穫し反當平均四、五十貫(黒皮)にして白皮は黒皮の四乃至四割五分を得

八、製紙、普通の製造法にして其の概要を示せば左の如し
原料三極白皮を川に浸水(さらす)すること一晝夜にして取出し直ちに日光に乾し充分乾燥せる後再び川に浸水すること一夜にして取出し大釜に入れ(一釜の分量約六貫目)石灰六、七升を混入し煮沸すること六七時間にして取出し更に川に入れ置くこと三日間にして取出し塵拾ひをなし叩臺に載せ叩棒にて適度に叩きたる後少量の水を加へ手にて練りたる後抄槽に投じサナ(原料六貫目に對し二百匁)を加へ充分攪拌したる後抄き初む而して抄きたる紙は之を順次積み重ね「ヂャッキ」にて搾り水を去り直ちに乾燥機にて(全部鐵葉板幅二尺長さ九尺の三角柱形にして回轉す)乾したる後積み重ね一定の大きに周圍を切斷す製品の大部分は左束(六分)障子紙(二分)包米用厚紙其他(二分)にして主として藤枝町に於て取引す而して之が收支概數を示せば別紙の如し

九、椎茸、之亦普通法にして即ち毎年十二月初旬より同月中旬迄に用材を倒伐し約一ヶ月間放置したる後長さ四尺二寸に切斷し直ちに日陰地に組込み二十二ヶ月間放置し再び之を取出し浸水すること一夜にして取出し樹陰地に一本立に竝列放置し春秋二季茸の發生を待ち之を採收し籠に入れ乾燥す其の收支概數別

紙の如し

一〇、木炭、悉く黒炭にして之が製法の大要左の如し
 竈は在來竈にして山腹又は山裾に之を設け（一竈の分量は生木三百五十貫にして製炭量は之が五分の一即ち七十貫内外なり）生木を二尺乃至二尺三寸に截斷し小なるは丸木の儘大なるは割木となし竈内には敷木即ち粗朶を敷き詰め其上に炭材を堅に詰め上部には上木即ち粗朶を置き之に竈口より點火し上木の七、八分燃焼せるとき竈口を閉ぢ直徑二寸内外の風吸穴を設け竈内全部赤熱したるとき直ちに風吸穴及煙出し口を密閉し約二晝夜放置し全く消火せる後取出す而して製炭期は毎年十月中にして炭材は檜材大部分を占め檜材之に次ぐ而して之が收支の概要を示せば別紙の如し

一〇、收支概算

(一) 製紙

收 入

一、一〇〇〇〇〇

製紙九五〇束ノ代

支 出

七八三〇〇〇

原料費（サナ）石灰一五、〇〇〇

三極七〇〇〇〇（二、〇〇〇貫）
木灰五、〇〇〇（薪五、〇〇〇貫）

差引三一七〇〇〇

人夫調（男一六五人）
（女八一一人）

作業別人夫調（一日）
男一人紙抄
原料煮沸其他
同さらし塵給
乾叩
 女四人

〇、五五
 一日の功程六束

(二) 椎茸

收 入

九五〇〇〇〇

椎茸一七一貫（一圓二一八〇）内譯（春季採收）三七分

支 出

五〇四〇〇〇

材料購入費

差引四四六、〇〇〇

男 五四一（切込、きさか、組込、三三〇）

女 一一三（採收）七〇

(三) 製炭

收 入

四五〇〇〇

木炭 五〇〇貫（一貫〇〇九〇）

支 出

二九〇〇〇

原料費 内譯（炭材）二五、〇〇〇（薪）四、〇〇〇（薪）

第二編 農業經營の一斑	農産物										
	麥	粟	小	大	茶	茶	茶	特 用 作 物	果 實	蔬 菜	牛 草
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
	一 一六	七 二八	二 〇、八六〇	八 〇〇、〇〇〇	二 二〇、八九〇	六 一、一四〇	七 一、一五〇	八 八、六〇〇	三 〇〇	三 、二二〇	三 、二二〇
	〇、〇二〇	〇、〇四四	〇、〇〇〇	三、四三八	二、九一〇	三、〇〇〇	四、一八一	一、二五〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
	二、三二〇	三、三〇三	二〇、二九〇	一〇〇、〇〇〇	七五九、〇九〇	一七八、〇九〇	二一三、一四〇	三六八、四〇〇	一三〇、五〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
	〇、五〇〇	一、七五〇	一、〇五〇	六、五〇〇	一、〇五〇	〇、五〇〇	一、二六〇	〇、五〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇

雜 麥 米												
穀												
葱	里	甘	小	小	大	薯	粟	小	稈	小	層	米
芋	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
二 〇〇	二 五〇	二 八七〇	〇 〇七〇	〇 〇七〇	〇 〇七〇	二 〇〇〇	〇 〇〇〇	五 八八〇	五 八八〇	二 八、五〇〇	〇 〇八〇〇	二 〇、八〇〇
〇、〇六〇	〇、〇七〇	一、五〇〇	一、三〇〇	〇、八〇〇	〇、八〇〇	七、〇〇〇	六、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
〇、五〇〇	一、七五〇	一、〇五〇	六、五〇〇	一、〇五〇	一、〇五〇	四二、一六〇	四一、一六〇	四一、一六〇	四一、一六〇	四一、一六〇	四一、一六〇	四一、一六〇
〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇

第六、營業收支
甲 收入
一、農産物

第二編 農業經營の一斑
差引一六〇〇〇
人夫調 男八〇人

合 計	生 產 肥 料				稿 稈 類
	小 乾 草	蚕 沙 及 鷄 屎	刈 豆	小 芒 稈	
計	一、三二五	一、〇〇〇	三二五	九一五	五二〇
	〇、〇二五	〇、〇一五	〇、〇一五	〇、〇一五	〇、〇一五
	二、四九三	三、四七五	四、八七五	三五、四一七	〇、二八五
	四、九七三	四、五〇〇	二五、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
	二、四九三	三、四七五	四、八七五	三五、四一七	〇、二八五
	二、四九三	三、四七五	四、八七五	三五、四一七	〇、二八五

二、畜 産

合 計	鷄 肥		備 考
	數 量	價 格	
計	五、八〇〇	〇、〇一六	原料生草三、〇五〇(二五、二五) 藜 二五〇(一、〇〇〇)
	五二〇	〇、〇二〇	
	一〇、三二〇	一、〇三二	

三、林 産

合 計	材 薪 炭 竹 孟 椎 宗		備 考
	數 量	價 格	
計	一七	一八〇	杉 檜 等
	五〇〇	〇、〇九〇	
	一、四三六	九、九二〇	
	一、四三六	九、九二〇	

四、製 造 加 工 品

合 計	鞋 草 紙 履		備 考
	數 量	價 格	
計	三五〇	八、七五〇	木灰五、〇〇〇
	三〇〇	四、五〇〇	三、七〇〇
	九五〇	一、一三三	皮履六、〇〇〇
	三五〇	八、七五〇	
	三〇〇	四、五〇〇	
	九五〇	一、一三三	
	三五〇	八、七五〇	
	三〇〇	四、五〇〇	
	九五〇	一、一三三	

五、勤 勞 收 入

(無)

六、雜 收 入

現 金	備 考
計	各種公共事業其他ヨリ受ケタル報酬
五、九五〇	
五、九五〇	

七、資 本 增 加 額

土 地	年 度 始 價 格	年 度 末 價 格	差 引 增 加 額	備 考
計	一一、七〇四、七〇〇	一一、八〇〇、四五〇	九五、七五〇	山林一反五畝開墾石材、石工賃六、〇〇〇人夫賃七、五〇〇
園 上 植 物	七、六二六、六〇〇	七、八三三、九六五	四二九、六二五	全前開墾地公課〇、一五五人夫賃〇、七五〇(一九八六五)
合 計	二〇、三三一、三〇〇	二〇、六三四、四一五	五二五、三七五	柑橋苗木(八〇〇)肥料五、九〇〇資本利子三、五〇〇(一、九八六五)
				未成木柑橋(五反畝)肥料五、〇〇〇公課〇、五〇〇(四七、八四〇)
				人夫賃三、二五〇資本利子七、五〇〇(一、四七、八四〇)
				山林(二四五反六畝)下刈人夫賃一五、〇〇〇(三六、九二〇)
				資本利子三三七、四〇〇公課九、五二〇(三六、九二〇)

乙、支 出

品名	金額	備考	土地			農具		種苗	
			開墾	修繕	小修	三極	三極	種	苗
開墾計	九五、七五〇	山林開墾石工五〇人 人夫一〇〇人石材							
修繕計	九五、七五〇								
小修計	八、八二〇								
三極種	一八、五八〇								
三極苗	五三、九二四								
種	二、五〇〇	五升代							
苗	二八、五〇〇	一万四千本							
柑	一〇、八〇〇	百十本							
杉	四、〇〇〇	千本							
種	八、二五〇	八斗二升							
麥	三、二五〇	二斗二升							
甘藷	〇、五六〇	八貫目(一貫七錢)							
里	〇、九〇〇	十五貫目(一貫六錢)							
蕎麥	二四、〇〇〇	八袋(四斗八一俵參圓)							
菜	〇、〇三五	一升七錢(五合代)							
蕎麥	〇、五五〇	大根蕪菁其他							
種	三、一五〇	四斗五升(一升七錢)							
計	四、八〇〇	雁付八枚(一枚六拾錢)							
肥	九一、二九五	五千八百貫(一貫壹錢六厘)							
草	九二、八〇〇	三百貫(一貫壹錢五厘)							
乾	七五、〇〇〇	三千貫(一貫貳錢五厘)							

品名	金額	備考	肥料		飼畜費		雇人費	
			魚骨	胡麻	其	小	男	女
人糞	一一、〇〇〇	一万一千百貫(一貫壹錢)						
草沙及鵝糞	四、五〇〇	養糞三、五〇〇 鵝糞一、〇〇〇						
草灰	四、二五〇	百七十貫(一貫貳錢五厘)						
過燐酸石灰	九、一〇〇	七十貫						
胡麻	二六七、七五〇	千二十貫						
鮭粉	一一五、八〇〇	三百二十四貫						
魚肥	一四、〇〇〇	五十貫						
小計	八、〇〇〇	六十四貫						
糠	七〇六、七〇〇	米糠二石八斗(一升貳錢五厘) 麥糠一石五斗(一升壹錢貳厘)						
生草	八、八〇〇	一斗						
藥	一五、二五〇	三千五十貫(一貫五厘)						
價却	一一、〇〇〇	二百五十貫(一貫四錢四厘)						
其	四、三五〇							
小計	二、四〇〇	蹄鉄其他						
男常雇給金	四二、五〇〇	七人分						
全食糧及諸給與	三七七、〇〇〇	五人分						
女常雇給金	四二七、二〇〇	全						
全食糧及諸給與	一二五、〇〇〇	五人分						
臨時雇賃金	一七〇、〇〇〇	全						
全食糧	一〇五、三〇〇	二人分						
小計	六六、三〇〇	全						
薪炭計	一、二七〇、八〇〇	薪八拾圓 炭七拾貳圓						
油類	一五二、〇〇〇	石油其他						
計	二、六〇〇							

合 計	諸 費		諸 稅		借 地 料		資 本 利 子		
	俵 繩 其 他	運 搬 費	小 專 業 用 消 耗 品	地 租	縣 村 稅	農 會 及 組 合 費	小 田 畑	宅 地	流 通 資 本
四、二〇〇	一五、五〇〇	三、五〇〇	一七七、八〇〇	三六、九八〇	二四、六六三	二、五八九	一三、五〇〇	二、四〇〇	一、〇九六、九九五
三、五八九、三七三	四、二〇〇	一五、五〇〇	一七七、八〇〇	三六、九八〇	二四、六六三	二、五八九	一三、五〇〇	二、四〇〇	一、〇九六、九九五
	俵百俵二、五〇〇	肥料其他運賃	(戶數割、所得稅含マズ)	縣稅 一七、四一〇	村稅 七、五三〇	事業用ノミ計上ス	宅地 二四一、五〇〇	山林七、四一三、〇〇〇	計一一、七一九、二〇〇(五分)

丙、收支一覽

收 入	備 考	支 出	備 考
四、五〇一、四四八		三、六七四、六七六	

合 計	農 業 費 用		種 苗 費		飼 料 費		雇 人 費		諸 雜 費		借 地 料		資 本 利 子	
	土 地 費 用	建 物 費 用	農 具 費	種 苗 費	肥 料 費	飼 料 費	雇 人 費	諸 雜 費	諸 雜 費	借 地 料	資 本 利 子	流 通 資 本	小 田 畑	宅 地
二、一四九、四七三	六六、九五〇	一、四三六、九二〇	三二六、七八〇	五二五、三七五	五、九五〇	二、一四九、四七三	六六、九五〇	一、四三六、九二〇	三二六、七八〇	五二五、三七五	五、九五〇	二、一四九、四七三	六六、九五〇	一、四三六、九二〇
九五、七五〇	一六、〇七八	五三、九二四	九一、二九五	七〇六、七〇〇	四二、五〇〇	一、二七〇、八〇〇	一七七、八〇〇	六四、二三二	一、〇九六、九九五	四二、六〇二	三、六七四、六七六	二、一四九、四七三	六六、九五〇	一、四三六、九二〇

收支差引金八百貳拾六圓七拾七錢貳厘

戸主并に家族一ヶ年の企業報酬及勞働(九二一人)賃銀

第七、將來に對する經營方針

余が經營の骨子とする處は一つに勞力分配にあるが故に將來は更に現在勞力の分配を適當ならしめ以て之が利用増進を圖り製茶、製紙業は勿論柑橘、椎茸、栽培等に全力を傾注せんとす殊に山林は尙開墾の余地多々(未開墾地一町三反余)あるが故に今後數年を出ずして之れが開墾既成を待て柑橘を増殖し且つ製紙原料三椏の如き現在に於ては自給額僅少にして大部分は比較的高價に購入せざる可からざるが故に

製紙經營上極めて不利の点多く之が自給を圖る可く柑橘の成木する迄は三櫛を混植せんとす而して製炭の如き之亦自家用を充すこと不能の状態なるが故に將來少くも自家給を補ふの程度に生産し以て原料及助成品の補給を圖ると共に一面從來の柑橘、茶、椎茸の培養及製紙業等の勞力の需給を按配し出來得る限り之が肥培増殖に勉め以て生産額の増加を圖り富力の充實を期せんとす

第六章 普通農業

志太郡豊田村五ヶ堀之内 龜山鐵藏

目次

第一、農場の概況	
第二、農業資本	一、土地資本 二、建物資本 三、農具資本 四、動物資本 五、植物資本 六、現物資本
	七、貨幣 八、農業資本一覽表
第三、勞力	一、勞力の弛張 二、家族並勞働力 三、勞力の過不足並作業概況
第四、生産方法	重要作物栽培概況
	一、稻 二、麥 三、綠肥 四、茶

第五、收支決算

甲、經營全般の收入	一、收入 二、支出
乙、家計收支決算	
丙、部分的收支	一、稻作 二、麥作 三、綠肥 四、茶
参考	一、重要作物栽培従業勞働表 二、重要作物損益一覽表 三、耕馬飼養

第六、將來の方針

一、經濟思想の涵養	二、土地利用の増進	三、栽培の研究	四、肥料經濟を計ること
五、副業を有利に行ふこと	六、養鶏	七、燃料の改革	

第七、經營又は農場の畧歴

一、農場の沿革	二、現今の經營法
---------	----------

第一、農場の概況

(一) 農場の平面圖(省畧)

(二) 土質、灌排水の便否、道路の善悪、耕地整理、旱排水の有無、土質は河成沖積地にして概畧鐵道線路以南は大井川に以北は瀬戸川に屬するものゝ如し表土は鐵道以

南は浅くして三寸より一尺五寸の間にあり鐵路以北は稍深くして二尺に達する所少からず
 灌排水の便否、灌漑水は古來豊富にして旱害を知らざりしも耕地整理の設計完全ならざるか故に排水今
 尙充分ならず殊に從來の灌漑水路たる幅員二間の小石川は上流高洲村の整理耕地より襲來する悪水を受
 けて附近の耕地に氾濫し其損害少からず目下改修工事中なるを以て竣工の上は被害範圍非常に縮小する
 の見込なり

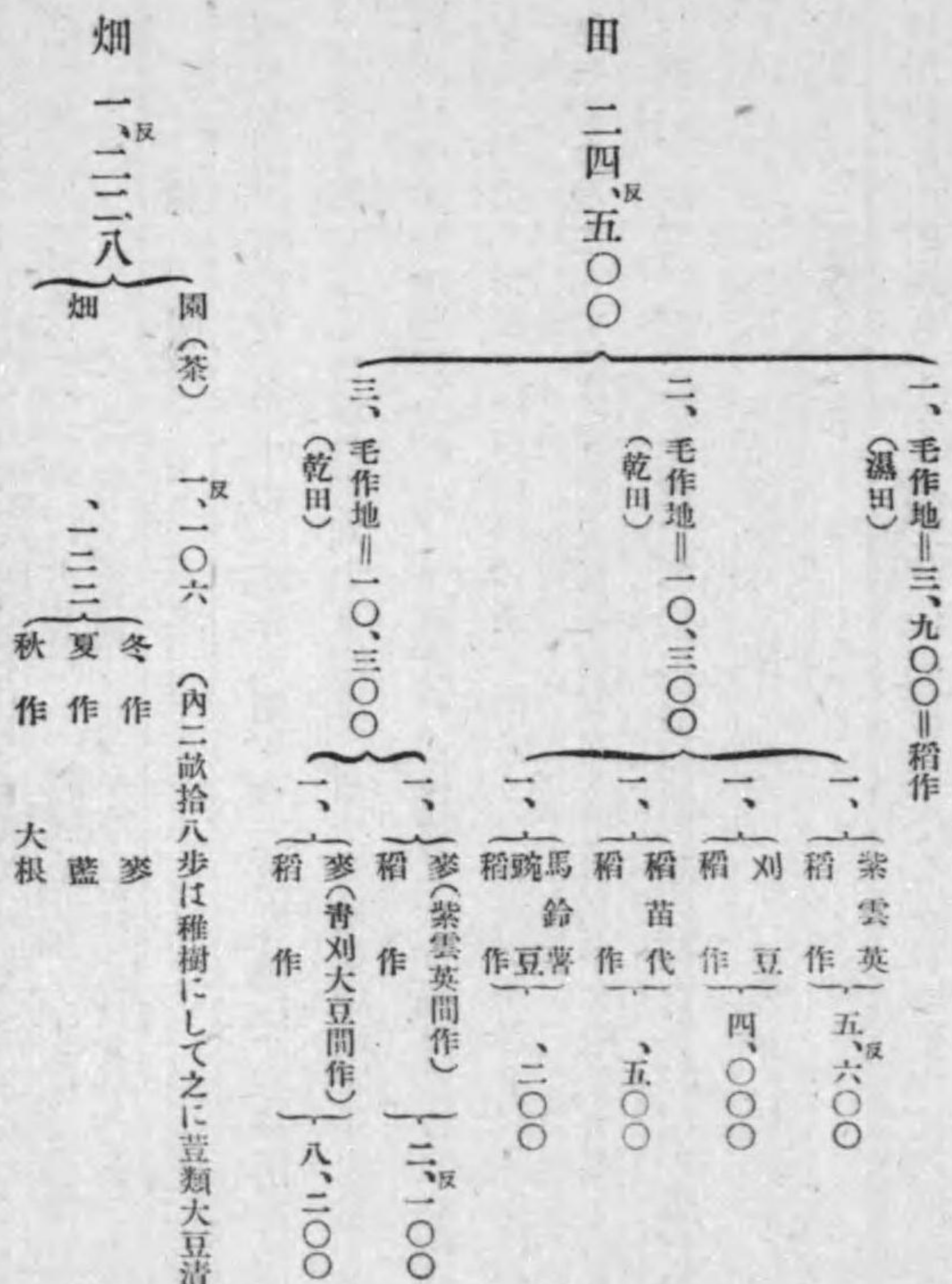
道路の善悪、居住地より西北藤枝町へ一里東焼津町及停車場へ二十町にして何れも車馬を通するも道路
 完全ならざるが故に大量の運搬には困難なり殊に藤枝停車場へは直線僅に廿餘町に過ぎざるも直通路
 なきを以て重荷の車輛は藤枝町を迂回するか故に行程二里に達し行通甚だ便ならず爲めに肥料の購入米
 穀販賣等の商取引は其不利を問はず總て焼津町にて行ふ、作道の幅員及配置は稍可なるも盛土及砂礫
 不足の爲め連日の雨天には車輛の運搬困難なり

耕地整理、明治三十七年着手同三十八年竣工目下灌漑専用たりし小石川を灌漑排水兼用として改修中な
 り

旱水害の有無字の南方一小區域を除くの外は灌漑用水常に豊富なるを以て古來旱害を被りたるを知らず
 水害は瀬戸川堤防潰決の外は全部の被害なしと雖も耕地整理の設計中排水幹線を缺けるか爲めに屢々雨
 潦の氾濫を被り麥作綠肥作の如き往々意外の損害を被ることあり、大洪水の被害に至りては往古の事歴
 詳ならざるも近世の大水害として今より六十餘年前村内字保福島の地先築地境に於て瀬戸川南堤防潰決

し本字五ヶ堀之内は本流區域となりて大害を被れり降て明治四十三年八月青島村に於て再び瀬戸川南岸
 潰決し鐵道線路の障礙により其以北は濁水滔々として數日に互り堀土を沈積し其回復に數年を要したる
 所あり

(三)、土地利用の状況



宅地 三〇〇坪 六〇坪 建物及之に屬する空地
 六〇坪 物干場(内三十坪は干穀干場とし冬春は糞積場に用ひ夏季蔬菜栽培を行ふ)
 一八〇坪 茶柑橘の混食とし茶の栽培面積は見積九十坪とす

説明

經營反別田二町四反五畝中の一毛作に屬する三反九畝は小石川兩側の低地にして排水の路なきにより乾田となすを得ず二毛作地の青刈大豆四反二畝は耕地整理地區外にして半乾田なるを以て刈草單作を行ふ此區域は將來耕地整理を行ふときは充分の排水により優良なる二毛作乾田となすことを得へし、紫雲英の單作は勞力の按配と肥料經濟の兩方面より毎年五反歩乃至六反歩の作付をなすも連作は紫雲英の發育不良なるのみならず肥料經濟上又不利なるを以て麥と輪作するもの多く三毛作地の麥間作に青刈大豆と紫雲英とを用ひたるは溫度の關係上春蒔紫雲英の發育良好なる所を選て播種したるものにして尙ほ其他に春蒔紫雲英に適したる所あるも麥中耕の遅れたる爲めに紫雲英の播種期を失したる所あり之等は悉く青刈大豆を播種したり

畑は居住地の附近に少きを以て蔬菜栽培に不便なり耕地整理前六田地の排水稍佳良なる所を選みて岡地と稱し更に排水設備を設け之に夏作蔬菜を(昔は綿作を専とせり)を栽培するの習慣なりしも耕地整理の地均し剩土及瀬戸川潰決によりて生じたる寄洲を以て各所に小畑を造りたるも悉く之に茶を植たるを以て蔬菜の栽培は依然として不便なり、地形右の如くなるを以て前表に掲ぐる如く茶園宅地等の間地を利用して蔬菜を栽培し漸く自家の需要を充たすに過ぎず圃一畝二十二歩は所在遠くして夏作蔬菜の如き極度の集約作物には管理極めて不便なるを以て之を利用することを得ず往昔瀬戸川潰決の難を防ぐと暴風若しくは冬期の寒風を遮り且つ葦葺屋根の保存上宅地の西及北には竹叢若しくは喬樹を植へたりしも現今悉く之を撤去して前表記載の如く利用せり

第二、農業資本

一、土地資本

所別	地有		小作料		小作別		小作地		總經營反別田
	價	時	價	料	別	料			
田一毛作	五二、三〇〇	二八、〇〇〇	一、六八〇	二、六一九	二、九六八	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	
田二毛作	一四一、四八〇	六八八、二〇〇	三、一五〇	七、三〇九	九、一五〇	一〇、三〇〇	一〇、三〇〇	一〇、三〇〇	
田三毛作	二、〇二六	八二、四七〇	二、三八〇	八、二〇四	九、七九二	一〇、三〇〇	一〇、三〇〇	一〇、三〇〇	
畑(茶)	七、五二七	三六四、〇〇〇	一、八六二	五〇九	四九二	一、一〇六	一、一〇六	一、一〇六	
宅計	一七〇〇	三一、四〇〇	二、四〇〇	一一六、〇〇〇	六三〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
合計	七、四一九	三一五、一九〇	二、〇九二、二〇〇	一一、四七二	一九、三〇九	二二、一九二	二六、七二八	二六、七二八	

二、建物資本

住宅	棟數	建坪	構造	已保年限	見積價額		存年限保		償却金	修繕費	備考
					(家)	(事)	年	年			
住宅	一	二一〇〇	平屋瓦葺	五十年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	百年	百年	七、〇〇〇	三、三五〇	
住宅	一	三、〇〇〇	平屋瓦葺	八十年	一、四〇〇	一、四〇〇	二十年	二十年	三、〇〇〇	一、五〇〇	
住宅	一	四、〇〇〇	平屋瓦葺	八十年	六、〇〇〇	六、〇〇〇			三、〇〇〇	一、五〇〇	

茶部屋 厩兼肥料舍 合計	一 七、五〇 三八、八三	一 三、三二 平屋瓦葺 平屋葺葺	二十五年 四十年	(事) 一五、〇〇 三〇、〇〇 一五九、〇〇 (家事) 一〇六、〇〇	四十年 百年	(事) 三七五、 三〇〇、 三三七五、 三〇七五、 (家事) 一三〇七五、	(事) 二、〇〇 五〇〇、 一、〇五〇
合計	四	一	四十年	(事) 一五、〇〇 三〇、〇〇 一五九、〇〇 (家事) 一〇六、〇〇	百年	(事) 三七五、 三〇〇、 三三七五、 三〇七五、 (家事) 一三〇七五、	(事) 二、〇〇 五〇〇、 一、〇五〇

備考 本表見積價額及其他の諸書中にある(事)は事業に屬するもの(家)は家計に屬するもの(畧)

三、農具資本

農耕 運搬 收穫 農舍 製茶 飼畜	用 用 用 用 用 用	個 數	價 額	價 却 金	修 繕 費
農耕	用	四四	四三、〇〇〇	三、六一三	三、九〇〇
運搬	用	二二	一八、七五〇	一、六六二	三八〇
收穫	用	六七二	九五、八〇〇	一一、〇三一	一、五七〇
農舍	用	七六	四八、二三〇	五、一九七	一、一一〇
製茶	用	三九	一七、九六〇	一、八五一	三七〇
飼畜	用	八一	八、五〇〇	一、〇四二	七、四三〇
合計		八六五	二二二、二四〇	二四、四五六	

四、動物資本

馬 雞 計	數 量	單 價	價 額	用 途	備 考
馬	雌雄牡	平均	九〇、〇〇〇 、八〇〇〇	耕用 卵用	年齡八才大正五年購入一ヶ年金十五圓宛の償却金を要す 大正四年秋季の孵化雛にして大正五年三月購入
雞	七一一		九六、四〇〇		

五、植物資本

茶 蜜 計	數 量	見 積 價 額	備 考
茶	一六五〇 ^本	一六〇、〇〇〇	五年生百貳拾株を除くの外何れも二十年乃至三十年とす
蜜	二十三年生三〇本	三五、〇〇〇	
計	九百七本	一九五、〇〇〇	茶と混植

六、現物資本

種 飼 肥 計	價 額	備 考
種	一九、八七	
飼料	一二九〇	
肥料	一〇四、三四	
計	一三七、一一	

七、貨幣

金 額	備 考
三〇、〇〇	租税諸掛其他支拂を要するもの、準備金として此額にて不足なし

八、資本總額

金 額
二、九一一、九五

第三、勞力

一、勞力の弛張

計數上に表はるゝ所の勞働數は能く其弛張の度を示す能はざるも我が經營は勞力の按配利用に重きを置けるか故に其勞働能率は確かに我地方平均以上に擡るを疑はす而して當地現在の土質(耕地整理後稍改善せられたるもの)にありては麥作は耕起前後に於て充分風化を行はしむるにあらざれば作業收穫共に不良なるのみならず稻作も亦不結果にして多量の肥料を要するを以て早時に適する一部の外は寧ろ急速に蒔付をなすは脚て不利益なるの事情あるを以て秋末より早春までは敢て勞力の逼迫を感せざるも四月下旬以後は稻作と製茶とを併せ行ふか故に六月は勞力緊張の極點に達し其時期に於ては午後三時—四時より終日勞役に従事す反之其前後の二三ヶ月は往昔の如く閑なるにはあらざるも猶幾分勞力に餘裕あり此春秋二期は體力休養の時期にして次て來る可き農繁時に活動すべき體力を養ふものとす

一、家族並に勞働力

經營者との續柄	年令	年内勞働日數	勞働能率	壯丁に改算したる年内勞働日數	備	要
經營者(戸主)	四十六年	三二七	一〇〇	三二七	茶業總代衛生委員農會役員の職にあり	
妻	四十四年	二三四	一〇七	一六三、八		
長男	二十三年	三三三	一〇〇	三三三		
長女	二十一年	二七二	一〇七	一九〇、四	農閑時裁縫修業	
二女	十五年	三四六	三七	一〇三、八	炊爨子守等に従事したる日數にして經營上の勞働日數にあらす	
三女	十年	通學				
四女	六年					
五女	三年					

三、勞力の過不足并作業概況

本年は稍多數の勞力備入を爲せるも其多くは臨時作業たる池沼の埋立の爲めにして之に關する自家及雇勞力を扣除せば普通農業に關する勞力不足は敢て多數に上らざるなり然れ共各季節と事業の種類とに應じて甚だしき逕庭あるを以て實際勞力の過不足は次表に於ける各事業に對する各月の雇被雇の人員を扣除したるもの稍其眞に近からんか、

農業經營上勞力の分配は尤も主要の事なるか故に其按配に注意し更に耕馬を飼ひ其能力を以て自家勞力の不足を補ひ且賃犁を行ひ其利用率を増進して耕馬飼養の不利を除かんことに勉めたり即ち一月に於ける男勞力は過不足はなきも剩れる耕馬を利用して賃犁を行ひ夫を雇ひて自家の勞力を補ひ其賃銀の差額を利したるの結果なり二月に於ける雇人は農閑期を窺ひ低廉なる賃銀を用ひて所有の池沼を埋立てたるものにして當時鐵道線路の不用土砂を除却するの機に際し之を利用したるなり

三月の雇人は長女に裁縫修業の時日と與ふる爲めに雇入たるものとす
五月の女賃勞働は實際過剩にあらざるも親戚の要求止を得ざるの事情により一時長女を賃與し之か爲めに勞力缺乏し延て植付準備に影響を及ぼしたり

六月に至り遂に多數の勞力を雇入たり二番茶は發芽老熟共に速にして稻植付との關係上動もすれば摘採期を逸し若し之を放置すれば三番茶の收穫非常に減少するの不利あるを以て勞力の按配最困難の時なり七月の雇人は二番茶製造の爲め水田除草の遅れて三番茶製造勞力の差繰困難となるの恐あるを以て之を

圓滑ならしめんか爲めなり

十一月より十二月に互れる雇人は稻扱を専とす

事業外公共其他に屬するもの、内一月の男一は報徳社集會三月の四人は道路橋梁の修繕農會春季大會、四月の一人は受持區域内の清潔法監視、五月の一人は溝拂(灌排水路の浚渫にして一字共同して遠く水源地迄浚渫したる古來農家の重要な年中行事とす)九月の四人は三月に同じ

家事中日常の炊爨及子守等は専ら次女の任として之を扣除し其殘餘の日數三月、四月、九月、十月の如き農閑の月に多き所以は主婦の専ら事業經營に従事するか故に農繁期に於ては幼年子女其他家族の被服装具の如き調度を掌る能はざるが爲め農閑時に於て之を整理せるによる

其他一月年始の社交八月の舊曆宇蘭盆の如きは従つて家事多忙なり裁縫は長女の婚期迫れる爲め裁縫術を修得せしめたるものなり

参考 地方休日

休日は區々にして一様ならず豊田村に於ては日清戦後舊曆全廢を申合せ祝日は總て國祭日と定め當初數年は能く行はれたるも漸く弛廢し現今一部の外は殆ど行はれずと雖も休業日數は常雇人を除くの外は大に減少して日清戦役以前に比すれば半數以下に減したり其詳細は次表による

當地に於ては尙榮り場と稱し附近の神社佛閣に賽するの習あり(殊に老幼婦女等喜で參詣す)其祭日は多く農閑期に當れり今主なるものを擧れば二月の清水觀音(藤枝町西)虚空藏菩薩(東益津村)不動明王(藤枝

町及吉永村)四月の水天宮(小川村)八十八夜の高草山登山(山頂、東照宮)七月の地藏尊(小川村)八月の燒津神社(燒津町)辨財天(同上)九月幡社(廣幡村)飽波神社(藤枝町)十日大井神社(豊田村)等は群衆雜鬧の處にして遠く安倍郡服織の洞慶院、清水町三輪稻荷、久能山東照宮、静岡市淺間神社等に賽するもの少なからず今當地に於ける今昔の休日を大要表示すれば左の如し

休日新舊對照表

月別	休日名稱	常雇人	青年	一般	前	日	露	戰	役	前	現	常雇人	青年	一般	今
一月	新年	三	三	三	三	三	三	三	三	三	二	二	二	二	一
二月	初山(四日)	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半
三月	節句(七日)	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半
四月	田打初(十一日)	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半
五月	伊勢祭(十五日)	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半
六月	御祭(十六日)	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半
七月	神ノ年起(七日)	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半
八月	太那次郎(一日)	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半
九月	節太(十五日)	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半
十月	被岸中(十五日)	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半
十一月	被岸中(十五日)	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半
十二月	被岸中(十五日)	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半

舊十一月	同十月	舊十月	舊十月	十	九	八	舊七月	舊六月	舊五月	舊四月	舊三月													
伊勢堂前(五日)	天長祝日	夷講(二十日)	神の山立(一日)	月見(十五日)	村社祭	彼草岸	田草休(一日)	二百十日	田草休(一日)	八朔(一日)	天長節	施餓鬼(十一日)	于爾盆(十四日)	于爾盆(十五日)	七夕節句(七日)	竈の口明(一日)	同	御祭	津島祭(十四日)	舊蒲節句(五日)	洗拂	釋迦誕生(八日)	雜節句	
牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛
牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛
牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛
牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛
一	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛
一	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛
一	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛
一	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
三三、五	三三、五	二七、五	三一、五	二四、〇	二〇、〇	二五、五	二〇、五	一九、〇																

第四、生産方法

一、稻

一、取扱上及品種の統一より見れば勉めて品種の雜駁を避けざるへからざるも努力の分配、土質及自家需要の關係等により必ずしも單一を利とせず今年耕作の種類及作付反別を表示すれば左の如し

名	作付反別	摘	要
早生 梗 土佐	二、〇〇	收量少く米質劣るも莖長大なるを以て席として強韌に而も織成工程高きの利あり	
早中 梗 辰馬	四、〇〇	神力系統にして米質神力に次ぎ收量多く熟期早く努力分配上有利なり	
中生 梗 神馬	八、五〇		
晚中 梗 吾妻	四、五〇	米質辰馬神力に劣るも收穫神力に次ぐ	
晚生 梗 小	二、二〇	餅として質良ならざるも收量多し	
同 梗 計	五、一〇	米質良ならざるも瘠地に佳なり	
	二四、五〇		

一、撰種、稻黄熟期に臨み一本植の採種田に於て拔穂を行ひ之を蔭干とし穂三分一以上の上部を抜き落し篩を以て大小を分ち中等大なるものを取て鹽水撰を行ひ原種とし苗代播種量を三合とし一本植とす出穂時に至れば注意して變種を識別し純良なるものを刈取て來年の普通種子とす毎年此作業を繰返し行ふものとす但し原種田とし通採種田とは別々に栽培す

一、苗代、強壯なる苗を得んか爲めに地拵肥培管理等に重きを置く地拵は三月上旬稻株を抜き取り三寸内外に耕起し四月中旬蒔代を造り八十八夜前(製茶開始直前)播種す。籾播種量は坪四合とす。肥料は使用前一ヶ月蒔代一坪に對し胡麻粕四合、過燐酸石灰二十斤の割合にて濕土に混して堆積腐敗せしめ置き播種の際更に乾土を混し篩を以て播下せる籾種を覆ふ是鳥類の害を防ぎ、稚苗の安定及び多數の上根を發生せしめんとの目的なり。籾の浸水は芽部膨大して僅に白色の芽頭を認むるを程度とす。従來は種井戸を用ひたるも、現今にては流水浸とす。追肥は主に糞灰を用ひて苗の強健を助く。

一、本田、(濕田) は四月上旬耕起し同下旬中耕し植付前代均して行ふ。紫雲英田は一番茶前後に耕起し直に植付前中耕を兼て地均を行ふ。麥作地及刈豆地は植付直前耕起し直に地均しを行ふ。耕起は水田を除く。他は悉く馬耕に依る。中耕及代均しは土性の適する限り馬肥を用ふるも一部分は手耕に依る。

植付は六月十日頃開始し同二十五日前後に終る。一坪の株数は土質に應じて一様ならざるも四十株乃至五十株とす。

除草は第一回を蟹爪打とし爾後三回は手取とす。

施肥は綠肥のみを元肥とし植付前に施すも其他は一番除草の際に用ふ。従來元肥は耕起の際全部施用したるも乾田は其分布均しからずして收穫に影響すると一時に多量を施肥するも其養分を亡失するの損るを以て植付後に分施す。然る時は植付繁忙の際勞力按配上大に利益あり。追肥早きは二番除草の終り遅きは三番除草の初めに施す。尙稻の状況を察し四番除草の終りに第三回追肥を施したる所あり。

二、麥、

播種は十二月上旬より翌年二月下旬に終るものとす。

裸麥は晩播は收穫少きを以て一月中旬以前に播種を了するものとす。耕起は馬耕にして悉く畦犁とし次に三股鋤を用ひて畦狀を整へて之を細鋤し次に方言おうと稱する(木製長柄の大才樋の如きもの)土碎を用ひて土塊を碎き(振馬把は字の南方一部の外用をなます)て蒔作を造り堆肥と粕類とを施して土を被ひ水田を以て之を濕し然る後播種覆土す。耕土の淺き所は堆肥を播種後に施して覆土す。追肥は中耕毎に人糞尿を施す。中耕は二―三回にて早播の分は一回の土入踏壓及土寄を行ふ。

三、綠 肥、

一、秋蒔紫雲英は先ず播種す。へき水田に最終除草の序を以て田の周圍畔を距る約一間の内部に手にて小排水溝を造り(乾燥特に良なる所は其必要なし)豫め排水して適度に乾燥せしめ再び灌水し置くときは傾穗後割合に早く乾燥せしめ得るの利あり。播種量は土地乾燥の程度に應じて各異るも二升より三升の間あり。播種は九月下旬より十月上旬の間にして十二月初旬薄く一面に糞を撒布して凍害を防ぐ。肥料は春彼岸後一反歩約六七貫匁の過燐酸石灰を施し一番茶終了後(場合により一部一番茶前)刈取直に犁込ものにして反當收量五百貫九万五千五百貫とす。普通肥料としての犁込紫雲英は反當五六百貫とし其餘は水田若くは茶園に搬出するを例とするも連日降雨の際は取扱不便にして搬出の勞に堪へず止むを得ず全量を犁込むことあるも多量の要素を流亡するの不利あるを以て目下之か利用法の研究中にあり。

計	其他	葉菜	果菜	其計	馬鈴薯	根菜	豆類	豆類	豆類	小豆	大豆	計	皮其他
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	八、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	四、〇〇〇	九、〇〇〇	一、二、五〇〇	二、五〇〇	一、七、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	八、〇〇〇
八、二〇〇	三、〇〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、六、四〇〇	一、六、四〇〇	一、五〇〇	七、五〇〇	一、五〇〇	七、二〇〇	二、八五〇	八、〇〇〇	二、四〇〇
一、〇、一、二、三、四、七	八、二〇〇	三、〇〇〇	一、二〇〇	四〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
<p>細一畝十二歩、田一町三畝歩の収量あり 悪水氾濫の爲め畦畔の大部を流失又は腐敗したるにより (發芽の際)收穫減少 畦の冬作 乾田栽培 宅地の間作 乾田裏作 大根其他 漬菜類 南瓜、胡瓜等</p>													

(ろ) 果物

計	柑	柿
計	計	計
三、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
一〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
四八、五〇〇	四五、五〇〇	三、〇〇〇
<p>宅地を利用して茶と混植見積面積九十坪蜜柑百貫目十三圓 自家用に大三本小一本あり 自家用に賣却す</p>		

(は) 茶

計	一 番 茶	二 番 茶	三 番 茶	四 番 茶	生葉(三番茶)	刈落シ枝葉
計	計	計	計	計	計	計
一九八、〇〇〇	三、一五六〇	二、一五二〇	一、八七三七	五、九七〇	七、〇〇〇	三〇〇
三〇〇	三、一九三	一、七〇二	二、一二四	二、四一九	三〇〇	三〇〇
二〇一、一八〇	一〇〇、七五〇	三六、六三〇	三九、八〇〇	一四、四四〇	二、一〇〇	五、九六〇
<p>單作茶園 一反一畝六歩 柑橘間作 三畝歩 合計 一反四畝六歩</p>						

(に) 栽培緑肥

計	秋蒔紫雲英	春蒔紫雲英根共	間作刈豆	單作刈豆
計	計	計	計	計
一〇九、七三〇	四七六、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	一六九〇、〇〇〇	一一〇〇、〇〇〇
一、三、〇〇〇	一、三、〇〇〇	一、五、〇〇〇	一、五、〇〇〇	一、五、〇〇〇
六一、八八〇	六、〇〇〇	二、五、三五〇	一六、五〇〇	一〇九、七三〇
<p>作付五反六畝 麥間作二反一畝 作付八反二畝(麥間作) 四反二畝歩作付</p>				

(ほ) 其他

計	藍 草	雜 草
計	計	計
一、二〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
一、一〇〇、〇〇〇	一、五、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
三、三、〇〇〇	一、五、〇〇〇	三、三、〇〇〇
四、〇〇〇	七、五〇〇	四、〇〇〇
<p>甲は畦畔堤塘等自家の耕地に屬するもの 乙は毎年契約して鐵道線路堤より刈り取るもの 畑一畝歩</p>		

黃計	一、〇〇〇	八〇、〇	三〇、三〇〇
----	-------	------	--------

普通作物總計額價 千四百二圓五錢七厘

(二) 蓄產物

計	數	量	單	價	價	額	摘	要
鵝	八七〇	個	一個	二、〇〇	一七、四〇〇			
鴨	四〇〇	頭	一個	一、〇〇	四、〇〇〇			
雞	三八四〇	羽	一個	六〇	二三、〇〇〇			
卵	〇〇〇	個	一個	〇〇	四四、四四〇			
肥	〇〇〇	個	一個	〇〇	〇〇			
計								

大正四年春孵化せる雛を五年四月購入雄一雌八主として増より出するもの
 厩肥は約一月一回宛更新し新しき糞を與ふ初め少量にして隔日十三日一回位に新に乾燥せる糞を入る

(三) 製造加工品

計	數	量	單	價	價	額	摘	要
履	三〇	足	一足	一、五〇	四、五〇〇			
繩	七〇	房	一房	二、〇〇	一、四〇〇			
俵	一二〇	俵	一俵	三、五〇	四、二〇〇			
蓆	四〇	枚	一枚	一、五〇	六、〇〇〇			
荷繩	〇	枚	一枚	〇	一、三〇〇			
其他	〇	枚	一枚	〇	一七、四〇〇			
計								

自家用鞋、草履等
 香、其他の修繕新調

(四) 雜產物

計	數	量	單	價	價	額	摘	要
薪炭	二六、〇〇〇	斤	十斤	二五、〇〇	六、五〇〇			
新炭	一〇、〇〇〇	斤	十斤	四〇、〇〇	四〇〇			
藥屑	一〇〇、〇〇〇	斤	十斤	一〇、〇〇	一、〇〇〇			
古俵	一二、〇〇〇	斤	十斤	二五、〇〇	三一五			
堆肥	一七五〇、〇〇〇	斤	十斤	一七、〇〇	二九、七五〇			
計						三二、一一五		

馬飼其他事業用燃料より生ずるもの
 製茶燃料より生ずるもの
 糞取扱より生ずるもの
 厩敷糞其他を堆積したるもの

(五) 資本増減價額

計	年度始	年度末	増	減	格	事	由
土地	二〇九二、二〇〇	二二〇四、二〇〇	三、〇〇〇				
動物	九六、四〇〇	八一、四〇〇		一五、〇〇〇			
植物	一九五、〇〇〇	二〇三、〇八〇	八、〇〇〇				
差引	二三八三、六〇〇	二三八八、六八〇	五、〇〇〇	一五、〇〇〇			

池沼を埋立て成立せるもの、價格は百圓なるも本表には雇入たる人夫の賃金を増加して掲ぐ
 減は耕馬の償却金なり
 柑橘及茶樹の成長に依る増價にて肥料耕作費諸掛を計上す

(六) 勤勞收入

貨銀	計	日數	日數	日數	日數
稻	一五、〇	七	一五、〇	七	一五、〇
麥	九、〇〇〇	七	一〇、九五〇	七	一〇、九五〇
其他	七、〇〇〇	七	一八、二〇〇	七	一八、二〇〇

男は經營者自ら馬耕をなせるもの
 次は長女の茶摘

報計	茶	計	報計	茶	計	報計	茶	計
五、七六〇	二二	一六、〇〇〇	一六	五、二八〇	五、二八〇	二二	二九、一五〇	農會役員五十錢 茶業總代五十七錢 衛生委員二十六錢
五、七六〇	一、三三〇	一六	五、二八〇	二二	二九、一五〇			

收入總計 千五百五十二圓七十七錢二厘

二、支出

(一)、土地改良費

項目	金額	摘要
耕地整理費	一二、二九一	所有池沼を埋立て田地とせる費用
池沼埋立費	一二、〇〇〇	
計	二四、二九一	

(二)、建物費

項目	金額	摘要
居宅	一、〇〇〇	五ヶ年前葺葺を瓦葺に改めたる際大修繕を加へたるにより修繕費を要せず
厩舎、物置、合棟	八〇〇	
肥料舍兼厠	三〇〇	
茶部屋	三七五	
計	二、四七五	

(三)、農具費

項目	價却金	修繕費	摘要
農耕用	三、六一三	三、九〇〇	共有噴霧器分担額
運搬用	一、六六二	三八〇	
收穫用	一一、〇三二	一、五七〇	
製茶用	五、一九七	一、一〇〇	
飼畜用	一、八五一	三七〇	
其他用	一、〇四二	一〇〇	
計	二四、四五六	七、四三〇	

(四)、種苗費

項目	數量	價	給額	自給	購買	入額
麥類	七五、〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	七五、〇〇	一三五、五〇	一八、一〇四
豆類	六七、〇〇	四、八六〇	四、八六〇	六七、〇〇	一九〇	一五〇
綠肥類	一九、五〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一九、五〇	一九〇	
其他	一三五、〇〇	一八、一〇四	一八、一〇四	一三五、五〇	一九〇	
計		三三、二二四	三三、二二四	二〇〇	一、一九〇	一八、二五四

(五)、飼料費

(六) 肥料費

肥料名	數量	單價	價額	自給		購入	
				數量	價額	數量	價額
堆肥	一八〇	二〇	三六〇	一八〇	三六〇	〇	〇
人糞	二〇〇	一四	二八〇	二〇〇	二八〇	〇	〇
鱈魚汁	三〇	五〇	一五〇	三〇	一五〇	〇	〇
過磷酸石灰	一七五	九三	一六二〇	一七五	一六二〇	〇	〇
大豆粕	三一六	二〇	六三二〇	三一六	六三二〇	〇	〇
胡麻粕	二〇	五〇	一〇〇〇	二〇	一〇〇〇	〇	〇
總計			一八〇〇	一八〇	三六〇	〇	〇
米	九四九	〇	五三、九二〇	九四九	五三、九二〇	〇	〇
然料	一七〇	〇	一、五〇〇	一七〇	一、五〇〇	〇	〇
生草	一〇〇	〇	一、八七〇	一〇〇	一、八七〇	〇	〇
層米	二〇〇	〇	三、〇〇〇	二〇〇	三、〇〇〇	〇	〇
稅米	二五〇	〇	二、五〇〇	二五〇	二、五〇〇	〇	〇
麥	九、二〇〇	〇	七〇〇	九、二〇〇	七〇〇	〇	〇
米	二〇〇	〇	二、〇〇〇	二〇〇	二、〇〇〇	〇	〇
大豆	八〇	〇	四、〇〇〇	八〇	四、〇〇〇	〇	〇
總計			五三、九二〇	一八〇	三六〇	〇	〇

(七) 原料助成品

原料助成品名	數量	單價	價額	自給		購入	
				數量	價額	數量	價額
堆肥	三、八四〇	六〇	二三〇、四〇〇	三、八四〇	二三〇、四〇〇	〇	〇
生草	五二〇	一五〇	七、八〇〇	五二〇	七、八〇〇	〇	〇
紫雲英	一、二一七	四〇	八〇〇	一、二一七	八〇〇	〇	〇
青葉	三〇六	一五	四、五九〇	三〇六	四、五九〇	〇	〇
薪炭	二〇〇	一七	三、四〇〇	二〇〇	三、四〇〇	〇	〇
豆殼	三、九〇〇	一〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	〇	〇
麥稈	四〇〇	一〇	四、〇〇〇	四〇〇	四、〇〇〇	〇	〇
製茶原料	九六	二〇	一、九二〇	九六	一、九二〇	〇	〇
清酒	三、七五	一七	六、三七五	三、七五	六、三七五	〇	〇
總計			二、二九二	一八〇	三六〇	〇	〇

(八) 雇人費

糞加工原料	二〇〇,〇〇〇	一七〇	三,四〇〇	二〇〇,〇〇〇	三,四〇〇
石灰硫黄合劑	二〇〇,〇〇〇	四二五	八五〇	二〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇
穀	三四三,七五〇	十	三,四三七	三四三,七五〇	二,〇〇〇
計		一〇〇	六四,一七三		八五〇
					一二,八三三

(九) 租稅諸掛

地租 田租 畑租	人員		賃銀		補助費		計	摘要
	男	女	一人一日賃銀	總賃銀	一人一日補助費	總補助費		
稻作	七	七	三五〇	二,四五〇	二〇〇	一,四〇〇	三,八五〇	計 算の便宜により延人員を掲げ 壯丁に改算せず夜業夜食を含む
麥作	一三	一	二五〇	一四,二五〇	一五〇	八,五五〇	二二,八〇〇	
綠肥作	一	一	三五〇	四,五五〇	二〇〇	二,六〇〇	七,一五〇	
土地改良(男)	一〇	一	三五〇	四,〇〇〇	二〇〇	一,九二〇	五,九二〇	
茶摘採(女)	二〇	二	四〇〇	三,五〇〇	一三〇	二,〇〇〇	五,五〇〇	
計	九四	二〇	一,八〇〇	五〇,〇〇〇	一,三〇〇	二〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	
地方稅(地租割)							二,三〇〇	
村稅(地租附加)							二,六八〇	
小作料							四,九九〇	
水防組合費							三〇一,四九六	
農會費							二,四四〇	
茶業組合費							五八〇	
柑橋組合費							一五〇	
其他							四,〇〇〇	
合計							三〇八,八一〇	十二月廿日小作米納入當日地方正米相場十三圓の計算 鐵道用地草刈料其他荷車稅等
合計							三三三,五二六	

(十) 資本利子

項目	金額	利率	摘要
資本利子	一四四,〇九九	年五分	事業資本二千八百八十一圓九十八錢六厘に對する年五分
肥料資本利子	九,〇〇〇	年五分	報徳社より社員連帯にて借入たる資金の分當額百圓に對する利子
準備金利子	一,八〇〇	年六分	準備金三十圓に對する利子
計	一五四,八九九		

支出總計 千四十六圓六十三錢六厘

收支差引利益金五百〇七圓十三錢六厘

乙、家計收支決算

(一) 家計收入

計	金額	摘要
財產所得	五〇七、一三六	
農業利益	一四四、〇九九	
農業資本利子	二二、七九〇	
家計收入	五二、七六〇	
雜報	二五、〇〇〇	
計	七五〇、七八五	
灰類	五圓三十錢	米磨水
報酬は農會役員	五十錢	茶業總代
茶業總代	五十七錢	衛生委員
衛生委員	二十六錢	下肥
下肥	十圓五十錢	
社交其他		

(二) 家計費

居住費	金額	摘要
六、七〇〇		家計に屬する建物資本利子償却金及修繕費にして敷地資本利子は約二十坪と見積本項に計上せり
食料費	二八六、〇〇九	
主食品	十石八斗	粳米
副食品	八斗六升	糯米
嗜好品	一石一斗八升	精麥
酒	二石七斗三升八合	味噌
食	六圓七十二錢六厘	金山寺味噌
食	三圓三十錢	醬油
食	八圓四十錢	鹽
食	四圓五十錢	茶
食	一圓五十錢	菓物(蜜柑、柿)
食	十六圓	燒米
食	十五錢	

(三) 收支決算

被服費	金額	摘要
三七、三五〇		綿糸 四圓三十錢 染賃 八圓 織物 十五圓 寢物 十圓
家具費	五、〇〇〇	家事用具新調修繕
消耗品費	三〇、〇〇〇	石油 四圓五十錢 薪炭及藁 二十一圓五十錢 蠟燭燭寸等 五十錢
教育費	三、〇〇〇	文房具 一圓 其他 二圓五十錢
圖書費	三、〇〇〇	新聞及書籍
交際費	二、〇〇〇	社交通信費
諸掛費	二、四六〇	戶數割 十圓十錢 赤十字社年酬金 三圓 水車割 五圓 社寺寄附 二圓
雜費	五、〇〇〇	義務義捐 二圓 其他 二圓五十錢
臨時費	九、五〇〇	娛樂費其他
計	四三三、一五九	醫藥見學旅行社寺參詣等

丙、部分的收支

一、稻作

田	畝	作地	摘要
一毛	三反九畝	稻作	
二毛	五反六畝	稻	紫雲英
三毛	四反步	稻	刈豆
四毛	七畝	稻	稻苗代其他

三毛作地 一町三畝 二反一畝 稻、麥、紫雲英間作
八反二畝 稻、麥、刈豆間作

(一) 收入

米 屑 種 批 穀 計	作付總反別ニ對スル收入		作付一反歩ニ對スル收入	
	數	價	數	價
米	六三、〇七〇	八二二、八一〇	二、五七四	三三、五八四
種	一、六八〇	一一、七六〇	六九	四八〇
批	七五〇	六、〇〇〇	三一	二四五
穀	二、五〇〇	二、五〇〇	一〇一	一〇〇
計	三四三、七五〇	三、四三七	一三八〇〇	一五二
	三四〇、〇〇〇	六〇、一八〇	一四四、四九〇	二、四五六
		九〇六、六八七		三八、一九六

(二) 支出

種 類	數	作付總反別ニ對スル支出		平均一反歩ニ對スル支出
		量	價	
種 類	六〇〇	四八〇〇	一九六	
胡 麻 粕	二〇八、〇〇〇	四三、〇五六		
大 豆 粕	一五四、〇〇〇	三〇、三三八		
過 燐 酸 石 灰	三、六〇〇	三、四四八		
肥 料 石 灰	一五〇、〇〇〇	三、七五〇		
堆 肥	六五〇、〇〇〇	九、七五〇		
糞 肥	二〇、〇〇〇	五〇〇		
糞 灰	五二二、〇〇〇	八、八四七		八、七三八

備 考	備 考	
	數	價
青 刈 大 豆	三〇六、〇〇〇	四五、九〇〇
紫 雲 英	四九〇〇、〇〇〇	六三、〇〇〇
備 人 費	男七 女三九	二二四、〇八九
建 物 費	全事業建物費の六割五分	二六、六五〇
農 具 費	製茶用を省きたる殘部の	二、二二六
租 稅 掛 費	田に關するもの六割	一四、三三五
馬 利 子	純馬匹の勞役(使用者の	一八五、二〇八
資 本 利 子	賃銀を含まず)	一一、九〇七
合 計	茶に屬するものを除きた	六三、六四九
	る六割五分	三〇三、九七五
		五一八、〇六四
		九、七三四
		一、〇八八
		九一
		五八五
		七、五六〇
		四八六
		二、五九七
		一一、四〇七
		二二、一四一

備考 建物費以下の算出は各作業に使用せる割合に應し見積を以て定む

(三) 收支差引

總反別に對する 平均一反歩に對する	收 入		支 出		差引損益	摘 要
	數	價	數	價		
	九〇六、六八七	五一八、〇六四	三三八、六二三	一六、〇五五	益金は自家労働賃銀に當る	
	三八、一九六	二二、一四一				

(四) 自家労働一人一日に對する算當

稻作労働日數	益 金	一 人 一 日 二 對 ス ル 益 金	摘 要
三六四、七	三八八、六二三	一、〇六六	

二、麥作

一、田一町三畝 間作刈豆八反二畝 間作紫雲英 二反一畝

(一)、收入

麥 稈 計	及 其 他	總		作付平均一反步	
		數	價	數	價
		一〇、四九〇	七六、九四〇	一〇、一八	七、四六八
		三八五、〇〇〇	三、〇八〇	三七、三七九	二、九九
			八〇、〇二〇		七、七六五

(二)、支出

種 子 計	肥 料 計	總		作付平均一反步	
		數	價	數	價
大麥	胡麻粕	二〇、〇	四二、〇	一、〇〇〇	四、三九三
小麥	胡麻粕	五、〇	四二、〇	五〇〇	四、七二
	胡麻粕	四、〇〇〇	四、〇〇〇	三、三六〇	
	鹽荒粕	一〇、〇〇〇	八、二八〇	四、八六〇	
	過燐酸石灰	二、三〇〇	五、〇〇〇	二、一四八	
	葉灰	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	一〇、五三〇	
	堆肥	五二六、〇〇〇	一〇、五三〇	一六、八〇〇	
	人糞尿	一二〇〇、〇〇〇	一六、八〇〇		

雇人費	建物費	農具費	租稅掛費	馬糞費	資本利子	合計
男一三三 女一一、二	男一、二 女一、二	男一、二 女一、二	男一、二 女一、二	男一、二 女一、二	男一、二 女一、二	男一、二 女一、二
四、三九三	一、二六九	六、八三五	五、九九四	三、八〇三	一、二、四六八	一七、三三三

備考 建物費以下は各使用の割合に應じ見積を以て算出す

(三)、收支差引

作付總反別に對	作付平均一反步に對	收入	支出	差引損益	摘要
八〇、〇二〇	一七八、五三〇	七、七六五	一七、三三三	九八、三三〇	九、五六八

自家勞働一人一日に對する算當

麥作自家勞働日數	損	金	一人一日に對する損益	摘要
一四九、二	九八、三三〇	一、六五九		

三、綠肥